

学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習状況の評価の実施について

－「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する事例－

令和5年10月

全国商業高等学校長協会

目 次

はじめに	1
------	---

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

1 基礎的科目

北海道	北海道旭川商業高等学校【ビジネス基礎】	2
宮城県	宮城県南三陸高等学校【ビジネス基礎】	4
山形県	山形市立商業高等学校【ビジネス基礎】	6
東京都	東京都立江東商業高等学校【ビジネス基礎】	8
石川県	石川県立小松商業高等学校【ビジネス基礎】	12
福井県	福井県立若狭東高等学校【ビジネス基礎】	14
静岡県	静岡県立浜松商業高等学校【ビジネス基礎】	16
岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校【ビジネス基礎】	18
三重県	三重県立松阪商業高等学校【ビジネス基礎】	20
滋賀県	滋賀県立大津商業高等学校【ビジネス基礎】	22
兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校【ビジネス基礎】	24
島根県	島根県立出雲商業高等学校【ビジネス基礎】	26
広島県	広島県立広島商業高等学校【ビジネス基礎】	28
徳島県	徳島県立吉野川高等学校【ビジネス基礎】	30
愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校【ビジネス基礎】	32
福岡県	福岡県立小倉商業高等学校【ビジネス基礎】	34
佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校【ビジネス基礎】	36
長崎県	長崎県立壱岐商業高等学校【ビジネス基礎】	38
群馬県	群馬県立伊勢崎商業高等学校【ビジネス・コミュニケーション】	40
石川県	石川県立金沢商業高等学校【ビジネス・コミュニケーション】	42
福井県	福井県立奥越明成高等学校【ビジネス・コミュニケーション】	46
滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校【ビジネス・コミュニケーション】	48
京都府	京都府立丹後緑風高等学校【ビジネス・コミュニケーション】	50

2 マーケティング分野

秋田県	秋田市立秋田商業高等学校【マーケティング】	52
神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校【マーケティング】	54
新潟県	新潟県立三条商業高等学校【マーケティング】	56
岡山県	岡山県立和気閑谷高等学校【マーケティング】	58
熊本県	熊本県立菊池高等学校【マーケティング】	60
神奈川県	神奈川県立平塚農商高等学校【商品開発と流通】	62

3 マネジメント分野

宮城県	仙台市立仙台商業高等学校【ビジネス・マネジメント】	64
山梨県	甲府市立甲府商業高等学校【ビジネス・マネジメント】	66
大阪府	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校【ビジネス・マネジメント】	68
兵庫県	兵庫県立小野高等学校【ビジネス・マネジメント】	70
鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校【ビジネス経済応用】	72
埼玉県	埼玉県立熊谷商業高等学校【企業分析（学校設定科目）】	74

4 会計分野

秋田県	秋田市立秋田商業高等学校【簿記】	76
山形県	山形県立米沢商業高等学校【簿記】	80
福島県	福島県立若松商業高等学校【簿記】	82
茨城県	茨城県立水海道第二高等学校【簿記】	84
栃木県	栃木県立栃木商業高等学校【簿記】	86
山梨県	甲府市立甲府商業高等学校【簿記】	88
新潟県	新潟県立新潟商業高等学校【簿記】	90
富山県	富山県立高岡商業高等学校【簿記】	92
三重県	三重県立宇治山田商業高等学校【簿記】	94
奈良県	大和高田市立高田商業高等学校【簿記】	96
和歌山県	和歌山県立箕島高等学校【簿記】	98
和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校【簿記】	100
島根県	島根県立浜田商業高等学校【簿記】	102
岡山県	岡山県立邑久高等学校【簿記】	104
山口県	山口県立徳山商工高等学校【簿記】	106
香川県	香川県立高松商業高等学校【簿記】	108
香川県	香川県立小豆島中央高等学校【簿記】	110
高知県	高知商業高等学校【簿記】	112
長崎県	長崎市立長崎商業高等学校【簿記】	114
宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校【簿記】	116
鹿児島県	鹿児島商業高等学校【簿記】	118
沖縄県	沖縄県立浦添商業高等学校【簿記】	120
青森県	青森県立青森商業高等学校【財務会計Ⅰ】	122
岩手県	岩手県立盛岡商業高等学校【財務会計Ⅰ】	126
茨城県	茨城県立水戸商業高等学校【財務会計Ⅰ】	128
長野県	長野県蘇南高等学校【財務会計Ⅰ】	130
岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校【財務会計Ⅰ】	132
大阪府	大阪府立住吉商業高等学校【財務会計Ⅰ】	134
徳島県	徳島県立徳島商業高等学校【財務会計Ⅰ】	136

熊本県	熊本県立球磨中央高等学校【財務会計Ⅰ】	138
愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校【財務会計Ⅱ】	140
埼玉県	埼玉県立深谷商業高等学校【原価計算】	142
京都府	京都府立京都すばる高等学校【原価計算】	146
千葉県	千葉県立八街高等学校【ビジネス簿記】	148

5 ビジネス情報分野

岩手県	岩手県立水沢商業高等学校【情報処理】	150
福島県	福島県立福島商業高等学校【情報処理】	152
栃木県	栃木県立佐野松桜高等学校【情報処理】	154
千葉県	千葉県立一宮商業高等学校【情報処理】	156
東京都	東京都立第五商業高等学校【情報処理】	158
長野県	長野県辰野高等学校【情報処理】	162
静岡県	静岡県立島田商業高等学校【情報処理】	164
愛知県	愛知県立豊橋商業高等学校【情報処理】	166
奈良県	奈良県立商業高等学校【情報処理】	168
山口県	山口県立柳井商工高等学校【情報処理】	170
高知県	高知県立伊野商業高等学校【情報処理】	172
佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校【情報処理】	174
鹿児島県	鹿児島県立霧島高等学校【情報処理】	176
青森県	青森県立八戸商業高等学校【ソフトウェア活用】	178
北海道	北海道函館商業高等学校【プログラミング】	182
群馬県	桐生市立商業高等学校【プログラミング】	184
鳥取県	鳥取県立米子南高等学校【プログラミング】	186
大分県	大分県立大分商業高等学校【ビジネス情報】	188
沖縄県	沖縄県立具志川商業高等学校【電子商取引】	190
宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校【AⅠ・データサイエンス演習Ⅰ（学校設定科目）】	192

6 総合的科目

富山県	富山県立富山北部高等学校【課題研究】	194
愛知県	愛知県立愛知商業高等学校【地域協働ビジネス実践（学校設定科目）】	196

おわりに		198
------	--	-----

資料 本部提案テーマ年度別一覧		199
-----------------	--	-----

はじめに

平成 31 年 3 月「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」の通知により、観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点へと整理されました。また、学習評価の実施に当たっては、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価して学習したことの意義や価値を実感できるようにすることや、評価の場面や方法を工夫して学習の過程で生徒にどのような力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉えて評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成を目指す「指導と評価の一体化」の推進が求められています。平成 30 年改訂高等学校学習指導要領総則にも、「指導と評価の一体化」の必要性が明確化されており、学習評価を考えることは学習指導を考えることであり、まさに一体で進めるべきものです。

この「指導と評価の一体化」を図るためには、教員が自らの指導のねらいに応じて授業の中での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが不可欠となります。そのため、新しい学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成するうえで、学習評価は重要な役割を担っているといえます。

これらを踏まえ、令和 5 年度春季研究協議会では、テーマを「学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の在り方」、サブテーマを「探究活動及び観点別学習状況の評価の推進を通して」として、探究活動と 3 観点による観点別学習状況の評価に焦点を絞ってアンケートを実施し、その分析及び考察をまとめて本部提案といたしました。

秋季研究協議会では、「学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習状況の評価の実施について」のテーマで、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例を収集することで、指導と評価の計画や評価方法の留意点、そして評価結果の生かし方等について多角的に討論できるシンポジウムの事例集としてまとめました。

この「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する事例集が、学習成果の的確な把握と次への指導改善の一助として、全国の先生方に役立てていただきますことを心から願っています。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	北海道	学校名	北海道旭川商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	さまざまなビジネス		
指導項目	(1) ビジネスの種類 (2) 小売業 (3) 卸売業 (4) 物流業 (5) 金融業 (6) 情報通信業		
単元の目標	(1) さまざまなビジネスに関する課題を発見しその解決方法を考える。 (2) さまざまな流通活動について自ら学び流通と流通を支える活動に組織の一員としての役割を果たす力を身に付ける。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	さまざまなビジネスについて理解している。また、経済社会における事例と関連付けて理解を深めている。	さまざまな流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	自ら学び、流通と流通を支える活動に組織の一員として役割を果たす力を身に付けるために、主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 ビジネスの種類</p> <p>有形財、無形財の違いと産業分類について理解するとともに、サービス業と製造業の新たな展開について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有形財と無形財を整理し産業分類を理解する。 地域における6次産業化の事例を調べ、その背景やなぜ6次産業化が必要なのかを考察する。 グループごとに、ある製品にどのようなサービスを付加することによって差別化が図られるか話し合う。 	知 思 態	○	<p>有形財と無形財の違いや産業分類について理解をして記述できるか。</p> <p>地域の6次産業化の取り組みを理解し、その理由や地域が抱える課題について考察し記述できるか。ワークシート</p> <p>自分の意見をまとめ、論理的に説明や発表がなされ、主体的かつ協働的な活動がなされているか。ワークシート 観察</p>
第二次 (3時間)	<p>2. 小売業</p> <p>(1) 小売業のビジネス</p> <p>小売業の役割と三つのチェーン化について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小売業の役割とチェーン化の特徴について理解する。 <p>(2) 小売業の種類</p> <p>小売業の種類を業種・業態別に分類し、その特徴を理解するとともにそれぞれの利点と課題について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 業態別の小売業の種類と特徴について理解するとともに地域のスーパーマーケットを調査し、その魅力と課題について考察する。※調査は家庭学習とする。 <p>(3) 小売業の新たな展開</p> <p>業態開発の必要性について理解し、グループ内で自分の意見を論理的に説明し、グループの一員として協働し意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 業態開発についてグループごとに話し合い発表する。 	知 知 思 態 思	○	<p>チェーン化の特徴と具体的な事例を理解し記述できるか。ワークシート</p> <p>小売業の種類を業態別に分類しそれぞれの特徴をワークシートに記述できるか。</p> <p>地域のスーパーマーケットについて意欲的に調査し、その魅力と課題について考察し記述できるか。ワークシート</p> <p>自分の意見をまとめ、論理的に説明や発表がなされ、主体的かつ協働的な活動がなされているか。ワークシート 観察</p>

第三次 (1時間)	<p>3 卸売業</p> <p>卸売業の役割とその種類を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取引数量最小化の原理と不確実性プール原理を通し、社会経済の観点からその役割を理解する。 卸売業の種類を流通経路別、機能別に理解する。 	知	○	取引数量最小化の原理と不確実性プールの原理を理解し記述できるか。 卸売業の種類とその内容を理解し記述できるか。 ワークシート
第四次 (1時間)	<p>4 物流業</p> <p>物流業の役割とその種類について理解するとともに、情報通信技術を使った物流業の新たな展開について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物流の活動(輸送、保管、包装、流通加工、荷役)を理解する。 物流の活動を効率的に行うため、情報通信技術の導入が不可欠であることを理解する。 幕の内弁当が製造され販売される過程で、どのような企業が係わり、物流の活動がどのような役割を担っているか調べる。 <p>※調査は家庭学習とする。</p>	知 思	○	物流の活動を理解し記述できるか。 物流の活動と通信技術を関連づけて記述できるか。 幕の内弁当の生産から販売までの過程で、物流活動がどのような役割を担っているかを様々な観点から考察できているか。 ワークシート
第五次 (2時間)	<p>5 金融業</p> <p>金融業の種類とそれぞれの役割について理解し、金融業界をとりまく制度の変化や情報通信技術を使った新しい展開について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行、証券会社、保険会社の仕組みや業務について理解する。 日本の金利政策について、その社会経済的背景や理由について考察する。 情報通信技術を使った新しい展開について事例を調べる。 	知 思 態	○	銀行、証券会社、保険会社の社会経済的な役割を理解し記述できるか。 低金利政策について、社会の経済活動と関連づけながら、様々な視点から記述できるか。 意欲的な態度で調査しているか。 ワークシート 観察
第六次 (1時間)	<p>6 情報通信業</p> <p>現在、情報通信技術にはどのようなものがあるのか理解し、情報通信業が今後どのように変わっていくのかを考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な情報通信業の事業の種類とそのサービス内容を理解する。 ICTやAIの技術について調査し、自分の身の回りの事象と関連づけながら考察する。 	知 知 思 態	○	ICTやAIの技術の内容について理解し、社会生活の変化について記述できるか。 意欲的な態度で調査しているか。 ワークシート 観察 定期考査

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

知識・技術の評価については、定期考査およびワークシートの設問で評価を行う。

(2)「思考・判断・表現」の評価

ワークシートの設問に対して、調査活動を行い必要な資料や情報を収集し、考察(思考・判断)、記述(表現)の一連の過程を評価する。提出日の厳守、記述方法や内容も評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ワークシートの取り組み状況やグループ活動の様子を観察し評価を行う。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「C」評価の生徒は、ワークシートに無回答があるとともにグループの話し合いに参加できていない面がある。教科書やワークシートを使用しながらの個別指導を行い、グループ内で全員が発言する機会を設けるなど指導方法を再検討する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県南三陸高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	身近な地域のビジネス		
指導項目	さまざまな地域の魅力と課題		
単元の目標	(1) 地元南三陸町のビジネスをはじめ、さまざまな地域のビジネスや地域資源について理解する。 (2) 地元南三陸町のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスアイデアを考えることができる。 (3) 南三陸町のビジネスについて自ら学び、地域資源を生かしたビジネスによる地域活性化に向けて主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地元南三陸町のビジネスをはじめ、さまざまな地域のビジネスや地域資源について理解している。	地元南三陸町のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスアイデアを考えている。	南三陸町のビジネスについて自ら学び、地域資源を生かしたビジネスによる地域活性化に向けて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（1時間）	1 さまざまな地域の魅力と課題 地域ブランディングについて理解する。	態		・メモを取りながら、授業を真剣に聞き、意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート
	・全国的な地域の現状（人口減少、少子高齢化等）を知り、地元南三陸も同じ現状であることを理解する。	知		
	・地域活性化に向けた魅力的な取り組みをしている地域（全国、南三陸町）の事例を知り、地域ブランディングの重要性について理解する。	知	○	・地域ブランディングには、地域資源を理解し、地域資源を生かすことや地域に対するシビックプライドが必要であることを理解している。
	・地域ブランディングには、関わる人がシビックプライドを持つことが必要であることを理解する。	知	○	ワークシート、振り返りシート
・グループで、南三陸町の地域資源（魅力）はどんなものがあるか、考察する。	思		・グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。 観察、ワークシート	
・振り返りシートを記入し、本時の学習目標の達成度や学習態度などを内省する。	態		・学習目標の達成に向けて、どのように取り組んだのか具体的に振り返ることができる。 振り返りシート	

第二次 (3時間)	<p>2 地域ビジネスの動向</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・南三陸町の地域資源(魅力)を生かしたビジネスについて理解する。 ・地域の課題を発見し、解決策を考案する。 </div> <p>講話(講師:南三陸ビジターセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源である「海」の特徴や現状、それを生かしたビジネスについて理解する。 ・グループで課題の解決方法について、アイデアを考案する。 ・講師からアイデアのフィードバックをいただき、改善が必要な場合は、改善に向けてグループで意見を出し合い、アイデアをブラッシュアップする。 ・振り返りシートを記入し、本時の学習目標の達成度や学習態度などを内省する。 	<p>態</p> <p>知</p> <p>思 ○</p> <p>思 ○</p> <p>態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを取りながら、講師の話を真剣に聞き、意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・南三陸町の現状や、地域資源を生かしたビジネスについて、理解している。 ワークシート ・グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。 観察、ワークシート ・地域の課題を発見し、その解決方法を見いだしている。 観察、ワークシート ・学習目標の達成に向けて、どのように取り組んだのか具体的に振り返ることができる。 振り返りシート
--------------	---	--	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストを実施し評価する。
- ・ワークシートを用いて、必要な知識の理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートを用いて、個人やグループでどのようなアイデアを見出したのか評価する。
- ・ルーブリックを用いて、話し合いの様子などを複数の教員で観察して評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ルーブリックを用いて、講話等の受講の様子や、話し合いの様子などを複数の教員で観察して評価する。
- ・振り返りシートの記入状況を確認し、学習目標に向けての取り組み状況等を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・振り返りシートを用いて、生徒の学びに対する姿勢や理解状況を確認し、教員側の授業計画、授業形態の改善を行う。
- ・話し合い活動等で、思考・判断・表現について「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、授業時の観察の際に生徒の意見を引き出すことができるよう、グループのメンバーへアドバイスしたり、教員がグループワークに入り意見を引き出したりする。
- ・単元における小テストにおいて、知識・技能について「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、個別指導を通して理解を深める。
- ・ルーブリックを用いた観察における評価の際、評価大きな差が生じた場合はルーブリックの項目の確認を随時行う。
- ・ルーブリックの項目が適切か、対象生徒の状態に応じて変更等を行うなど、教員側も授業の振り返りを綿密に行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山形市立商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	ビジネスと売買取引		
指導項目	(1) 売買取引の手順 (2) 代金決済		
単元の目標	(1) 売買取引、代金決済といった実務における取引を理解する。 (2) 取引に関する課題を発見し、その課題への対応策を考える。 (3) 契約と履行について、組織の一員として役割を果たすことができるように主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	売買取引、代金決済といった実務における取引について理解している。	取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1. 売買取引の手順</p> <p>売買取引例から、取引に必要な知識・技術を理解する。</p> <p>・身近な所で実際に行われている売買取引例をグループで話し合い、売り手・買い手がどのような書類をやり取りしているか確認する。</p> <p>・売買取引に必要な書類を実際に記入し、その内容を理解する。</p>	知思 知態	○	<p>・取引について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・売買取引に必要な書類の作成方法を理解している。</p> <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次 (3時間)	<p>2. 代金決済</p> <p>実務の取引についての課題を発見し、その対応策を考察できるようになる。契約履行と締結に関わる手続きを理解する。</p> <p>・売買取引に関する知識や技術をもとに、実務の取引についての課題を発見し、その対応策をグループで話し合ってみる。</p> <p>・契約の履行と締結に関わる書類作成や手続きを理解し、グループ内で実際の取引を行う。</p>	知思 態	○ ○	<p>・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題の対応策を考察している。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・グループ内で実際の取引を行う際に他者と協働しながら意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ① ペーパーテスト（定期考査や小テストなどで知識・技術に関する問題を出題して評価する。）
- ② レポート作成（知識・技術を確認できるテーマでレポートを作成させて評価する。）

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ① ペーパーテスト（定期考査や小テストなどで思考・判断・表現に関する問題を出題して評価する。）
- ② レポート作成（思考・判断・表現を必要とするテーマでレポートを作成させて評価する。）
- ③ 作品制作（思考力・判断力・表現力を活かした作品を制作させて評価する。）
- ④ グループ活動（グループ学習させ、評価するポイントを明確にして評価する。）

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ① ペーパーテスト（定期考査や小テストなどで思考・判断・表現に関する問題を出題して評価する。）
- ② レポート作成（思考・判断・表現を必要とするテーマでレポートを作成させて評価する。）
- ③ 作品制作（思考力・判断力・表現力を活かした作品を制作させて評価する。）
- ④ グループ活動（グループ学習させ、評価するポイントを明確にして評価する。）

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

身近な所で実際に行われている売買取引例や実務取引についての課題を出し合うための話し合いはメンバーによってはなかなか進まないことがあるため、教員のアドバイスや支援が必要になる。

生徒が記入するワークシートに目を配り、必要に応じてグループのメンバーを変更するなど、工夫しながら授業を進めたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	東京都	学校名	東京都立江東商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	商業の学習とビジネス		
指導項目	私たちの社会とビジネス		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活とビジネスが密接にかかわっていることを学ぶ。 ・ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学ぶ。 ・調べ学習で主体的に学ぶ力を、グループワークで他者と協同する力を身につける。 ・商業科目の導入となる本科目で、スマートスクール端末を用いて正しく情報収集する力を身に付ける。 		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活とビジネスが密接にかかわっていることを理解している。 ・ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例を踏まえて考え、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活とビジネスがどのようににかかわっているか、授業を通して考え、自分の言葉で表現することができる。 ・ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例を踏まえて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習で主体的に取り組んでいる。 ・グループワークで他の生徒と意見を交換し、話し合うことができている。 ・提出物を期日通りに提出することができる。

1 指導と評価の計画（ 6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1. いざ、ビジネスの世界へ</p> <p>私たちの生活が豊かで便利になっているのは様々なビジネスがあるからだということを理解する。</p> <p>○グループワーク ・普段購入する商品（サービスを含む）を挙げ、どのような点で便利になったかについてワークシートに記入する。</p> <p>○ワーク ・テキストに沿って「今、ビジネスの世界は」で商業を学ぶ意義についてワークシートを用いながら確認する。 ・ビジネスで必要な心構えを、具体的なシーンを想定しながら学ぶ。 ・商業科で学ぶ分野について理解する。</p> <p>○振り返りシートの記入 ・グループワークの取組を自己評価し、他の生徒の取組を相互評価しながら本単元を振り返る。</p>	思 態	知	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活にかかわるビジネスの具体例を挙げるグループ活動に主体的、協働的に取り組もうとしている <p align="center">観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ意義について理解している。 <p align="center">観察、ワークシート</p>

<p>第二次（4時間）</p>	<p>2 私たちの生活とビジネス</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 で学んだ生活とビジネスの関わりをより深く学び、私たちの生活は生産と流通の働きによって支えられていることを理解する。</p> </div> <p>○ワーク 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会を支える生産・流通・輸送・保管・金融・情報通信といったビジネスと、ビジネスが目指すものについて教科書を用いて整理し、理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>社会の変化にともなってビジネスも変化してきていることを理解し、それぞれの社会的変化がもたらした具体的事象や影響について考察する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 産業構造のビジネスについて、年代と背景とともにその変化を考察する。 <p>○グループワーク 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報化が日本の経済に与える影響と、情報化で必要になる能力を、ワークシートを用いて個人で考察し、それをもとにグループで話しあう。 グループで話し合った内容について、代表者が発表する。 <p>○ワーク 2</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化の定義を教科書で確認し、グローバル展開している企業の具体例を調査して挙げ、海外展開する際に注意すべきことを考察し、ワークシートに記入する。 <p>○グループワーク 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京のビジネスの『国際都市「東京」』を用いて、オリンピック・パラリンピックの開催がもたらした経済効果について話し合う。 グループで話し合った内容について、代表者が発表する。 <p>○ワーク 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京のビジネスの『観光都市「東京」』を用いて、東京の観光事業が大きく伸びていることを学び、インバウンドに人気の東京の観光地を調べ、今後さらに観光地としての人気を確立していくためにはどうすればいいかをワークシートを用いて考える。 <p>○ワーク 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境、エネルギー、食料、食品、人口構造の変化、福祉など現在日本において起きている社会的な課題を解決しているビジネスについて教科書を用いて学び、教科書の例以外にどのようなビジネスがあるか調べてワークシートに記入する。 <p>○振り返りシートの記入</p> <p>グループワークの取組を自己評価し、他の生徒の取組を相互評価しながら本単元を振り返る。</p>	<p>知 態</p> <p>知 思 態</p> <p>思 態</p> <p>知 思</p> <p>知 思 態</p> <p>知 思 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会を支えるビジネスと、ビジネスが目指すものについて理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>観察、ペーパーテスト（単元テスト・定期考査）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 産業構造とビジネスの関係、情報化、グローバル化について関心を持って考察し、説明しようとしている。 グループワークにおいて、主体的に取り組み、また他のグループの発表を聞いて、自己の見方・考え方を調整しようとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>観察、ペーパーテスト（単元テスト・定期考査）、ワークシート</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 東京の観光地について積極的に調べようとし、東京の観光の今後の見通しを発見し、提案している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>観察、ワークシート</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な課題を解決するビジネスについて理解し、主体的・協働的に取り組もうとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ペーパーテスト（単元テスト・定期考査）、ワークシート</p> </div>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期テストや振り返りテストの回答をもとに知識が定着しているかを評価する。
- ・ワークシートを回収し、テーマに対して必要な情報を収集することができたか、その情報から正しい答えを導くことができたかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・定期テストに文章で答える設問を設定し、回答が、論理的な根拠を基に回答できているかを評価する。
- ・ワークシートを回収し、回答を導く思考の過程を適切に表現できているか評価するとともに、生徒の記述を基に、生徒が導き出した思考や表現について評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループワークの際に、自分の意見も主張しつつ、他の生徒の意見をきちんと取り入れながら、グループとして協働しているかどうかを、観察シートを用いて評価する。
- ・ノートやワークシートを丁寧に整理しようとしているか、課題の提出状況はきちんと行われているかについて評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・生徒が行った自己評価やグループでの相互評価を基に、本時の取組について確認するとともに、教師の指導改善に生かす。
- ・「知識・技術」の評価が「C」だった生徒は「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点も「C」だった場合が多く、ワークシートへの取り組み方やグループワークでの議論への参加の仕方の指導を行った。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立小松商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	企業活動の基礎		
指導項目	(5) 企業活動 ア 企業活動の形態と組織 イ マーケティングの重要性と流れ ウ 資金調達 エ 財務諸表の役割 オ 企業活動に対する税 カ 雇用		
単元の目標	(1) 企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解する。 (2) 企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。 (3) 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 ビジネスと企業 企業経営に必要な知識や思考力を身に付ける。 ・企業はなぜ社会的責任を果たさなければならないのか理解し、企業倫理について考える。 ・組織運営に対して大切なことを理解し、さまざまな企業の経営理念を調べる。 ・経営戦略とプロジェクト・マネジメントについて理解する。 ・PDCAサイクルについて理解し、定期考査を題材にしたPDCAサイクルを考える。	知		・経済社会の事例を用いて、企業にとって大切なことを理解している。 ワークシート
第二次 (1時間)	2 マーケティングの重要性 商品が売れるために、企業がおこなうマーケティングについて考える。 ・マーケティングの重要性について理解する。 ・少人数のグループで、マーケティングの内容を考える。 ・Calbeeのじゃがりこの事例について学ぶ。	思		・マーケティングの重要性を理解したうえで、商品が売れる方法について考え、まとめている。 Google ドキュメント

<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 資金調達</p> <p>資金を調達する方法について理解し、自分の意見を持つことができる。</p> <p>・グループごとに調べる資金調達の方法を指定し、Google スライドにまとめ、ほかのグループの生徒に教えあう。 ・4つの資金調達の方法を聞いて、指定された企業に適した資金調達案を考え、Google Forms で回答する。</p>	<p>思</p>		<p>・資金を調達する方法について理解し、資金調達方法の選択とその配分について理由とともに考えることができる。</p> <p>Google Forms</p>
<p>第四次 (1時間)</p>	<p>4 財務諸表の役割</p> <p>財務諸表の本来の役割を理解し、説明できる。</p> <p>・財務諸表について、簿記で学習した内容も含め、理解する。 ・財務諸表の種類について、調べる。 ・利害調整機能、情報提供機能について学び、自らの言葉でまとめる。</p>	<p>知</p>		<p>・財務諸表の本来の役割について、説明している。</p> <p>Google Forms</p>
<p>第五次 (1時間)</p>	<p>5 企業活動と税</p> <p>企業と税の関係について理解し、納税者としての自覚を持つ。</p> <p>・Google Forms に知っている税を記入し、テキストマイニングで共有する。 ・税金についての既習事項を復習する。 ・身近な消費税の仕組みについて理解する。 ・申告と納付の方法について理解する。</p>	<p>態</p>	<p>○</p>	<p>・企業活動と税について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p> <p>観察、Google Forms</p>
<p>第六次 (2時間)</p>	<p>6 雇用</p> <p>雇用について企業、労働者双方の立場に立って考える。</p> <p>・雇用は人々にとって重要であることを理解する。 ・働き方や雇用制度について理解する。 ・自分ならどのような働き方を選択するか、選択した雇用制度の改善点を考え発表する。</p>	<p>思</p>		<p>・自らの働き方や雇用制度の改善点について考察している。</p> <p>Google ドキュメント</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
ワークシートを用いて、様々な情報を収集し、整理されているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に適切に判断し結果を表現できているかを評価する。
加えて、グループワーク等を踏まえ、自らの考えを分かりやすく伝えているかを評価する。
また、情報共有を行う上で、Google スライド等を効果的に取り入れるなどの工夫が必要である。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループ活動を通し、その結果を導き出す過程における個々の取り組みを観察し、評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「思考・判断・表現」が努力を要する状況の生徒に対しては、課題に対する取り組み状況が不十分であった。それらの生徒に対しては、教科書等を用いて補足するとともに事例を用いて補完指導を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立若狭東高等学校	
科目名	ビジネス基礎			
単元名	ビジネスとコミュニケーション			
指導項目	1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用			
単元の目標	ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を学ぶ。 ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行う。			
単元の 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度	
	ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。情報を入手して活用し、評価・改善している。	ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。	ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
1 指導と評価の計画（7時間）				
時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
3	1. コミュニケーション ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を理解する。 ・グループで、良いコミュニケーションと悪いコミュニケーションの事例を発表し合い自分の発言と他者の発言を区別しながら具体例を整理する。 相手に好感を持たれる話し方、相手に気持ちよく話してもらい聞き方のポイントを理解する。	知 態	○	ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">観察、ワークシート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ペーパーテスト(定期考査)</div>
3	2. ビジネスマナー ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 ・グループで基本的なマナーについてロールプレイングを、いろいろな設定をいろいろな設定で行う。	思 態	○	ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">観察、ワークシート</div>

2	<p>3. 情報の入手と活用</p> <p>企業活動における情報の重要性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の活用及び評価・改善を行います。 	知 態	○	<p>情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p> <div data-bbox="943 275 1227 324" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観察、ワークシート</div> <div data-bbox="943 371 1235 421" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペーパーテスト(定期考査)</div>
---	--	--------	---	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- 定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- 思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートのつくりの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があると同時に、ビジネスにおける信頼関係構築の意義や情報の、課題に関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、教科書等でビジネスの動向・課題を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、演習においても、適切な対応ができなかったため、授業においては演習グループ内での支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立浜松商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	企業の形態と組織		
指導項目	(5) 企業活動 ア 企業の形態と組織 イ マーケティングの重要性と流れ ウ 資金調達 エ 財務諸表の役割 オ 企業活動に対する税 カ 雇用		
単元の目標	(1) 企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解する。 (2) 企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。 (3) 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	1 企業とは			
	<ul style="list-style-type: none"> 企業の役割や種類を理解する。 企業倫理について考える。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 企業が世の中で果たす役割を考察し、現実の企業活動に結びつけて理解している。 ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 企業の役割や企業が存続していくために大切なことについて、「付加価値」や「アントレプレナーシップ」をキーワードに理解する。 企業の経営について、企業の経営資源に着目して理解する。また、ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源について、具体例を整理する。 私企業、公企業、公私合同企業の違いに着目し、出資者や出資者の責任範囲に応じて異なる企業の種類を理解する。 株式会社の特徴を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、言葉とその意味を考えて整理し、表現をする。 	知 思	○	<ul style="list-style-type: none"> 企業経営について、企業の経営資源に着目して考察し、ヒト・モノ・カネ・情報の各経営資源について、様々な角度から考察している。 ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 私企業、公企業、公私合同企業の違いに着目し、出資者や出資者の責任範囲に応じて異なる企業の種類を理解する。 株式会社の特徴を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、言葉とその意味を考えて整理し、表現をする。 	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> 出資者や出資者の責任範囲の違いから企業の種類を理解している。 ワークシート、ペーパーテスト（定期考査）
	<ul style="list-style-type: none"> 企業倫理の意味を理解し、具体的にどのような活動が実社会で行われているのかを理解する。 企業倫理の考えが企業にとってなぜ必要になるかについて話し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、言葉とその意味を考えて整理し、表現をする。 	知 思 態		<ul style="list-style-type: none"> 実際の企業が行っている企業倫理に関わる具体的な行動について理解している。 ワークシート
				<ul style="list-style-type: none"> 企業倫理の意味を考察するとともに、企業倫理について関心を持ち、自ら意欲的に説明しようとしている。 ワークシート

第二次 (2時間)	<p>2 経営組織の種類と運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業組織について理解する。 ・ 企業組織の種類について理解し、それぞれの違いからその特徴を理解する。 ・ 実際の企業の経営理念を読み、その企業が何を販売して、どのような事例を持ち、何が成功に導いたのかについて整理する。 	知 態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴の違いから企業組織の種類を理解している。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を読み取り、実在の企業が、経営理念を基にどのような活動をし、成功に結び付いたのかについて関心を持ち、自ら意欲的に説明しようとしている。 <p>ワークシート</p>
第三次 (1時間)	<p>3 経営戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の経営戦略について考える。 ・ 競争戦略と全社戦略について考察し、それぞれの違いからその特徴を理解する。 ・ サブスクリプションなどの用語について、実際にどのような事例があるのかを自分の言葉で表現をする。 	知 態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競争戦略と全社戦略の違いを整理し、理解している。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サブスクリプションなどの現在よく用いられる言葉に興味を持ち、どのような事例があるのかについて自ら意欲的に説明しようとしている。 <p>ペーパーテスト (定期考査)</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・ ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているか評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。
- ・ 定期考査の解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ ワークシートを用いて、なぜその考えが大切であるのかを自ら考え、判断し、記述することができているかを評価する。
- ・ 定期考査では、事例等を自分自身で考え、判断し、自分なりの方法で表現ができているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。事例を読み、自分なりの解釈を加えることで要点を押さえ、理解がどのように変容していったかを読み取れるように留意する必要がある。
- ・ 定期考査では、知識として身につけた言葉の意味を普段の生活に落とし込み、自らの言葉で説明できているかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があるほか、各項目の「知識・技術」の理解についても不十分であった。また、自らの言葉で説明する際の説明方法に不備があることや各事例と教科書で学んだことをうまく結びつけられていないことも分かった。そこで、それらの生徒には、教科書等で企業の形態と組織について確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに授業においては、グループワーク中であっても個別指導を行い、特に記述指導を充実させていくこととした。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	売買取引と決済		
指導項目			
単元の目標	(1) 売買取引と代金決済の方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 売買取引と代金決済の方法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。 (3) 売買取引と代金決済の方法について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	売買取引と代金決済の方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	売買取引と代金決済の方法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	売買取引と代金決済の方法について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 売買取引の手順 売買取引の手順、代金の決済方法を簿記での取引と関連付けて理解する。 ・グループで売買取引のロールプレイングを行い、売買取引の条件や、必要な書類を理解する。 ・売買取引に必要な書類と、簿記で学習した内容と関連付けて整理し、書類の必要性を考えることができる。	態 知 思	○ ○	・売買取引のロールプレイングに意欲的に取り組み、理解しようとしている。 観察・ペーパーテスト ・売買取引に必要な書類と、簿記での学習を関連付けながら書類の必要性について理解しようとしている。 ワークシート
第二次 (3時間)	2 代金決済の方法 様々な代金決済の方法や、それぞれのメリット・デメリットを理解し、社会や企業への影響を考察する。 ・手形・小切手の代金決済の方法をまとめ、どのような特徴であるか、どのような違いがあるかを捉える。 ・そのほかの代金決済方法には何があるか、教科書、金融機関のパンフレット等を参照して調べ、各決済方法のしくみやメリット、デメリットについて整理する。 ・キャッシュレス化に関する記事を読み、キャッシュレス社会の現状を理解するとともに、社会や企業にとってどのような影響があるかを考察し、グループで交流する。	知 知 態 思	○ ○	・手形・小切手の決済方法について理解し、説明している。ペーパーテスト ・各代金決済方法のメリット、デメリット理解している。ワークシート ・キャッシュレス化に関する記事を読み、社会や企業に与える影響を多面的にとらえ、考察している。観察、ワークシート

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートへの記述内容を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートへの記述内容を基に、考察内容が具体的であるか、また客観的な事実から自分の意見を述べることができているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・個人やグループにおける活動の時間に、課題に取り組んでいるかを観察する。また、ワークシートに活動の感想や考えたことを記入させ、その内容で主体的に取り組むことができたかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・知識・技術がC評価である生徒については、グループ内で教えあう時間を作る等して生徒の理解を高める時間を確保する。また、思考・判断・表現の評価がC評価である生徒に対しては、補助となる他の資料を用意し、ステップを踏んで思考が深まるように工夫する。

評価の例

B 評価の記入例

一つの取引を行うまでに多くの書類が必要であった。

取引の条件を明確にし、取引をスムーズに行うために書類が必要となる。

A 評価の記入例

一つの取引が実行されるまでに、多くの書類のやり取りがあった。

書類には、数量や金額などを記入することで、取引条件を明確にする役割がある。

また、納品書や領収証は、簿記で学習した証ひょうの役割を果たしている。そのために

取引で書類を作成することが必要である。

この授業での目標が、「売買取引に必要な書類と、簿記で学習した内容と関連付けて整理し、書類の必要性を考えることができる。」としてあるので、簿記の学習内容と明確な関連付けができるかどうか、がA評価であるか、B評価であるかの基準となる。A評価の記入例では、証ひょうというキーワードが示され、簿記で学習した内容と、売買取引の書類の関連付けができている。

B評価の記入例では、取引に書類が必要であることを認識できているが、簿記との関連付けが明確でなく、必要性を表す言葉が抽象的であることから、B評価とする。

ここで、気づいたことを記入することができないC評価の生徒については、授業内でグループの生徒と交流させたうえで、記入を促し、また教科書を確認させることで、売買取引における書類の必要性を考えさせる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立松阪商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	流通を支える活動		
指導項目	(3) 経済活動と流通 ア. 経済の基本概念 イ. 流通の役割 ウ. 流通を支える活動		
単元の目標	(1) 経済と流通について、経済社会における具体的な事例と関連付けて理解する。 (2) 経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。 (3) 経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・卸売業と小売業の分類と機能及び小売業の業態について、具体的な事例と関連付けて理解している。	・流通の役割と課題について、生活水準の向上や生産の高度化などによる生産と消費の隔たりの拡大と関連付け、具体的な事例を踏まえて考案している。	・流通の役割と課題について、自ら学び、社会の変化に合わせた流通の役割の考案について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1. ビジネスの種類</p> <p>ビジネスの種類、ものとサービスの違いについて、身近な商品の流通から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークを通して、身近にある商品が消費者の手元に届くまでに、どれだけの人々が関係しているか、業種の役割から考察する。 身近な商品に係わる業種の役割を整理し、新たなビジネスを展開していく上で、流通がどのような役割を果たしていくべきか考察する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 課題について理解し、業種の業務内容と関連付けて記述している。 観察、ワークシート 業種の役割を整理する活動について、自らの学習とともに、他者の意見を調整しながら取り組んでいる。 業種の役割について、基礎的な知識を理解している。 ワークシート、観察、ペーパーテスト
第二次 (2時間)	<p>2. 業種・業態の役割と課題</p> <p>産業の分類と役割・課題を理解し、課題について主体的に考察できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1次で取り上げた業種の役割を1つ取り上げ、グループワークを通して、その問題点や課題を考察し、解決策を提案する。 	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの様子から粘り強く取り組もうとしている。 自らの学習とともに、他者の意見を調整しながら取り組んでいる。 業種の役割や課題を理解した上で、解決策を提案している。 観察、ワークシート

<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3. 新たなビジネスの展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>社会の変化や市場ニーズに対応したビジネスの動向を捉え、新たなビジネスについて主体的に考察することができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次で取り上げた業種の役割と課題に対する解決策について、グループワークで議論し、新たなビジネスを提案する。 ・グループワークで考案したビジネスを発表し、クラス内で共有する。 ・学習の取り組みについて、自己評価と相互評価を行う。 ・これからの社会で求められるビジネスはどのようなビジネスだろうか、これまでの学習を振り返りながら説明する。 	<p>知 思 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな業種の展開について、基礎的な知識を理解している。 ・グループワークの様子から粘り強く取り組もうとしている。 ・自らの学習とともに、他者の意見を調整しながら取り組んでいる。 ・考案したビジネスを受け入れてもらえるよう、意欲的に発表に取り組んでいる。 <p>○ 自己評価において、業種の役割と課題について、自らの考えが記載されている。</p> <p>○ 相互評価において、自らの学習とともに、他者の意見を調整しながら取り組んでいることが見取れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ワークシート、観察、ペーパーテスト、 自己評価・相互評価</p> </div>
----------------------	---	----------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ワークシートより、必要な資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。
- ・ペーパーテストより、各設問への解答を基に、業種に係わる基礎的な知識と業種の課題について理解しているかを評価する。この単元では、中間または学期末に実施するペーパーテストでの評価を想定しているが、このほかにも、単元ごとの小テストなど、様々な場面で実施することが考えられる。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートにおいて、思考の過程を記述できるようワークシートのつくりを工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループワークにおいて協力して意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・相互評価シートを評価材料として用いる。ただし、あくまでも授業者が把握しきれなかったような、生徒の取組の様子をより正確に把握するための補助的な材料として採用する。グループワークや発表そのものを評価することは難しいため、生徒が他者の発表を見て、どのように考えたのか、他者に対してのアドバイスを記録した相互評価シートを授業者が読み取り、取り組みの様子の評価材料とする。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・生徒に対して自己評価を取るが、そこに記載された内容から、「1. ビジネスの種類」、「2. 業種の役割と課題」、「3. 新たなビジネスの展開」に関する記載内容が不十分であり、興味・関心が薄いことが見取れた生徒は、全般的に成績が低く、特に「主体的に学習する態度」が「努力を要する」(C評価)であった。このような生徒には、個別指導で教科書等を用いて授業内容を確認させるとともに、グループ内での支援を行った。
- ・グループワークにおいて、必要な資料を収集したり意見交換ができない生徒に対しては、ループ内での支援を行った。
- ・ペーパーテストにおいて、「知識・技術」が「努力を要する」(C評価)であった生徒に対しては、個別指導で教科書等を用いて授業内容を確認させた。

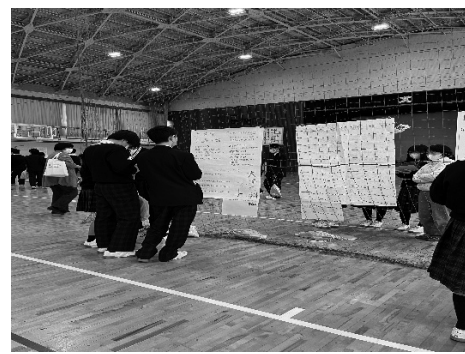
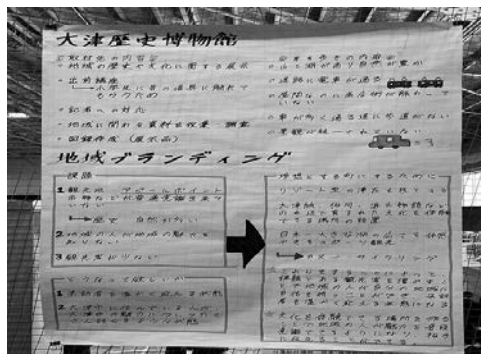
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立大津商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	身近な地域のビジネス		
指導項目	身近な地域のビジネスについて学ぶ 身近な地域の抱える課題や振興策について考える。 ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組む		
単元の目標	学校周辺の地域の魅力と課題を発見し、解決策を主体的に考案できる		
単元の 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な地域の課題や魅力について理解している。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考えている。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（12時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (10時間)	<p>1 さまざまな地域の魅力と課題</p> <p>①地域の現状</p> <p>都市部以外の地域の現状と課題について理解させる。 自分の住む地域の現状と課題について考えさせる。</p> <p>・人口減少や少子高齢化は、私たちの生活や経済にどのような影響があるか考えさせる。 ・人口減少や少子高齢化の対策としてどのようなサービスが展開されているか考えさせ、ロイロノートにまとめグループ内で発表を行い意見を共有する</p> <p>②地域活性化の動き</p> <p>地元の地域における地域活性化の動きについて調べ現状の課題や改善案について考えさせる。 ・地域を活性化させるために、どのような取り組みをすれば良いと思うか考えさせる。</p> <p>・地域ブランディングを成功させるポイントについて考えさせる←滋賀県が誇る近江商人の活躍を学び、それぞれの出身地で分けられる近江商人について各自で調べロイロノートにまとめグループ内で発表し共有する。 ・4人一班編制で学校周辺の商店街のお店や地域活性化のためのビジネスを展開されている機関に出向き、インタビューを行い、各班で地域の課題を発見し、解決策を考える。(事前に訪問先の企業を調べインタビュー内容を考えまとめる。インタビューの仕方やマナーなどを身につける。)</p> <p>←ロイロノートを使い、班ごとにまとめる。クラス内で短時間でまとめた内容を発表し共有する。 ←模造紙1枚に班ごとに課題や解決策、地域</p>	知 態 思 知 態	○ ○	<p>・人口減少や少子高齢化が、私たちの生活や経済に具体的のどのような影響があるのか理解している。</p> <p align="center">発表スライド、観察、ペーパーテスト(定期考査)</p> <p>・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてビジネスの振興策を考えている。</p> <p>・近江商人の三方よしの理念を理解し、現在のビジネスにどのように活用されているか理解する。</p> <p align="center">発表スライド、観察、振り返りシート、ペーパーテスト(定期考査)</p>

	ブランディング等をまとめ、学年全体でポスターセッションを行い、学年で様々な課題発見や解決策、地域ブランディングの案を共有する。			
第二次(5時間)	<p>2 地域ビジネスの動向</p> <p>①地域密着型ビジネス</p> <p>地域ビジネスの必要性を理解する。 地域ビジネスが抱える課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が住む地域の地域密着型ビジネスについて調べ、どのように貢献しているのかを考える。 学校周辺の地域の魅力を発掘するビジネスやそのビジネスをサポートしている機関を知り、各班で地域の魅力を発見する。 <p>←模造紙1枚に班ごとに学校周辺の地域の魅力を発見したことをまとめ、学年全体でポスターセッションを行い、学年で発見した魅力を共有する。</p>	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域ビジネスの地域活性化が果たす役割を理解している。 自分が住む地域の地域密着型ビジネスがどのように貢献しているか考えられる。 身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる <p>発表スライド、ポスター、観察、振り返りシート、ペーパーテスト(定期考査)</p>



2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- 定期考査や確認テストの各設問を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- 思考の過程を記述できるようにロイロノートを使いスライドを作成し、具体的な課題や解決策を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループで協力して意見を交換して、結果をまとめる過程における個々の生徒の取り組みや役割などを観察し、評価する。
- 振り返りシートの記述から自ら課題に取り組む状況を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- 班活動において、協働的かつ主体的に参加できていない生徒に対して、班内で具体的に役割分担することによって積極的に参加し協働的かつ主体的な学びとなるよう促した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立神戸商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	情報の入手と活用		
指導項目	(2) ビジネスに対する心構え ア 信頼関係の構築 イ コミュニケーションの基礎 ウ 情報の入手と活用		
単元の目標	(1) 情報の入手と活用について、重要性や注意点を理解する。 (2) 情報の入手と活用について、入手された情報の信頼性を考察して分析することで、経済社会の動向と関連付けることができる。 (3) 情報の入手と活用について、自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報の入手と活用について、情報源とその情報源の特徴について理解している。また、情報を入手する際の留意点をもとに必要な情報を見極める知識を身に付けている。	情報の入手と活用について、入手された情報の信頼性を考察し、分析することで、経済社会の動向と関連を見いだしている。	情報の入手と活用について、自ら学び、組織の一員としてビジネスに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1. 情報の重要性と扱う際の注意点</p> <p>情報の重要性、扱う際の注意すべき内容について考え、自分の意見をまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を扱う際に著作権を侵害することがないように注意すべきことを考え、グループ活動で主体的かつ協働的に発言しながら、重要性や注意点を整理する。 ・ビジネスにおける情報の重要性や信頼性についての基礎的な知識や情報に関する権利について理解する。 	<p>思 態</p> <p>○</p> <p>知</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の知的財産を利用する際の注意点を挙げる活動に、自らの考えをグループ内で伝えながら、他者の意見を取り入れるように意欲的に取り組もうとしている。 <p>観察、発表、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の重要性や信頼性や情報に関する権利の基礎的な知識を理解している。 <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次 (1時間)	<p>2. 情報の入手方法</p> <p>情報源とその情報源の特徴を理解する、情報を入手する際の留意点をもとに必要な情報を見極めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各情報源の特徴や情報入手の留意点を整理する。 ・情報源の特徴や情報入手の留意点をもとに必要な情報を見極める知識を理解する。 	<p>知 態</p> <p>○</p> <p>思</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った情報源の特徴と入手する際の留意点をレポートにまとめることができる。 <p>レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報源ごとの特徴を理解し、資料を読み取り考察している。 <p>ペーパーテスト（定期考査）</p>

第三次 (2時間)	3. 情報の活用	思 態	○	・ビッグデータがどのように活用されているか具体的な事例を用いて説明できる。ビジネスでビッグデータを活用する方法を考察することができる。 観察、発表、ワークシート
	入手した情報の扱われ方を考察し、具体的事例と関連付けて説明できる		思	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおいてビッグデータがどのように活用されているか具体的な事例を取り上げて発表する。 ・情報を入力し発表する際に数字データを用いて客観的に説明する。 ・発表で共有した内容を整理する。 			

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・レポートを用いて、必要な資料を収集し、整理しているかを評価する。レポート作成を通じて、知識が身につけているか、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考内容を記述できるようにワークシートを用意し、ビジネスにおける課題を見いだしているかを評価する。取り上げた内容について思考し、知識や技術をもとに判断を行い、家庭や結果を表現しているか判断する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループ内で主体的に発表し、他者と意見を交換した結果をまとめる過程における個々の生徒の取組を観察を観察して評価するとともに、観察シートへ記述する。生徒が自身で記述する議事録を用意して個々の生徒の取り組みを確認する。
- ・ワークシートの記述から取り組み状況や読み取りを評価する。生徒が新たな気付きを得てどのように変化したか確認できるようにワークシートを工夫する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「思考・判断・表現」がC評価の生徒は、情報を扱う際の注意点やビッグデータの活用方法などのワークシートを答えられない生徒であった。それらの整頓は身近な具体例を提示し、思考をするためのヒントを与えた。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」がC評価の生徒は、「思考・判断・表現」が不十分で主体的に取り組めない生徒もいた。教科書や身近な具体例を提示し情報の入手と活用について確認する支援を行った。グループで発表するまでの準備や進行がスムーズにできないグループがあったので、準備や進行の支持を適切に行い、生徒が発表しやすい環境を整えていきたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立出雲商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
指導項目	第5章 ビジネスと企業 第1節 ビジネスと企業		
単元の目標	企業活動に関する知識を基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。		
単元の 評価項目	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1. 指導と評価の計画（11 時間）

	学習活動	評価			評価規準
		知	思	態	
1 (3 時間) 本時 1 / 3	ビジネスと企業 ・企業の形態と組織形態の種類と特徴、意思決定の流れ、ビジネスの創造、経営理念、企業倫理の重要性を理解する。	○		○	・企業の形態と組織形態の種類と特徴、意思決定の流れ、ビジネスの創造、経営理念、企業倫理の重要性について理解しようとしている。 【評価】 観察、発言、ワークシート
2 (2 時間)	マーケティングの重要性 ・ビジネスにおけるマーケティングの重要性と基本的な流れを具体的な事例と関連付けて理解する。	○	○	○	・マーケティングの重要性と基本的な流れを具体的な事例と関連付けて理解しようとしている。 【評価】 観察、発言、ワークシート
3 (1 時間)	資金調達 ・株式の発行や金融機関から借り入れなど資金調達の方法とその特徴及び資金調達に伴う責任について理解する。	○		○	・資金調達の方法と特徴、資金調達に伴う責任について理解しようとしている。 【評価】 観察、発言、ワークシート
4 (1 時間)	財務諸表の役割 ・企業内外の関係者が意思決定する上での財務諸表の役割、監査の役割について理解する。	○		○	・企業内外の関係者が意思決定する上での財務諸表の役割、監査の役割について理解しようとしている。 【評価】 観察、発言、ワークシート

5 (1時間)	企業活動と税 ・企業活動に対する税の種類と概要及び申告と納付の概要について理解する。	○	○	・企業活動に対する税の種類と概要及び申告と納付の概要について理解しようとしている。 【評価】 観察、発言、ワークシート
6 (3時間)	雇用 ・日本における雇用形態の特徴と多様化、雇用の安定、労働時間の管理など雇用に伴う企業の責任を理解し、具体的な事例と関連付けて分析し考察する。	○	○	・日本における雇用形態の特徴や雇用に伴う企業の責任を理解し、自身の将来の働き方について主体的に考えることができる。 【評価】 観察、発言、ワークシート

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価について

- ・定期試験、ワークシートへの解答や記入から単元の内容への理解度を評価する。
- ・ワークシートへの記入にあたり、個別に必要な情報を収集する課程や、収集した情報から正しい情報を選択し、新たな課題を発見し、その解決策について考察できているかを評価する。
- ・授業時の個別発言やグループワークでの発言を観察し、単元の中で必要な知識が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・授業終了後の振り返りシートから、ここで学んだ知識に対する十分な思考がなされ、その課題についてどのような解決策が考えられるかを表現できているかを評価する。
- ・学んだ知識を自分事として捉え、ビジネスの課題を地域の課題として置き換えた視点やその課題解決策をどう思考し表現しているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・授業振り返りシートの記述から、ビジネスに関する必要な知識を身につける中で思考がどのように深まり、ビジネスに関する視点がどのように自分事、地域事として変化・変容しているかを評価する。
- ・授業時におけるグループワークでの課題発見、課題解決の議論において他者の意見を聞く力、自分の意見を主体的に表現する力を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「思考・判断・表現」の評価が「C評価（努力を要する）」場合、当該生徒は教科書等から得た情報のみで、その内容に十分な思考が伴っていない場合が多い。その場合、授業振り返りシートの提出内容から個別に問いを投げかけるなど、自主的に学びに向かい姿勢を促し、さらに自分事、地域の課題に置き換える問いを通じて主体性を引き出すための支援を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	広島県	学校名	広島県立広島商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	マーケティングで社会はどう変わるのか		
指導項目	(5)企業活動の基礎 イ マーケティングの重要性と流れ (6)身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題 イ 身近な地域のビジネスの動向		
単元の目標	マーケティングの重要性と基本的な流れについて理解し、企業のマーケティング活動を提案することができる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	マーケティングの基礎的・基本的な知識を身に付け、企業がおこなうマーケティングについての資料を収集し、その具体的な活動を理解している。	企業がおこなうマーケティングについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	マーケティングについて興味を持ち、その意義や様々な実施例を探究するなど、主体的かつ協働的に学習しようとしている。

1 指導と評価の計画 (20 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (4時間)	1 私たちは社会にどのような変化を生み出したのか 未来はどのように変化していくか、何を生み出して いくかを考察することができる。 ・時代の変化に応じて商品がどのように変化してきたかを班で調べる。 ・過去、現在の消費者ニーズの変化から未来の商品を考察する。	思	○	商品の変化から社会の変化に関する情報を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理している。 ・記述分析 (ワークシート) ・観察法 (発表)
		知	○	未来の商品を想定して、商品企画をまとめ、マーケティングの知識として理解している。 ・記述分析 (ワークシート)
第二次 (4時間)	2 マーケティングとは何か マーケティング志向で商品 (モノ・サービス) 等を 考察することができる。 ・マーケティングとは何か。その基本発想を事例によって調べ、整理する。 ・ヒット商品のSTP・4P分析を行い、分析の結果を発表する。	態	○	STP・4Pについて関心をもち、発表をとおしてマーケティングの概要について探究しようとしている。 ・記述分析 (ワークシート)
		知	○	4P政策についてインターネットで調べたことをまとめ、マーケティングの知識として理解している。 ・記述分析 (ワークシート) ・観察法 (発表・ペアワーク)
第三次 (4時間)	3 マーケティング戦略にはどのような手法があるか 売上増大や知名度増大などを目標としたマーケティング戦略を考案することができる。 ・企業の事業活動をマーケティング志向で分析する。 ・SWOT分析結果を活用して事業活動を拡大につながる提案を発表する。	思	○	4P・STPを詳細にまとめ、コンセプトに沿ったマーケティング戦略を表現できる。 ・記述分析 (ワークシート) ・観察法 (発表)

第四次 (4時間)	<p>4 マーケティング戦略でどのような変化がもたらされているか</p> <p>地元企業の事業活動を拡大し、売上増大や知名度増大などの設定した目標を実現できるマーケティング戦略を考案することでマーケティングの見方・考え方を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元プロ野球球団のマーケティング戦略を立案する。 ・STP・4Pに当てはめた自班で考えたマーケティング戦略のスライドを発表する。 	思 態	<ul style="list-style-type: none"> ○ STP・4Pの概要に関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付けるとともに、フレームに自分のアイデアをまとめている。 <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題 ○ 市場調査に関心を持ち、自分自身のアイデアを導くための情報を意欲的に収集している。 <ul style="list-style-type: none"> ・記述分析 (ワークシート)
第五次 (4時間)	<p>5 マーケティングで社会はどう変わるのか</p> <p>売り上げ増大や顧客獲得、知名度UP等、目標を達成することができるか。様々な事象をマーケティングの視点で考える思考方法を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業を事例に企業の環境分析、市場調査を行い、新たなビジネスプランを立案する。 	思	<ul style="list-style-type: none"> ○ マーケティングでもたらす社会の変化について、他者にはない視点で、自分自身が導き出した考えを表現している。 <ul style="list-style-type: none"> ・記述分析 (ワークシート) ・観察法 (発表)

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・毎時、クラスルームを活用し、課題 (ワークシート) を配信したものを、生徒が入力して提出している。その提出内容のうち、知識・技術に係る内容を評価箇所にしてしている。未記入等がある場合は再度返却し、取り組むよう促している。
- ・知識・技術の定着状況を見取るため、単元毎に語句の確認テストを実施している。必要に応じて次の授業で補足をしている。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・自身の思考したことを表現するためのワークシートの様式を工夫した。発表が苦手な生徒等には、発表原稿を作成するよう助言し、発表の際は、事前にリハーサル等の場を設定するよう留意した。
- ・各単元には、思考・判断・表現を問うパフォーマンス課題を設定し、提出された作品及びデータ等を基に評価を行った。また、発表等の内容を生徒相互で評価を行った。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・学習活動の中で、テーマに基づいて個人で調べたことや内容を班で意見交換する場面を設定し、共同的に活動する場面での様子等を評価している。その際、ティームティーチングで実施しているため、授業者相互で評価の照らし合わせを行うよう留意している。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

各単元の内容について、週1回の科目担当者会議を開催し、生徒の学習改善や教師の指導改善について協議を行っている。「知識・技術」の観点から「努力を要する状況」(C評価) 生徒は、ワークシートの作成状況が不十分であり、個別指導で対応し、教科書の本文からヒントを見つけるよう助言する等、生徒の学習改善に取り組んでいる。また、担当者会議の中で、実施済みの単元の反省を行い、今後の単元指導につなげるようにしている。学期ごとに各クラスの評価結果を持ち寄り、クラス間での指導課題を共有するようにしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立吉野川高等学校
科目名	ビジネス基礎 (教科書 実教出版)		
単元名	地域ビジネスの動向 (身近な地域のビジネスの動向)		
指導項目	地域ビジネスの動向 ア 地域密着型ビジネスについて イ 地域の伝統産業の役割 ウ 地域ビジネスの動向・課題		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型ビジネスの例を通して、それらのビジネスが地域活性化にどのような役割を果たしているかを理解する。 ・自分が生活する地域の地域密着型ビジネスについて調査し、どのように地域に貢献しているかを理解する。 ・伝統産業について知り、現在ではどのように産業を展開していけばよいかなどに取り組む。 ・地域の魅力を発掘するビジネスについて知り、自ら地域の魅力を発見するよう促す。 		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な地域のビジネスについて理解している。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案して実施し、評価・改善している。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (8時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 地域密着型ビジネス</p> <p>地域のビジネスが地域の活性化にどのような役割を果たしているかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界初の阿佐海岸鉄道：DMV (デュアル・モード・ビークル)、JR四国：四国まんなか千年ものがたり、四国交通：2021年廃止されたボンネットバスを調査・発表し、自分の発表と他者の発表を区別しながら、地域の活性化について理解する。 	思 態 知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公共交通手段の取り組み等が地域活性化にどのような成果を上げているかを、自分の考えや他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 <p>観察、ワークシート</p>
第二次 (3時間)	<p>2 地域の伝統産業</p> <p>伝統産業について知り、地域にどのようなビジネス効果をもたらしているのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統産業を調べ、今昔の変化を題材として、ビジネスの動向を考察する。 ・地域の伝統産業 (吉野川市：阿波和紙 阿波市：阿波和三盆糖) を調査する。(グループ学習) ・全国各地の伝統産業のプリントを配布、説明して理解する。 	態 知 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統産業を知り、過去から現在の変容を理解しながら、ビジネスの動向について考察するとともに、未来の伝統産業についても関心を持ち、自ら意欲的に説明しようとしている。 ・全国の伝統産業をビジネス活動であることを知り、どのような伝統産業があることを理解している。 <p>ワークシート、評価シート</p> <p>ペーパーテスト(小テスト) (定期考査)</p>

第三次 (2時間)	3 地域の魅力を発掘するビジネス	思 態 知	○	・コロナ禍で変貌している、地域の魅力を活用する具体例と課題について説明している。 観察、ワークシート
	地域の魅力を発掘するビジネスについて知り、自らの地域の魅力を発見するよう促す。 ・地域の魅力をインターネットなどを活用して地域ビジネスの動向と課題を調査する。 ・地域の魅力(スカイスポーツ・ラフティングなど)を説明する。		○	・地域ビジネスの魅力や課題を理解している。 ペーパーテスト(定期考査)

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、地域活性化に繋がるデータを収集し、得られた情報から地域の魅力を発見したかを評価する。そして、学習活動を通して地域のビジネスに必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、地域のビジネスの課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し、体験調査や体験した他者からのアンケート調査を行い、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。そのため、学習の前後で生徒の意識や考え方が地域の発展のためにどのように変化したのかが分かるようなワークシートのつくりの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があるとともに、地域ビジネスなどに関わるビジネスの動向・課題に関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、教科書等で地域ビジネスの動向・課題を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、演習においても、適切な対応ができなかったため、授業においては演習グループ内での支援を指示するとともに、個別指導を行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立松山商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	身近な地域の課題		
指導項目	(1) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題 イ 身近な地域のビジネスの動向		
単元の目標	(1) 身近な地域のビジネスを理解する。 (2) 身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案し、評価・改善する能力を身に付ける。 (3) 身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身近な地域のビジネスについて理解している。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案し、評価・改善する能力を身に付けている。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（1時間）	<p>1 身近な地域のビジネス</p> <p>身近な地域のビジネスについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで自分たちが考えてきた身近な地域のビジネスについて共有し、その役割や必要性を考え、整理する。 事例を題材として、身近な地域の課題を解決させるビジネスがあることを理解する。 	<p>思 態</p> <p>知</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが考えた身近な地域のビジネスの具体例を共有する活動に、他者の意見を取り入れながら、意図的に取り組もうとしている。 <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の課題を解決するためのビジネスの存在や、その役割や必要性について理解している。 <p>ワークシート</p>
第二次（2時間）	<p>2 身近な地域の課題</p> <p>ビジネスに関する身近な地域の抱える課題について、具体的な事例を分析し、考察することによって理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の抱える課題について、テレビのニュースや新聞、一人1台端末などを活用してその特徴をまとめる。 身近な地域の抱える課題について理解し、ビジネスに関連づけて考える。 	<p>思</p> <p>知</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の抱える課題について関心を持ち、その特徴について説明しようとしている。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域における変化に目を向け、地域特性の消失、地方の過疎化、コミュニティの希薄化などについて理解し、ビジネスに関連づけて考察している。 <p>ペーパーテスト(小テスト)</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ワークシート使用し、必要な情報を収集、選定しながら、まとめることができているかを評価する。また、学習活動を通して知識や技術を身に付け、理解が深まっているかを評価する。
- ・小テストを実施し、重要用語の確認や記述問題などから理解度をチェックし評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・自ら課題を発見し、その情報を他者と共有しながら、役割や必要性を考察し、整理できているかを評価する。
- ・ワークシートの記述から、自分の言葉で表現することができているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで意見を共有し、他者の意見を取り入れながら、意欲的に取り組んでいるかを評価し、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む姿勢を読み取り評価する。また授業の終わりに、本時の学習に取り組む態度を自己評価させ、それを評価に加える。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

小テストやワークシートの記述から、理解が追いついていない生徒や内容が不十分な生徒に対しては、個別に指導しながら、身近な地域のビジネスの役割や必要性、地域の抱える課題についてもう一度説明し、特徴や重要なポイントをノートにまとめさせ、再度点検を行った。またグループワークを苦手としている生徒には、そのグループの中で支援を指示しながら活動を進め、授業の後で本人とグループワークの振り返りを行い、今後の活動に生かしていくよう促した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立小倉商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	地域ビジネスの動向		
指導項目	(6) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題 イ 身近なビジネスの動向		
単元の目標	(1) 国内の身近な地域のビジネスについて理解する。 (2) 身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、地域の発展に及ぼす影響と関連付けて分析し、考察する。 (3) 身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	国内の身近な地域のビジネスについて理解している。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、地域の発展に及ぼす影響と関連付けて分析し、考察することができる。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（2時間）	<p>1 地域密着型ビジネス</p> <p>地域密着型ビジネスが地域活性化にどのような役割を果たしているのか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のビジネス（鉄道会社）の役割について、グループで発表しあい、どのように地域へ貢献しているか理解する。 ・また一方で、人口減少等による地域の抱えるビジネスに関する課題について考察する。 	思 表	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のビジネス（鉄道会社）についてグループで意見を交換し、グループとしての考察を分かりやすく発表することができる。 <p>まなボードによる発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のビジネスに関する課題が、日本が抱える人口減少問題に関わることを他教科で学んだ知識と結合させ、理解している。 <p>ペーパーテスト（定期考査）</p>
第二次（1時間）	<p>2 地域の伝統産業</p> <p>各地の伝統的な産業について知るとともに、守っていくためにどのような振興策があるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ChromeBook を活用し、国内の伝統産業を調べ現状を把握するとともに、継承のための取り組みについて理解する。 ・グループで自分と他人の意見を区別しながら、どのような振興策があるか具体例を整理する。 	表 態 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統産業について、各自でChromeBook を使用して調べ現状を把握するとともに、新しい取り組みなどに着目し具体的な事例を挙げるすることができる。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで設問に対して意見を出し合い、身近な地域のビジネスに関する課題を発見することができる。 <p>観察・ワークシート</p>

	<p>3 地域の魅力を発掘するビジネス</p> <p>地域の魅力を生かしたビジネスを分析しながら、社会変化に対応したビジネスの動向を捉える。</p> <p>全国的に代表的な事例を題材として、ビジネスの動向を理解するとともに、地元北九州でのビジネスの振興による地域の発展に繋がる活動について、主体的かつ協働的に調査する。</p> <p>単元の最後に小テストを行い、知識の定着度を測る。</p>	<p>知 思 知</p>	<p>○</p>	<p>・地域の発展に繋がる魅力を生かしたビジネスの動向について主体的に調査し、考察しようとしている。</p> <p>観察・ワークシート</p> <p>Google Formによる小テスト</p>
--	---	---------------------------	----------	---

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

・定期考査による評価。出題について（配点や解答方法など）科目担当者間で話し合い、記述問題等を入れるなどし、知識の理解度を測っている。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・レポートやグループ活動（プレゼンテーション・発表等）、小テストにより評価する。
- ・レポートは、動画視聴により知識をインプットし、内容に関わる考察を記述させる。また、単元で扱う内容について、深く掘り下げて調べているか視覚的に見やすいレポートが作成できているか評価する。
- ・プレゼンテーションや発表では、構成・発表内容・態度を評価している。
- ・小テストは、単元や授業の終わりに実施し、学習内容（知識）について適切に判断できているか評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ノートやワークシート等に、板書の書き写しだけでなく、授業内容をメモしたり、疑問点について自身で調べたりしているものを加点评価する。
- ・振り返りシートでは、単元ごとの振り返りの時間を取り、自身の理解度やつまづいている部分を知るとともに、取り組みに対しての姿勢をみとっている。
- ・長期休業中の課題は、予習としての内容や既習の内容について考察させるものを課しており、構成や内容が学習内容を踏まえているかを評価している。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・小テスト（用語テスト）をこまめに行うことで、知識に関連した内容について社会の動き（地域の活動）に関心を持つようになった。
- ・考査に対する振り返りも行うことで、生徒自身が取り組みと成果について客観的に自己評価することができ、次回の考査への改善点を見出すことができる。
- ・ノートや課題、プレゼンテーション等について、教師側のフィードバックをすることで次回に活かされ、生徒は改善を繰り返し、少しずつ質が向上している。また、「総合的な探究の時間」での企業による講演の内容とも結び付けるコメントも出てくるなど発展的な学習に繋がっている。
- ・教師側としては、生徒が記入した振り返りシートを確認することで課した課題以外の生徒の取り組みや考えを知ることができ、授業に反映させることができている。授業の進捗や説明の仕方等、授業者側の課題と異なる部分は改善点として明確になり、すぐに対応することができるようになった。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	情報の入手と活用		
指導項目	ア 情報の重要性と扱う際の注意点 イ 情報の入手方法 ウ 情報の活用		
単元の目標	<p>(1) 情報源とその情報源の特徴について理解している。また、情報源から情報を入手する際の留意点をもとに必要な情報を見極める知識を身に付けている。</p> <p>(2) 入手された情報の扱われ方を考察し、具体的な事例と関連付けて説明することができる。</p> <p>(3) 他人の知的財産を利用する際に注意すべきことを考え、自分の意見を調整することができる。また、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報源とその情報源の特徴について理解している。また、情報源から情報を入手する際の留意点をもとに必要な情報を見極める知識を身に付けている。	入手された情報の扱われ方を考察し、具体的な事例と関連付けて見いだしている。	他人の知的財産を利用する際に注意すべきことを考え、自分の意見を調整することができる。また、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
1 指導と評価の計画（3時間）			
時間	ねらい・学習活動	評価	
		観点	記録
1	1 情報の重要性と扱う際の注意点 情報の重要性と情報を扱う際の注意すべき内容を理解する 知らないうちに著作権を侵害することがないように、注意すべきことを考え、クラスで発表するためにグループで話し合う。	思	○
1	2 情報の入手方法 情報源とその情報源の特徴について理解する。 情報源とその情報源の特徴について理解する。また、情報源から情報を入手する際の留意点をもとに必要な情報を見極める知識を身に付けている。	知	○
1	3 情報の活用 入手された情報の扱われ方を考察し、具体的な事例と関連付けて説明をすることができる。 ビッグデータが私たちの生活の中において、どのように活用されているのかを考え、具体的な事例とともに記述する。	思	○
			他人の知的財産を利用する際に注意すべきことを考え、自分の意見を調整することができる。また、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート 情報入手の留意点をもとに適切な情報入手の方法を判断することができる。 小テスト 情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ワークシート

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、具体的に記載されているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取り組みや役割などを観察し、観察シートに記述する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

ワークシートに無解答がある場合については、教科書等で留意点を再確認させる。また、つまづいている生徒には机間巡視等でヒントを与え、考察すべき事項に気づかせるなど、支援をする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立壱岐商業高等学校
科目名	ビジネス基礎		
単元名	企業活動の基礎		
指導項目	(5) 企業活動 ア 企業の形態と組織 イ マーケティングの重要性と流れ ウ 資金調達 エ 財務諸表の役割 オ 企業活動に対する税 カ 雇用		
単元の目標	(1) 企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に関する知識を習得し、企業活動について、経済社会における事例と関連付けて理解すること。 (2) 企業活動について得た知識を基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案すること。 (3) 企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に関する知識を習得し、企業活動について、経済社会における事例と関連付けて理解している。	企業活動について得た知識を基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案している。	企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	1 ビジネスと企業 企業の経営や組織について理解し、社会において企業が果たす役割について考える。 ・企業の種類や経営組織について学習した後、企業の不祥事についてインターネットを使って調べ学習を行う。その理由を考え、発表する。 2 マーケティングの重要性 ・企業は市場分析を行い、マーケティング活動に力を入れることで利益追求を行っていることについて理解する。	思 態 知	○ 知	・企業の不祥事についてインターネットで調べることができ、自分の意見に加え、他者の意見を調整することができる。 観察、ワークシート ・マーケティングに関する基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト（小テスト）
第二次 (2時間)	3 資金調達 会社を設立、経営する上で必要な費用を考え、資金調達について理解する。 ・インターネットを使って、必要な費用について調べ、まとめること。また、それにかかる資金を調達する方法について調べ、内容を理解する。 4 財務諸表の役割 ・財務諸表を作成する意味を理解し、企業が求められている役割や資金調達（財務諸表が判断材料となる役割を果たすこと）について関連させて理解する。	知	○	・グループ学習を行い、必要な費用について調べてまとめることができる。資金調達の方法について内容を理解している。 ワークシート、小テスト ・財務諸表の役割について理解するとともに、関心を持って、授業に取り組むことができる。 観察

第三次 (3時間)	<p>5 企業活動と税</p> <p>企業や個人が支払う税金について理解し、税金の必要性について考える。</p> <p>・税金の役割と種類について学習し、税金の必要性についてグループで考え発表する。</p>	知 思	<p>○</p> <p>・税金の役割や種類について理解し、税金の必要性についてグループで考え発表できる。また、自分の意見に加え、他者の意見も傾聴できる。</p> <p>発表 (評価シート)、小テスト</p>
	<p>6 雇用</p> <p>日本の雇用の特徴について理解するとともに、コロナ禍によって生み出された新しい働き方について考える。</p> <p>・日本の雇用の特徴について学習し、企業が従業員に対して負う責任について考える。</p> <p>・コロナ禍によって生み出された新しい働き方などをインターネットを使って調べ、メリットやデメリットについて考える。</p>		

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・小テスト (ペーパーテスト)
- ・ワークシートの記述内容
- ・発表の評価シート

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・教師による行動観察
- ・ワークシートの記述内容
- ・小テスト

※ 留意点：ルーブリック評価による

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・教師による行動観察
- ・定期考査 (ペーパーテスト)
- ・ワークシートの記述内容
- ・発表の評価シート

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに未記入の部分が多く見られた。特に、企業活動全般についての基礎知識が不十分であった。そこで、それらの生徒には、企業が果たす役割についてもう一度考えさせるために、教科書等でまんべんなく確認するように促し、支援を行う。授業中のグループワークなどでも、活発な意見がなされるように、個々の知識を習得させ、考える力を身につけさせたい。また、評価結果を生かす指導法について見取りの共有のためにも教員間で率直な意見が言い合える環境作りが必要であると感じた。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	群馬県立伊勢崎商業高等学校
科目名	ビジネス・コミュニケーション		
単元名	ビジネスにおけるコミュニケーション		
指導項目	(3) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション ア 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション イ ビジネスにおける思考の方法 ウ ビジネスにおけるコミュニケーション		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて相手の考えを理解して思考し伝える又は聞く若しくはアイデアを創出するとともに、その取組について評価・改善する。 ・ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む。 		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて相手の考えを理解して思考し伝えている又は聞いている若しくはアイデアを創出しているとともに、その取組について評価・改善している。	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (4時間)	コミュニケーションの意義と技法 コミュニケーション技法の意義と方法について理解する。 ・ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションの意義と技法について理解するとともに、関連する技法を身に付ける。	知	○	・ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・それぞれの技法の特徴から、ビジネスにおける具体的な活用場面を思考し、関連する技術を身に付けている。 観察・ワークブック
第二次 (4時間)	コミュニケーション技法の実習 各コミュニケーション技法の実習に主体的かつ協働的に取り組む。	思態	○	・ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、商業祭で行う販売実習とクラス企画について、適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察・ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> 本校の商業祭における販売実習及びクラス企画を題材として、各コミュニケーション技法を活用した実習を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自己評価</div>
第三次 (2時間)	<p>コミュニケーション技法の演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスの場면을想定した課題について、各コミュニケーション技法を活用した演習を行う。 演習において、ビジネスの場面に応じて思考してコミュニケーションを図り、評価・改善する。 	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの場면을分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて相手の考えを理解して思考し伝えている又は聞いている若しくはアイデアを創出しているとともに、その取組について評価・改善している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">観察・ワークシート</div> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自己評価</div>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- 定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ワークブックの設問から、与えられた情報の持つ意義を読み取り、重要な箇所を整理しているかを評価する。さらに、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- 思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、相手や場面に応じて具体的な技法を見いだしているかを評価する。
- 具体的な活用場면을思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価する。
- ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- 「粘り強い取組を行おうとする側面の評価」と「自らの学習を調整しようとする側面の評価」でルーブリックを作成し評価する。
- C評価の生徒に対する手立てを具体的に考えることで、生徒の躓きを想定した指導の充実を図る。
- 生徒の変容を捉えるためには、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートの工夫が不可欠である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「粘り強い取組を行おうとする側面の評価」が「努力を要する」(C評価)の生徒は、グループ内で自ら考えたアイデアを表現できなかつたり、他者のアイデアを聞いてもアイデアを表現できなかつたり、ワークシートに無記入がある場合を想定している。この状況の生徒には、他者のアイデアを参考にして自分のアイデアをまとめたり、クロームブックを使って調べたりすることで、自分のアイデアを整理させるように促すなどの支援を行う。さらに、「自らの学習を調整しようとする側面の評価」においても、自分の課題の振り返りが学習内容を踏まえていない場合が多いため、本単元で理解しておくべき知識(コミュニケーション技法の特徴)を確認させるとともに、他者の発表内容であるアイデアの視点等について確認するように指示する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立金沢商業高等学校
科目名	ビジネス・コミュニケーション		
単元名	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション		
指導項目	(3) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション ア 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション イ ビジネスにおける思考の方法 ウ ビジネスにおけるコミュニケーション		
単元の目標	(1) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて思考してコミュニケーションを図り、評価・改善すること。 (3) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて思考してコミュニケーションを図り、評価・改善している。	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスにおいて適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (1時間)	1 論理的な思考の方法① 論理的思考の基礎となる演繹法と帰納法について理解し、物事を筋道立てて論理的に捉える。 ・現代ビジネスでの「大前提」となる事柄を考え、演繹法で結論を導き出す。 ・翌日のディズニーランドの入場者数予想を、各種データをもとに帰納法の考え方で思考する。	思		論理的思考の基礎となる演繹法と帰納法について理解し、物事を筋道立てて論理的に捉えることができる。 ワークシート

第二次 (1時間)	<p>2 論理的な思考の方法②</p> <p>MECEの具体的な手法であるロジックツリーとSWOT分析について理解し、複雑な問題の全体像を正解に把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロジックツリーで自分達の部活動の問題点を細分化する。 株式会社王座金商についてSWOT分析を行い、今後のビジネスでの成功と失敗の可能性を予測する。 	主	<p>MECEの具体的な手法であるロジックツリーとSWOT分析について理解し、複雑な問題の全体像を正解に把握しようとしている。</p> <p>観察・ワークシート</p>
第三次 (2時間)	<p>3 論理的な思考の方法③ (ポジショニングマップ)</p> <p>ポジショニングマップについて理解し、現代ビジネスでの差別化の方法について思考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポジショニングマップを作成し、金商デパートでの特販店舗にて販売する商品を考える。 現代ビジネスでの差別化の方法について考える。 	思	<p>○ ポジショニングマップについて理解し、現代ビジネスでの差別化の方法について思考している。</p> <p>Google フォーム振り返りシート</p>
第四次 (1時間)	<p>4 論理的な思考の方法④ (PPM分析)</p> <p>PPM分析について理解し、複数の事業を展開するうえでの、適切な経営資源の配分方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> PPM分析で株式会社王座金商の外部環境と内部環境を分析し、今後の事業展開について考察する。 	知	<p>P P M分析について理解し、複数の事業を展開するうえでの、適切な経営資源の配分方法について理解している。</p> <p>小テスト</p>
第四次 (1時間)	<p>5 論理的な思考の方法⑤</p> <p>認知バイアスについて理解し、各種メディアで情報を収集する際の注意点や情報を発信する際に注意しなければならない事について考察し、主体的に学習に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知バイアスの事例について調べ、どのように対応すべきか考える。 	主	<p>認知バイアスについて理解し、各種メディアで情報を収集する際の注意点や情報を発信する際に注意しなければならない事について考察し、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>観察・ワークシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

・定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。小テストはGoogleFormsで作成し、クローズブックを用いて実施する。自動集計されたクラス全体で平均正答率や設問ごとの平均回答率を基に、理解が深まっているか評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

・生徒の思い・思考が記述できるように、GoogleClassroomから期限を設定し、思考力を問う課題を設定することで、授業内の時間だけでは測れない深い思考まで見出して評価する。自分自身の考えだけでなく、ロイロノートやGoogleアプリケーションで共有された他の意見を踏まえて判断・表現できているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

・ロイノートを用いて、短時間で複数回意見を収集し、生徒の取り組み状況を細かく読み取り評価する。ワークシートの内容や提出の日時などから課題に取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

・知識・技術の評価が努力を要する状況の生徒は、定期考査前に実施した複数回の小テストの点数が低く、定期考査でも同じ単元・内容の設問に答えることが出来ていなかった。今後は、小テストを実施した後の振り返りをしっかりと行い、定期考査前に繰り返し問題を解かせるなど、Google アプリケーションを活用し個別指導を行っていきたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立奥越明成高等学校
科目名	ビジネス・コミュニケーション		
単元名	意思決定と組織の構成者としての行動		
指導項目	(1) ビジネスとコミュニケーション ア 意思決定と組織の構成者としての行動 イ 人的ネットワークの構築		
単元の目標	(1) 組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することについて、職場における信頼関係の構築と接し方が仕事に及ぼす影響を理解する。 (2) 組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することの意義と課題について、ビジネスの円滑な展開と関連付けて見いだす。 (3) 組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することの意義について、自ら学び、ビジネスにおいて他者とコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することについて、職場における信頼関係の構築と接し方が仕事に及ぼす影響を理解している。	組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することの意義と課題について、ビジネスの円滑な展開と関連付けて見いだしている。	組織の階層化、意思決定の流れと方法、良好な信頼関係を構築し協働することの意義について、自ら学び、ビジネスにおいて他者とコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 企業の組織① 組織とは何か、組織の重要性を考える。 ・身の回りで組織がなかったら、どのようになるかを個人考察し、グループ討論・発表を行う。 ・企業組織について、階層化および職能別組織と事業部制組織を理解する。	思 態 知	○ ○	・組織の意義、意味について、考察するとともに、グループ内の意見を調整しながら、組織について理解しようとしている。 ワークシート、観察 ・組織の意義、意味をふまえ、その構造について理解している。 授業プリント、小テスト、定期テスト
	1 企業の組織② 組織が効率的に運営されるための原則について考える。 ・管理者層が行う管理について、効果的な方法を個人考察し、グループ討議・発表を行う。 ・管理者層の役割について、具体的な業務は何かを確認し、なぜ管理者層が必要なのかを理解する。	思 態 知	○ ○	・組織の効果的な運営について、自分の意見や考えをベースにグループ内の意見を取り入れ、組織管理の必要性とともに理解しようとしている。 ワークシート、観察 ・組織の在り方とともに、管理の原則について、理解している。 授業プリント、小テスト、定期テスト
第二次 (1時間)	2 意思決定 意思決定は誰が何のために行うのかを考え、意思決定の種類・方法について理解する。 ・組織のそれぞれの階層ごとに、どのような意思決定の場面・シーンがあるかを考える。 ・意思決定の種類、方法について、意思決定の意義について、組織の重要性と関連付けて整理する。	知		・意思決定は、ビジネスの目的、経営理念を達成するための重要な活動であることとともに、意思決定の種類や方法について理解している。 授業プリント、小テスト、定期テスト

第三次 (2時間)	<p>3 業務の進行方法</p> <p>上司からの指示・命令の受け方、業務の進め方について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上司役と一般従業員役の2人1組になって、指示、命令を受けるシーンを実演させ、どんなことに注意を払わなければならないかを見つける。 ・報連相とは、単なる報告、連絡、相談ということではなく、その意味をビジネスの観点で理解する。 	<p>思 態</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>・指示、命令の受け方について、実演を通して気が付いたことを整理し、留意点を見つけるために意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>ワークシート、観察</p> <p>・指示、命令を受ける際の留意点について、また、業務の進め方について、報連相は上司に対してだけでなく、先輩後輩、同僚に対しても行うことを理解している。</p> <p>授業プリント、小テスト、定期テスト</p>
	<p>4. スケジュール管理</p> <p>スケジュール管理の必要性を考察し、スケジュール管理の具体的な方法とスケジュール表の種類・作成方法を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールには個人と社内全体のものがあることを理解する。 	<p>知</p> <p>知</p>	<p>・スケジュール管理は、仕事の優先順位と時間配分を決める際に有効であることを理解するとともに、用途に応じて様々なスケジュール表があることを理解する。</p> <p>授業プリント、小テスト、定期テスト</p>
	<p>5 仕事に対する心構え</p> <p>社会人として身に付けておく心構え・ルールを理解し、企業においてチームの一員としての心構えを考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組織の一員としての心構え、ルールについて考察する。 ・一人の安易な行動が企業ダメージを与えた事例を調べて発表する。 ・信頼関係や周囲の接し方が仕事に与える影響について考察し、分析する。 	<p>思 態</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>知</p>	<p>・社会人として身に付けておく心構え、ルール、倫理観を持って業務にあたることの重要性について考察するとともに、安易な行動が企業にダメージを与えた事例について説明しようとしている。</p> <p>ワークシート、観察</p> <p>・社会人として望ましい心構えとルールについて留意点を理解するとともに、職場における信頼関係の重要性を理解している。</p> <p>授業プリント、小テスト、定期テスト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

本單元における「知識・技術」については、企業組織に関する語句テスト、正誤テスト、定期テスト（中間考査）にて評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

本單元では、グループやペアでの事例研究を通して自分の考えが説明でき、共有できているかを評価する。次のステップとして、別の考えのヒントを探そうとしているか、得られた情報を自分の意見と調整してまとめているかを評価する。同様に、定期テスト（中間考査）における事例課題について、自分の考えをまとめて表現できているかを評価する。なお、授業プリントの口頭での説明箇所について、単なるメモではなく、自分の言葉で表現できているかも評価対象とする。振り返りシートにおいても、新しい気づき、再確認できたことを自己表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

本單元においては、グループやペアで考えることを通して、生徒自身がコミュニケーションを実践していることをふまえ、話し合いをリードしたり、意見を整理したりして、テーマ・課題の解決、達成に取り組めるかどうか観察シートを使って評価する。また、学びから得たことをどのように生かしていくべきかについて、振り返りシートを使って評価する。

なお、単元に関係なくビジネスマナーの基本的な実践活動として、毎時の開始、終了の挨拶の仕方を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

企業組織の構成者としての行動についての学びを、グループ・ペアでのコミュニケーションの実践を通して行っており、最初の考えを修正して学びの自己調整を見て取るための評価が重要である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校
科目名	ビジネス・コミュニケーション		
単元名	応対に関するビジネスマナー		
指導項目	ビジネスマナー (1) 応対に関するビジネスマナー (2) 交際に関するビジネスマナー (3) 接客に関するビジネスマナー		
単元の目標	(1) 応対に関するビジネスマナーについて、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけること。 (2) 応対に関するビジネスマナーにおける課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善すること。 (3) 応対に関するビジネスマナーの場面を想定した他者への対応に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	応対に関するビジネスマナーについて、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。	応対に関するビジネスマナーにおける課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、場面に応じたビジネスマナーを実践し、評価・改善することができる。	応対に関するビジネスマナーの場面を想定した他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 挨拶・お辞儀・身だしなみ・表情 挨拶や身だしなみがビジネスマナーの基本であり、コミュニケーションをはかるうえで重要な行為であることを理解する。 ・ペアで挨拶やお辞儀のしかたを確認し、実践的に身につける。 ・身だしなみの基本を理解し、その概要を説明することができる。	態 思 知	○	・挨拶やお辞儀、身だしなみなどのマナーをさまざまな場面で実践していこうとする態度を形成できている。 観察、ワークシート ・挨拶やお辞儀、身だしなみの基本について理解している。 ペーパーテスト(定期考査)
第二次 (2時間)	2 名刺交換・紹介のしかた 名刺の文化、交換手順、管理についての知識を身につけ、名刺交換の手順を習得する。 ・ペアで名刺交換を実践し、交換手順を身につける。 ※1写真 ・紹介のしかた（自己紹介・他己紹介）を知り、グループで他者への対応に主体的かつ協働的に取り組むこと。自己紹介はグループで行い、ワークシートに自己評価・相互評価を行う。 ※2写真	知 態 思 態	○	・名刺の役割と交換のマナーについて、主体的に学習しようとしている。ペアでのワークを積極的に行っている。 観察、ワークシート ・紹介のしかたについて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善する。 観察、ワークシート ペーパーテスト(定期考査)

<p>第一次 (2時間)</p>	<p>3 敬語・言葉遣い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 敬語の基本についての知識をつけ、普段の生活における具体的な事例を考察できるようになる。 </div> <p>・敬語の基本について学び、動画を通して理解を深める。ワークシートを活用し、間違っただ敬語を正しく直すことができるようにする。</p>	<p>態 知 思</p>	<p>○</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・敬語に興味・関心を持ち、主体的に学習しようとしている。 観察、ワークシート </div> <p>・敬語について、普段の生活における具体的な事例を踏まえて考え、正しい敬語を表現しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ペーパーテスト(定期考査) </div>
----------------------	---	---------------------------	---

※1



※2



2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査の解答をもとに、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを使用し、学習や実践を通して必要な知識を身につけ、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・科学的な根拠に基づいて、場面に応じたビジネスマナーを選択肢の中から見いだしているかを、定期考査の解答をもとに評価する。また、ビジネスマナーについて、その概要を説明することができ、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ペアやグループで実践する過程における個々の生徒の取り組みを観察し、特徴的な様子を見いだして評価する。
- ・ワークシート内に、実践の前後での考えやビジネスマナーに関する意識がどのように変化したのかわかるようにし、改善につなげられるようにする。また、その記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」がA評価にもかかわらず、「知識・技術」「思考・判断・表現」がC評価の生徒が多い場合は、指導のしかたを見直す。生徒が主体的に取り組んだことにより、「知識・技術」「思考・判断・表現」の力が伸びたと実感できるような授業内容になるよう改善策を考察する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立丹後緑風高等学校
科目名	ビジネス・コミュニケーション		
単元名	応対に関するビジネスマナー		
指導項目	(1) ビジネスマナー ア 応対に関するビジネスマナー イ 交際に関するビジネスマナー ウ 接客に関するビジネスマナー		
単元の目標	(1) 受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、理解するとともに関連する技術を身に付ける。 (2) 受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善する。 (3) 受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、理解するとともに関連する技術を身に付けている。	受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善ができる。	受付案内などの応対時の挨拶、言葉遣い、表情、電話応対、座席配置などについて、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（20 時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (11時間)	<p>コミュニケーションは挨拶から始まることを理解し、場面に応じた挨拶の技能を身に付ける。</p> <p>・挨拶やお辞儀を ipad を活用し、グループで撮影・助言しながら取り組む。</p> <p>・身だしなみ・表情・身のこなし、敬語やコミュニケーション言葉、名刺交換について理解する。</p> <p>・来客や電話応対、席次マナーについて理解し、応対（来客・電話）プリントをグループで取り組む。</p>	思 態	○ ○	<p>・グループ活動にてビジネスマナーを実践し、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>観察、ワークシート、ロールプレイング</p> <p>・身だしなみ・表情・身のこなし、敬語やコミュニケーション言葉、名刺交換について基礎的な知識を理解している。</p> <p>小テスト</p>
第二次 (6時間)	<p>慶事、弔辞、贈答、会食などのマナーについて適切な行動を理解する。</p> <p>・冠婚葬祭の基礎知識を理解し、場所や立場に応じた適切な行動に関してグループで取り組む。</p> <p>・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、適切な行動を理解し、グループで取り組む。</p>	思 態	○ ○	<p>・グループ活動にて冠婚葬祭・会食のマナーを実践し、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>観察、ワークシート、ロールプレイング</p> <p>・冠婚葬祭・会食のマナーについて基礎的な知識を理解している。</p> <p>小テスト</p>
第三次 (3時間)	<p>販売活動における接客及びホスピタリティの重要性を理解し、場面に応じた接客の技能を身に付ける。</p> <p>・効果的な接客に必要な知識について理解する。</p> <p>・ホスピタリティについて理解し、場面に応じた接客についてグループで取り組む。</p>	思 態	○ ○	<p>・グループ活動にて場面に応じたマナーを実践し、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>観察、ワークシート、ロールプレイング</p> <p>・効果的な接客に必要な知識について理解している。</p> <p>小テスト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査ならびに小テストにて評価する。
- ・ワークシートを用いて、マナーについてどのような知識・技能を身に付ける必要があるのか、また身に付けたのかを振り返りを記入させ、評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・グループ活動にて様々な場面での応対や接客などを取り上げ、取り上げた課題について思考し、表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループ活動にて主体的・協働的に助言や、評価・改善を行いながら活動しているか観察する。
- ・授業プリントやワークシートの提出状況にて評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、授業プリントやワークシートの提出状況や記述が不十分であった。授業プリントについては、授業中確認するなどの支援を行う。グループ活動ではグループ内での取り組みについて支援するよう指示する。その後、個別指導を時間外で行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田市立秋田商業高等学校
科目名	マーケティング		
単元名	第2章 消費者行動		
指導項目	第3節 購買意思決定プロセス		
単元の目標	(1) 消費者がどのようなプロセスを経て製品やサービスを購入するか理解する。 (2) 購買意思決定プロセスにおける購買意思決定と、その評価について自ら学び、企業のビジネス活動に主体的かつ協働的に取り組む能力、態度を育てる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	購買意思決定の各プロセスに関わる消費者の行動と企業の取り組みについて理解している。	購買意思決定の各プロセスに関わる消費者の行動と企業活動の意義や取り組みを見いだしている。	購買意思決定の各プロセスに関わる消費者の行動と企業のビジネスにおける考え方について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 購買意思決定プロセス① 購買意思決定プロセスは5つの段階に分類されることを踏まえて、消費者行動の流れを理解する。 ・購買意思決定プロセスが5つに分類されることについて説明する。 ・衣服を例に消費者の行動を記入する。 ・考えられる購買意思決定プロセスを確認する。	知態	○	・購買意思決定プロセスについて理解し、消費者行動を適切に記入している。 観察、ワークシート
第二次 (2時間)	2 購買意思決定プロセス② 消費者行動の流れを理解し、各年齢層の特徴を考察できるようになる。 ・グループで話し合い、各年齢層の消費者の特徴を考えジャムボードで共有する。	思態	○	・消費者行動の流れを踏まえて、各年齢層の特徴を考察している。 観察、ジャムボード
第三次 (1時間)	3 購買意思決定プロセス③ 各年齢層の特徴を踏まえて新しい製品やサービスを提案することができる。 ・グループで話し合い、新しい製品やサービスを提案する。	態	○	・各年齢層の特徴を踏まえて、新しい製品やサービスを提案している。 観察、ワークシート

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

ワークシートの記入内容を元に、理解している状況を確認し、評価する。

・評価の基準例

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技術	各プロセスにおける消費者心理や行動について全て記入している。	各プロセスにおける消費者心理や行動について記入している	各プロセスにおける消費者心理や行動について記入していない。

	問題認識	情報探索	代替品の評価	購買決定	購買後の評価
A	○	○	○	○	○
B	○		○		○
C					

(2)「思考・判断・表現」の評価

・ジャムボードを活用してグループで各年齢層の消費者の特徴をまとめられているかをもとに理解の状況の評価する。

・評価の基準例

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	各年齢層の特徴を全て記入している。	各年齢層の特徴を記入している。	各年齢層の特徴を記入していない。

		金額面	評価	流行 or ブランド	その他
A	各年齢層	○	○	○	○
B			○		○
C					

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシート及びジャムボードの記述から授業や課題に取り組む状況を読み取れているかを評価する。
- ・自らの考えをもとにグループで協力して意見を出し合い、結論をまとめ、考えを記入しているかを観察シートで評価する。
- ・生徒の取組状況を観察し、観察シートに記録する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

知識・技術がおおむね満足できる状況（B評価）及び努力を要する状況（C評価）の生徒に対して、購入機会や経緯について事例を用いて説明し、考えさせるようにした。

思考・判断・表現が努力を要する状況（C評価）の生徒に対して、各年齢層の購買意思決定プロセスがどのようになっているかを考えるよう促すなどの必要がある。また、グループワークの状況を確認し、理解を深めるヒントやキーワードのヒントなどを提示して活発な意見交換ができる雰囲気を作るなどの支援も行った。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	横浜市立横浜商業高等学校
科目名	マーケティング（3年次：2単位）		
単元名	マーケティングの概要		
指導項目	(1)マーケティングの内容と手順 (2)マーケティングの発展		
単元の目標	現代市場における消費者保護や環境問題、法令順守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深める。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	マーケティングに関する基本的な理念を理解している。	マーケティングに関する基本的な理念について、自らの問題として見出している。	マーケティングに関する基本的な理念について、自ら学び、主体的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい ・ 学習活動	評価		評価規準 ・ 評価方法
		観点	記録	
2時間	1 マーケティングの内容と手順	思	○	・「STP」の具体例を参考にし、自らの考えをしっかりとまとめようとしている。 観察、ワークシート ・「4P政策」の具体例を参考にし、自らの考えをしっかりとまとめようとしている。 観察、ワークシート ・授業の最後に確認テストを実施し、「STP」と「4P政策」について、その基本的な内容が理解できているかの確認をおこなう。 確認テスト
	マーケティング計画の2大柱である「STP」と「4P政策」について理解する	思	○	
	・「STP」の内容についてワークシートを活用して、その基本的な知識を理解し、自分の考えを整理する。 ・「4P政策」の内容についてワークシートを活用して、その基本的な知識を理解し、自分の考えを整理する。	知	○	

2 時間	2 マーケティングの発展	思 態	○	<p>・マーケティングの発展を、自らの問題としてとらえ、まとめようとしている。</p> <p style="text-align: center;">観察・ワークシート</p>
	<p>マーケティングの考え方の発展について学ぶことで、現代におけるマーケティングの立ち位置について理解する</p>	思 態	○	<p>・ソーシャルマーケティング、戦略的マーケティング、リレーションシップマーケティングの具体例を参考にし、自らの考えをしっかりとまとめようとしている。</p> <p>・今後のマーケティングの発展について、自らの考えをまとめようとしている。</p>
	<p>・ソーシャルマーケティング、戦略的マーケティング、リレーションシップマーケティングなどについてワークシートを活用して、その基本的な知識を理解し、今後のマーケティングの発展について予測をさせる。</p>	知	○	<p style="text-align: center;">観察・ワークシート</p> <p>・授業の最後に、この単元の内容について、その基本的な内容が理解できているかの確認をおこなう。</p> <p style="text-align: center;">評価テスト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・ 定期テスト・確認テストおよび評価テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ ワークシートを用いて、問われている内容について、その内容を読み取り、整理しているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ ワークシートの形式を、思考の過程をしっかりと記述できるようなものにする。また記述された思考の過程がしっかりと記述できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・ 生徒の変化を捉えるために、單元ごとに生徒の意識や考えなどがどのように変化したのかが明らかになるワークシートを作成する必要がある。
- ・ 生徒の変化を促すような取り組みを個々に設定する必要がある。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

定期試験の点数が悪かった生徒に対しては、「知識・技術」が足りなかったのか、あるいは「思考・判断・表現」が足りなかったのかなどを明らかにすることが大切になる。明らかにされた問題点を生徒個々にフィードバックすることに重きを置いている。

また、日ごろの授業においては、單元ごとに作成するワークシートへの取り組みを重視する。未提出者や記入量が極端に少ない生徒に対しては、提出することの意義や記述への関心を高めるようなアドバイスを、ワークシート上に教員が記述をし、生徒の変化を促すようにしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立三条商業高等学校
科目名	マーケティング		
単元名	プロモーション政策		
指導項目	(1) プロモーション政策 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの方法 ウ プロモーション政策の動向		
単元の目標	(1) プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。 (2) プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。 (3) プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	プロモーション政策について、企業における事例と関連付けて理解することができる。	プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善することができる。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	1 プロモーション政策の概要 プロモーション政策の目的と重要性について理解する。 ・企業が行っているプロモーション活動(広告・広報・セルフプロモーション・販売員活動)について具体的な事例を調べ、グループで情報を共有し、プロモーション活動の具体例を整理する。 ・プロモーション活動の4種類の特徴を理解するとともに、ソーシャルメディアによる消費者同士のコミュニケーション、プロモーションへの消費者の反応についても考察する。	思 態	○	・企業が行っているプロモーション活動(広告・広報・セルフプロモーション・販売員活動)について具体的な事例を調べ、グループで情報を共有し、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・プロモーション活動の特徴を理解しながら、消費者の反応についても考察しようとするなど意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート
		思 態	○	

<p>第二次 (4時間)</p>	<p>2 プロモーションの種類</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>具体的なプロモーション政策の種類について特徴と重要性について理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション手段である4種類の活動について、企業活動と結びつけながら基礎的な知識を理解し整理する。 ・実際にある地元企業に対して効果的なプロモーション活動を提案することで、実際のビジネスの動向を考察する。 	<p>知 態</p> <p>知</p> <p>知 思 態</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション活動の各活動について特徴と課題・具体的な利用例・広告宣伝効果等についてまとめる活動に科学的根拠に基づいて自分の考えをまとめ、発表するなど意欲的に取り組もうとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> <p>観察、ワークシート、評価シート</p> </div> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション手段である4種類の基礎的な知識を理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> <p>ペーパーテスト(小テスト)</p> </div> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にある地元企業が行っているプロモーション活動を理解するとともに、課題を発見し、自らの意見を積極的に提案しようとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>観察、ワークシート、評価シート</p> </div>
<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 プロモーション政策の動向</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>具体的なプロモーション政策について経済や消費者との動向を踏まえ理解を深める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアにおけるプロモーションとクチコミの影響力の増加、新しい技術を用いたプロモーションの動向について、その役割や具体的にどのようなものがあるかを調べ、グループで情報を共有し整理する。 ・プロモーションに関する規制と倫理について、考察し、法制度の整備や自主規制の取り組みなど理解し、説明する。 	<p>思 態</p> <p>思</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアにおけるプロモーションとクチコミの影響力の増加、新しい技術を用いたプロモーションの動向について、その役割や具体的にどのようなものがあるかを調べ、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> <p>観察、ワークシート、評価シート</p> </div> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーションに関する規制と倫理について、日本広告審査機構について調べるなど意欲的に取り組もうとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>観察、ワークシート、評価シート</p> </div>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や科学的根拠を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートにするなど、ワークシートの作成方法にも工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートが無解答であった。該当生徒には、ワークシートでの調査ポイントをわかりやすく説明し、記入できるよう支援を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立和気閑谷高等学校
科目名	マーケティング		
単元名	情報の分析		
指導項目	(2) 市場調査 ア 市場調査の目的と方法 イ 情報の分析		
単元の目標	(1) 市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解するとともに、分析結果を販売戦略に活用する技術を身に付ける。 (2) 情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善するとともに、その課題を解決する。 (3) 情報の分析について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解しているとともに、分析結果を販売戦略に活用する技術を身に付けている。	情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善しているとともに、その課題を解決している。	情報の分析について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 市場調査（実習）のねらいと事前準備</p> <p>市場調査をする目的と方法について理解し、調査仮説に沿った質問票が作成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場調査をする目的と方法について理解し、企業の定量調査と定性調査の事例を基に、市場調査から得られた情報を販売戦略に活用する方法について学ぶ。 既存資料の収集と分析から、調査仮説を設定し、質問票を作成する。 予備調査を実施し、収集した資料の分析から、必要な情報を再考し、本調査票を作成する。 	知 態 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査の意義について理解し、既存資料の分析や調査仮説の設定について、調査目的に沿って実践しようとしている。 ペーパーテスト（定期考査） 予備調査に主体的かつ協働的に取り組み、得られた情報から情報の分析をしようとしている。 観察シート 予備調査を通して調査仮説の検証に役立つ質問項目を再検討するとともに、対象者によりわかりやすい質問票を作成している。 質問票の作成
第二次 (3時間)	<p>2 市場調査の実習</p> <p>マーケティングに必要な情報収集と分析を行うことを通し主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の店舗においてインタビュー形式の市場調査と販売実習を行い、得られた調査結果から、さらに活用できる情報を収集するために、インタビューの質問項目を再考してインタビューを行う。 販売員に必要とされる一般的な資質と知識を理解し、顧客の心理を分析しながら、セールスポイントを設定し伝える。 	知 態 思	○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 調査員や販売員に必要な対応方法について理解し、実践しようとしている。 ペーパーテスト（定期考査） 情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察シート、Google フォーム 市場調査の質問項目の問題点や販売実習の販売員活動についての課題に気づき、よりよく改善する方法を考察している。 Google フォーム、Google ジャムボート

第三次 (3時間)	3 情報の分析	知 思 思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を分析する目的と方法について理解し、適切な方法で情報を分析する技術を身に付けている。 <p>Google スプレッドシート、ペーパーテスト(定期考査)</p>
	<p>情報を分析する目的と方法について理解し、科学的根拠に基づく販売促進案を提案できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を分析する目的と方法について、企業の事例に沿って理解する。 ・実際に市場調査で得た情報を表やグラフにまとめる。 ・複数の資料から消費者の購買に対する意識と行動やニーズについて情報を読み取って分析し(仮説の検証)、販売促進案を具体的に提案する(プレゼンテーション)。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から消費者の購買に対する意識と行動やニーズについて情報を読み取って分析し、販売促進案について具体的に提案している。 <p>Google フォーム、Google ジャムボード</p>
				<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを通して、情報をまとめ、伝える力を身に付けている。 <p>相互評価シート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・Google スプレッドシートを用いて、実際の市場調査で得た情報を整理・分析し、適切な表やグラフを作成しているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・クラス内で行った予備調査の後、校外で行う本調査用の質問票が改善できているかを評価する。
- ・実習後に Google フォームを用いて個人の振り返りを集約し、Google ジャムボードを用いてグループ討議した後、さらに Google フォームを用いて個人で作成した改善提案を評価する。
- ・販売促進案のプレゼンテーションを相互評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・観察シートを用いて、予備調査や本調査の取り組み状況を記録する。
- ・実習後の振り返りの記述から、主体的かつ協働的に取り組む意識を持って活動できたかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、振り返りの記述量が少なく、取り組みに対する意識が十分に把握できなかった。そこで、それらの生徒には、対話を通してより具体的な言葉を引き出し、それらを記述させるように支援した。さらに、活動中の気づきが少ない生徒には、教科書を用いて復習させ、例えば情報の分析についてであれば、資料における特徴的な数値の変化と消費者の行動の変化に着目させる等、生徒の思考を促す着眼点を伝えた。

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、現状の分析から改善提案ができず、資料作成等についてグループへの貢献度も低い。演習グループ内での相互の支援を指示するとともに、後日個別指導を行い、個人でまとめた Google フォームの加筆修正を指示した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立菊池高等学校
科目名	マーケティング		
単元名	製品計画		
指導項目	(1) 製品計画の概要 ア 商品計画の内容 イ 製品計画の重要性 ウ 製品計画の内容 エ 流通業者による商品開発 オ 製造物責任と環境保全		
単元の目標	(1) 既存の商品やサービスの事例から、製品計画の内容を体系的に理解する。 (2) マーケティング活動のなかで製品計画が果たす役割について消費者志向や社会志向に基づいた製品計画が、企業の利益の実現や持続可能な社会づくりに発展することを課題解決学習に関連して考察する。 (3) 製品計画のなかに戦略的マーケティングの手法を適用することで、主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	既存の商品やサービスの事例から、製品計画の内容を体系的に理解している。	マーケティング活動のなかで製品計画が果たす役割について消費者志向や社会志向に基づいた製品計画が、企業の利益の実現や持続可能な社会づくりに発展することを課題解決学習に関連して考察している。	製品計画のなかに戦略的マーケティングの手法を適用することで、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
1時間目	<p>1. 製品計画の概要</p> <p>製品計画の位置づけと重要性を認識し、持続可能な社会づくりの発展に関連して考察することができるようになる。</p> <p>・商品計画の多様な概念を理解し、主体別に内容を整理する。 ・製品計画は、企業の利益の実現と持続可能な社会づくりの発展に関連する。 ・製品計画の4つの内容について理解し、諸要素について総合的に判断することの重要性を認識する。</p>	思		<p>・マーケティングにおける製品計画の位置づけと重要性を持続可能な社会づくりの発展に関連して考察しようとしている。</p> <p>ワークシート、小テスト リフレクションシート</p>
2時間目	<p>地域課題解決学習においてマーチャンドライジングの5原則の考えを適用し、既存サービスの改良や新用途の開拓について考察することができるようになる。</p> <p>・同業他社のサービスについて情報を共有し、内容を整理する。(グループ) ・マーチャンドライジングの5原則を適用し、地域課題解決テーマのサービスを考察する。 ・各グループで協議したマーチャンドライジングについて発表する。</p>	思 態	○	<p>・商品（サービス）を提供するためのマーチャンドライジングの5原則に照らし合わせて既存商品（サービス）の改良や新用途の開拓について実現可能なサービス企画として考察しようとしている。</p> <p>ワークシート、ICT活用、観察</p>

<p>3 時 間 目</p>	<p>P B商品の発展について分析や考察をしながら、消費者志向、社会志向を取り巻く環境の変化に対応した製品計画の実施について理解する。</p> <p>・商品開発においてP B商品の発展がどのような消費者志向と結びつくのか、市場調査との関連性と含めて考察する。</p> <p>・製造物責任法について理解するとともに3 R政策の内容についても理解する。</p>	<p>態</p> <p>知</p>	<p>・SDG sに興味・関心を持っており、循環型社会に貢献しようとする考えや態度が見られる。</p> <p>ワークシート、リフレクションシート</p> <p>○</p> <p>・消費者保護や環境保全の観点から制定された製造物責任法や3 R政策について具体的な内容を理解している。</p> <p>ワークシート、小テスト</p>
<p>4 時 間 目</p>	<p>2. 製品ミックスと製品政策</p> <p>製品アイテム・ライン・ミックスの関係を既存商品から把握し、現代市場における食品業界の経営の動向について考察することができるようになる。</p> <p>・事例として食品業界の既存商品から、製品アイテム、ライン、ミックスの関係を明確に把握し、製品ミックスの拡大と縮小について理解する。</p> <p>・製品標準化政策と多様化政策を対比させ、その違いについて説明する。</p> <p>・市場の状況など製品のライフサイクルの各段階と製品政策を関連づけて考察することができるようになる。</p>	<p>知</p>	<p>○</p> <p>・各製品政策について、企業と消費者の両社の立場から、メリット・デメリットを理解している。</p> <p>ワークシート、定期考査</p> <p>・各製品政策の実態や市場の状況などに興味、関心を持ち、企業のマーケティング活動における差別化を理解している。</p> <p>ワークシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答をもとに、生徒の理解度を読み取り評価する。
- ・ICTの活用により、必要な資料の収集や分析、整理しているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートや定期考査でループリックを明記させ、客観的かつ公平性に評価する。
- ・リフレクションシートによる自己評価を用い、単元の課題や今後の展望についてどのように考え、表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループ協議では、個々の生徒の取組や役割について他者評価を用いる。
- ・ワークシートを毎時間、授業後に点検し評価する。(ABC評価)

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

ワークシートや定期考査で「思考・判断・表現」や「主体的に取り組む態度」を評価する際、どのような内容や表現がA基準なのか、またはB基準になるのかを事前にループリックで示すことで、生徒の回答率や正答率の増加に繋がった。また、リフレクションシートを活用したことで、生徒がどのように理解しているか、考察しているかなどを把握しやすく授業改善を図りやすいツールとなった。生徒の学習改善においては、色鉛筆や付箋紙を活用は視覚的な理解を得やすいツールとなり、学習意欲向上に繋がる取組となった。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	神奈川県立平塚農商高等学校
科目名	商品開発と流通		
単元名	商品開発と流通の概要		
指導項目	(1) 現代市場と商品開発・流通 ア 商品の概念と商品開発の流れ イ 流通の仕組みと商品との関わり ウ 市場環境の変化		
単元の目標	(1) 現代市場における商品開発と流通の概要について理解する。 (2) 商品開発と流通の意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだす。 (3) 現代市場における商品開発と流通について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代市場における商品開発と流通の概要について理解している。	商品開発と流通の意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。	現代市場における商品開発と流通について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（4時間）	<p>1 私たちの生活と商品</p> <p>商品の多様化の現状と商品開発の重要性を理解する。</p> <p>商品の多様化の現状について、基礎的な知識を理解する。 商品開発の考え方について、具体的な課題設定を行い、個人案を発表する。 商品開発や商品の流通における企業の責任及び販売後の商品の評価とそれに基づいて商品を改良することの重要性について理解する。</p>	知 思 知 態	○ ○	<p>・商品の多様化の現状について、基礎的な知識を理解している。</p> <p>ペーパーテスト（定期試験）</p> <p>・商品開発の考え方について、設定された課題解決を行うため、思考を深め、適切に表現できている。</p> <p>観察・評価シート</p> <p>・商品開発や商品の流通における企業の責任及び販売後の商品の評価とそれに基づいて商品を改良することの重要性について理解している。</p> <p>ペーパーテスト（定期試験）</p> <p>・商品の多様化の現状と商品開発の重要性を理解するため、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>ワークシート・ふり返しシート</p>

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>2 商品開発の意義と手順</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>商品と流通との関わりについて、具体的な事例と関連付けて理解する。</p> </div> <p>商品開発と流通の意義と課題について、基礎的な知識を理解する。 商品が生産者から消費者にわたる仕組みについて、具体的な商品を課題設定し、個人案による考察を行う。 商品と流通との関わりについて、具体的な事例を調査する。</p>	<p>知 思 思 態</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発と流通の意義と課題について、基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト (定期試験) ・商品が生産者から消費者にわたる仕組みについて、設定された課題解決のために、思考を深め、適切に表現できている。 観察・評価シート ・商品と流通との関わりについて、具体的な事例を調査している。 ワークシート ・商品と流通との関わりについて、具体的な事例と関連付けて理解するため、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ワークシート・ふり返しシート
<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 商品と流通との関わり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>商品開発と流通を取り巻く市場環境の変化について理解する。</p> </div> <p>商品開発と流通を取り巻く市場環境の変化について、基礎的な知識を理解し、具体的な事例を調査する。</p>	<p>知 思 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発と流通を取り巻く市場環境の変化について、基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト (定期試験) ・商品開発と流通を取り巻く市場環境の変化について、具体的な事例を調査している。 ワークシート ・商品開発と流通を取り巻く市場環境の変化について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ワークシート・ふり返しシート

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・単元確認問題を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・設定された課題の解決を図る学習を通して、専門的なスキルを読み取り評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・課題用ワークシート記入状況から、知識や技術を基にした思考・判断がなされているかを読み取り評価する。
- ・設定された課題の解決を図る学習を通して、思考・判断した内容を効果的に表現されているかを読み取り評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・単元前後の展望とふり返しシートの記述から、質、量、情意を読み取り評価する。
- ・学習用ワークシートのふり返し、課題用ワークシートのふり返りの記述から、主体的な情意を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートの記述の量、質、情意が不十分であった。そこで、それらの生徒には、記述方法について確認、再考等をさせ支援を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	仙台市立仙台商業高等学校
科目名	ビジネス・マネジメント		
単元名	(1) ビジネスとマネジメント		
指導項目	ア マネジメントの役割 イ イノベーションの重要性 ウ 創業者や経営者の理念 エ 外部環境の影響		
単元の目標	①ビジネスにおけるマネジメントの概要について理解する。 ②マネジメントの意義と課題について、ビジネスの適切な展開と関連付けて見いだす。 ③ビジネスにおけるマネジメントについて自ら学び、企業を取り巻く環境を踏まえ、マネジメントに主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解している。 ・ビジネスの創造について理解している。	・マネジメントの意義と課題について、ビジネスの適切な展開と関連付けて考えている。	・ビジネスにおけるマネジメントについて自ら学び、企業を取り巻く環境を踏まえ、マネジメントに主体的かつ協働的に取り組んでいる。・実習に積極的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 ビジネスの創造と社会</p> <p>社会との関りからビジネスの創造の意義について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスを社会全体のニーズの充足や課題解決のための手段と位置付け営利活動である必要性を意識づける。 ・グループで、新聞記事から一つの企業を取り上げ、どのように社会のニーズを充足し課題を解決しているか考察する。 ・事業化は、社会的課題を経済的な対価の交換を伴う営利課題として解決を目指す活動であることを理解する。 ・組織の長期的な存在のためには、時代の変化に伴った、「継続的な事業創造」が必要であることを理解する。 ・関連ニュース動画から継続的な事業創造について考察する。 	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズ充足や課題解決がビジネスの役割であることを踏まえ、ビジネスの創造（事業創造）について理解している。 ・内容について考察し、表現する力を身に付けている。 ・課題について自らの意見を見いだすとともに、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。 <p>○ 観察 ワークシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業化は、社会的課題を経済的な対価の交換を伴う営利課題として解決を目指す活動であることを理解している。 <p>○ 小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の長期的な存在のためには、時代の変化に伴った、「継続的な事業創造」が必要であることについて考察し、表現する力を身に付けている。ワークシート2
第二次 (2時間)	<p>2 事業創造の基本</p> <p>イノベーションの意味を理解するとともに、新規事業とイノベーションの結びつきが事業創造であることを理解する。</p> <p>イノベーションが五つのタイプに分類され、「新結合」によってもたらされることを理解する。企業家活動にはさまざまな障壁が存在するが、障壁を乗り越えることがイノベーションにつながることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、新聞記事から関連記事を取り上げ、イノベーションについて考察する。 「企業家精神」は「アニマル・スピリット」であるがゆえに、信頼と共感を得るために、「経営理念」が必要であることを理解する。 ・関連ニュース動画から事業創造について考察する。 	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの意味を理解するとともに、新規事業とイノベーションの結びつきが事業創造であることを理解している。 ・内容について考察し、表現する力を身に付けている。 ・課題について自らの意見を見いだすとともに、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。 <p>○ 観察 ワークシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションが五つのタイプに分類され、「新結合」によってもたらされることを考察し、表現する力を身に付けている。 ・主体的に行動しようとしている <p>○ 観察 ワークシート2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業家活動にはさまざまな障壁が存在

	日本の起業家について調べ、企業を理解したうえで起業家精神と企業活動の障壁について、考察し発表する。	思 態	するが、障壁を乗り越えることがイノベーションにつながることを考察し、表現する力を身に付けている。 <u>ワークシート3</u>
第三次 (3時間)	<p>3 事業機会の発見</p> <p>事業創造のために事業機会の発見が不可欠であり事業機会は課題を抱えた顧客の発見が前提であることを理解する。また、「潜在顧客」と「未知の顧客」について認識するとともに、有用性が高い製品やサービスが、顧客のニーズ充足や課題解決につながることを理解する。</p> <p>事業創造のためには事業機会の発見が不可欠で「潜在顧客」と「未知の顧客」について認識するとともに、ターゲット顧客を発見する必要性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、新聞記事から関連記事を取り上げ、イノベーションについて考察する。 ・関連ニュース動画から社会の変化を的確に捉え、新たな課題の発見が成長機会や事業機会につながることにについて考察する。 ・研究課題及び発表 ◎チョコレート市場について考察する。◎高齢化によって拡大したビジネスについて考察する。 	知 思 能 思 能 知 思	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズや課題の背景には、背景に既存の製品やサービスの不完全性があることを認識し、そこに潜在市場が存在し、事業機会を発見するヒントがあることを理解している。 ・内容について考察し、表現する力を身に付けている。 ・課題について自らの意見を見いだすとともに、グループ活動において、組織の一員として主体的かつ協働的に行動しようとしている。 <p>○ <u>観察</u> <u>ワークシート1</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化を的確に捉え、新たな課題の発見が成長機会や事業機会につながることを考察し、表現する力を身に付けている。 <p>○ <u>観察</u> <u>ワークシート2</u></p> <p>○ <u>Study</u> <u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット顧客を発見する必要性について理解している。基本的な内容を理解している。 <p><u>アプリ小テスト</u> <u>定期考査</u></p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査および小テストの解答をもとに、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、得た情報と授業で学んだ内容が紐づけられていることを読み取り、評価する。教科書の用語の記載ごとにポイント化して評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートの内容を評価する。取り上げた課題・事例について考察し、知識や技術をもとに判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

ワークシート1：「新聞から見つけよう！ビジネス・マネジメント」

授業内容に関連または合致する記事を取り上げ、意見交換を行う。(新聞は過去のもので全員異なる日付の新聞を読み、記事を抜粋する。)

ワークシート2：「ビジネストレンド情報レポート」

内容にあったニュース動画を提示し、これについて5行程度のコラムをまとめる。

ワークシート3：「日本の起業家」 起業家と企業について調べる。

Study ワークシート：単元ごとに研究課題についてまとめたものを評価する

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・積極的な発言と傾聴の様子を観察シートに記述し評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・技術」と「主体的に学習に取り組む態度」が「十分に満足できる」(A評価)の生徒を中心に、グループワークのメンバーをバランスよく入れ替えることで、グループワークが活発化し、より効果的な学習環境を作り出すことができる。「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、小テストの解答に誤答や空欄が多いことに合わせ、ワークシートの記述が不十分であり、記入されている文字が雑であることが共通している。グループワークでメンバーを変えることによって、改善傾向にあるケースが多い。意見交換、ワークシートの交換をすることで、他の生徒に感化されることが多い。

しかし、家庭学習課題、小テスト等については改善が見られないことから、オンラインテストの実施とアプリドリルを導入することにした。このことについて、ワークシートの評価と関連付けることも必要で、今後の課題である。また、使用するワークシート1・2・3は学期ごとに継続して使用(A4の両面に6回～10回分記入できる形式)することにより学習に向かおうとする姿勢の変化を生徒も指導者も一目で確認できるように工夫した。指導の声掛けがしやすく、生徒の意欲向上につながっている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校
科目名	ビジネス・マネジメント		
単元名	第3章 経営資源のマネジメント		
単元の目標	(1) ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解する (2) ビジネスの創造と展開に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 (3) ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開に主体的にかつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	経営資源のマネジメントについて企業を取り巻く環境の変化や、具体的な事例と関連付けて理解している。	経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と効果的な活用の方策を考案して実施し、評価・改善を行っている。	組織の一員として役割を果たすことができるように、経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用主体のかつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（13時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	1 財務的資源のマネジメント 情報化、グローバル化によってビジネスに関連する近年に起きた事例を調査して、ビジネスの動向・課題について考察できるようになる。 ■資金の調達方法や財務分析の基礎について理解する。 ■分析する対象の企業を二社決定し、その企業の財務データを収集するとともに、収益性や安全性について分析する。また、分析結果をもとに各企業の相違点や課題と改善点についても調査する。	知	○	・株式会社における資金の調達方法や財務諸表をもとに、企業活動の成果を分析する基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト)
第二次 (4時間)	2 人的資源のマネジメント 採用計画や労務管理、労働環境の整備などの重要性を考察させ、企業の責任と負担を理解する。 ■人的資源のマネジメントとして、採用、賃金制度、訓練・移動・昇進労働環境の整備について理解する。 ■雇用の意義に我が国における雇用の特徴や違いを考察する。 ■非正規労働者や外国人労働者、障がい者雇用など現在の我が国における労働環境について考察する。	知	○	・雇用の形態や特徴などについて興味や関心を持ち、その種類の違いなどについて意欲的に探究している。 ワークシート、評価シート

<p>第三次 (3時間)</p>	<p>3 物的資源のマネジメント</p> <p>効率的な生産方式や、企業が生み出した生産方式にはどのようなものがあるかを考察する。</p> <p>■原材料から製品に転換するプロセスと、生産された製品を消費者に届けるまでの流通チャネルのマネジメントについて理解する。</p> <p>■生産工程における在庫のムダを排除するための方法について具体的な事例と関連付けて分析し、考察する。</p>		<p>・生産工程における、在庫のムダを排除する方法について、事例をあげそれに対するの分析を行うことで自分の考えを昇華させている。</p> <p>ワークシート</p> <p>○</p>
<p>第四次 (3時間)</p>	<p>4 情動的資源のマネジメント</p> <p>情動的資源の重要性とその管理方法及び情動的資源をマネジメントする上での課題について考察し、理解する。</p> <p>■情報化社会とICTの活用、知識の創造と共有や知的財産権について理解する。</p> <p>■AI（人工知能）により、どのような社会が実現し、どのような職業が生まれたり、なくなったりするか考察する。</p>	<p>態</p>	<p>・人工知能によって実現する社会や、そのような環境の中で職業にどのような変化があるのか自分の考えを昇華させている。</p> <p>ワークシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。また、学習活動を通して身に付けた知識について、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、小テストの際に誤答や無解答があるとともに、ワークシート作成の際に経営資源のマネジメントの課題を発見できず、その後の方策について考察することができなかった。それらの生徒には、教科書等で経営資源のマネジメントの内容について確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、基本的な知識や理解ができていない生徒に対しては個別指導を後日行うこととする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校
科目名	ビジネス・マネジメント		
単元名	ビジネスの創造		
指導項目	(1) 社会を豊かにするビジネスの創造 ア ビジネスを生み出す考え方を学ぶ イ マネジメントに指針を与える経営戦略 ウ 新しいビジネスの考案		
単元の目標	(1) 社会との関わりからビジネスの創造の意義を理解する。 (2) 事業創造とイノベーションの事例に触れ、新たなビジネスを切り拓いていく能力と起業家精神を養う。 (3) 新たにビジネスを創造するための事業機会を見いだす。 (4) 持続的な競争優位を実現するため、影響を与える要因を分析する。 (5) 事業創造の計画と実行に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスの諸活動およびマネジメントに関する専門的な知識を身に付けている。 経済社会を取り巻く変化がビジネスに影響を及ぼしている現状を理解している。 適切な媒体を利用し、その技術を適切に活用している。	社会情勢に合わせて、習得した知識をいかし、多面的な角度かつ自分事として捉えている。 整理・分析・精査した情報や考えを熟考して意思決定することができる。 相手の性質や状況に応じて、わかりやすく伝える工夫がある。	ビジネスの創造の意義と役割を理解し、課題解決に向けて主体的に取り組む実践的な態度を身に付けている。 コミュニケーションスキルを向上させ、ファシリテートできる力とマネジメント能力を身につけている。

1 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1. ビジネスの創造と社会 ビジネスの創造（事業創造）によって、社会のニーズと課題を知る。 ・社会との関わり、経済を支えるビジネスを理解し、社会の変化を捉える。 ・個人で観察、調査したことをグループで発表し、情報を整理して、社会的課題やニーズを発見する。	知 思		・ビジネスに関する用語を理解し説明することができる。 ワークシート ・他者からの意見を聞くことができ、その内容を正しく理解することができる。（知識の理解を深めることができる） ワークシート
第二次 (3時間)	2. 事業機会の発見 具体的な事例に触れ、新たなビジネスを切り拓いていく能力と企業家精神を養う。 ・企業家ミュージアムを見学し、事例から企業家精神に触れる。（事前学習含む） ・社会的課題を解決した具体例を知り、そのビジネスの動向を考察し説明する。 ・社会の変化とビジネスの関わり方を探究し、事例や考察事項を元に、新たなビジネスを創造するための事業機会を発見して整理する。	知 知 思	○	・事例資料を読み取り、社会の変化を様々な角度から考察している。 ・ビジネスを行っていく上で必要な資源（会計・情報・マネジメント・英語）をうまく組み合わせることができる。 ワークシート ・身近な物事に（置き換える・くらべる・たどる）考えることができる。 ワークシート

<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3. 戦略と競争優位</p> <p>持続的な競争優位を実現するため、影響を与える要因について分析する技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な分析方法の意義と活用方法を学ぶ。(SWOT 分析、PEST 分析、ファイブ・フォースズ分析、VRIO 分析) ビジネスの動向と課題を調査・研究し、顧客やニーズについて、グループで SWOT 分析を実施する。その後、分析結果を活用して、その考察を説明する。 	<p>知 思 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経済社会を取り巻く変化がビジネスに影響を及ぼしている現状を理解し、具体例と課題について説明している。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の価値観に触れることで、新たな考えを生み出し、視野を広げることができる。 仮説の設定や多面的な想定を豊富に持つことができ、適切な提案、行動をとることができる。 <p>観察、ワークシート、プレゼン評価シート</p>
<p>第四次 (6時間)</p>	<p>4. 事業創造の計画と実行</p> <p>社会の変化とビジネスの関わり方を探究し、事例や考察結果を元に、現代の社会的課題の解決策を創造する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を整理・検討・評価し、事業機会を地域振興の観点から考えた大阪の魅力を活かしたビジネスの提案をグループでおこなう。 創造した事業計画を実行することで、SDGs 達成を目指す。 	<p>思 態 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報を分析し、グループ内の意見もふまえて、問題解決へ向けて多面的に物事を捉えることができる。 自分の考えを持って意見交換や議論(対話)ができ、他者の価値観に触れることで、新たな考えを生み出し、視野を広げることができる。 <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの学習活動について振り返り、つぎにつなげようとする姿勢を表現できる。 <p>観察、評価シート、振り返りシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

※評価方法は、ルーブリック評価シート(5段階)を基に評価する。1~5の段階別に評価基準を設定している。

(1)「知識・技術」の評価

- ワークシート、調査・研究のレポートの記述から、理解し説明できているかを読み取り評価する。
- 生徒の取り組み過程の観察から、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているか評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ワークシート、調査・研究のレポートの記述から、思考の過程を読み取り、物事を多面的な角度で捉え、的確に選択することができているか評価する。
- 整理・分析・精査した情報や考えを適切な媒体を利用して、わかりやすく伝えることができているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループワークや個人活動で、個々の生徒が役割に応じて主導や補助、協働することができているかを観察し、観察シートに記録し評価する。
- ワークシートの記述から、課題に取り組む状況を読み取り、粘り強く取り組むことができているか、自らの学習活動について振り返り、つぎにつなげようとする姿勢を持っているかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートが不十分、グループ活動で主体的に取り組む姿勢がみられないなどの状況である。そこで、生徒の意識や考え方の変化がわかるよう、次のように実施する。

- ルーブリック評価項目を定期的にすべての生徒に確認させる。
 - 現状・目標を生徒と教師が共有することができ、生徒の成長につながる。
- 事前、事後の学習アンケートを実施する。
 - 学習に取り組む姿勢を確認することで、目標を見直すことができる。
- ICT機器を活用し、ポートフォリオを作成する。
 - 学習成果を本人と教員がいつでも把握できるようにすることで、現状を確認することができる。
- グループ活動での、自身のすべき取り組みやグループ内での役割バランスを把握できるよう支援する。
 - 個別に状況確認をおこない、演習活性化をグループ全体に促す。
 - ICT機器を活用して、様々な状況に対応する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立小野高等学校
科目名	ビジネス・マネジメント		
単元名	3章 経営資源のマネジメント		
指導項目	1 財務的資源のマネジメント 2 人的資源のマネジメント 3 物的資源のマネジメント 4 情報の資源のマネジメント		
単元の目標	(1) 経営資源として人的資源、物的資源、財務的資源、情報の資源などがあること及びそれぞれの経営資源のマネジメントについて、企業における事例と関連付けて理解する。 (2) 経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、企業を取り巻く環境の変化、経営資源のマネジメントに関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善する。 (3) 経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	経営資源として人的資源、物的資源、財務的資源、情報の資源などがあること及びそれぞれの経営資源のマネジメントについて、企業における事例と関連付けて理解している。	経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、企業を取り巻く環境の変化、経営資源のマネジメントに関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善している。	経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画 (13 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法			
		観点	記録				
第一次 (4時間)	1 財務的資源のマネジメント 財務管理の考え方を理解し、財務的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案する。 ・財務諸表を基に企業の収益性、成長性及び安全性を分析し、マネジメントに活用していることについて、具体的な事例と関連付けて学ぶ。	態 思 知	○	・財務的資源のマネジメントについて自ら学び、「話し合おう」などの課題に対して建設的な発言をおこなったり他者の意見を促したりするなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。また、活動を振り返って、新たな課題を発見している。 観察、ワークシート			
	2 人的資源のマネジメント 人的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案する。 ・人的資源のマネジメントについて具体的な事例を用いて分析し、考察した意見を論理的に説明している。また、人的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案している。				態 思 知	○	・財務的資源のマネジメントについて、財務管理の考え方や金融商品の利点とリスクなどの項目の知識を習得しているとともに、それらの重要性を企業における事例と関連づけて理解している。 ペーパーテスト(小テスト)
	3 物的資源のマネジメント 効率的な生産方式、調達ルートと販売ルートの確立など商品と施設・設備管理の方法及び物的資源をマネジメントする上での課題について理解し、物的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案する。 ・物的資源のマネジメントについて具体的な事例を用いて分析し、考察した意見を論理的に説明している。また、物的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案している。						
		・物的資源のマネジメントについて自ら学び、授業のさい建設的な発言をおこなったり他者の意見を促したりするなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。また、企業における事例などを調べ、自分の言葉で周囲					

	<p>4 情報的資源のマネジメント</p> <p>情報的資源のマネジメントについて具体的な事例を用いて分析し、考察した意見を論理的に説明し、情報的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて解決策を考案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業を取り巻く外部環境に関する情報、顧客情報、知的財産等の技術力、信用など情報的資源の重要性とその管理の方法及び情報的資源をマネジメントする上での課題について学ぶ。 ・情報的資源のマネジメントについて具体的な事例を用いて分析し、考察した意見を論理的に説明している。また、情報的資源をマネジメントする上での課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、解決策を考案する。 	知 思 態	○	<p>にわかりやすく説明しようとしている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物的資源のマネジメントについて、効率的な生産方式、調達ルートと販売ルートの確立、商品と施設・設備管理の方法などの知識を習得しているとともに、それらの重要性を企業における事例と関連づけて理解している。 <p>ペーパーテスト(小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報的資源のマネジメントについて自ら学び、「やってみよう」などの課題に対して建設的な発言をおこなったり他者の意見を促したりするなど、主体的かつ協働的に取り組んでいる。また、活動を振り返って、新たな課題を発見している。 <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報的資源のマネジメントについて、企業を取り巻く外部環境に関する情報、顧客情報、知的財産等の技術力などの項目の知識を習得しているとともに、それらの重要性を企業における事例と関連づけて理解している。 <p>ペーパーテスト(小テスト)</p>
第二次 (3時間)	<p>実習・発表</p> <p>自分たちの周りに存在する経営資源に注目し、その経営資源を活用したビジネスのアイデアを考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの周りに存在する経営資源を発見し、科学的な根拠に基づいて、その管理や組み合わせ、新しい活用の方策を考案し、発表する。 	態 思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源の適切な管理と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 <p>観察、ワークシート</p>
第三次 (2時間)	<p>大学出前授業</p> <p>経営資源のマネジメントについて、大学教員から出前授業を受けることで学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の学びが大学のどのような学問につながるのかを理解し、レポートにまとめる。 	態 知 思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源のマネジメントについて学びを深め、大学との学びの接続に興味を示している。 <p>観察、ワークシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

・定期テストや確認テストの各設問への解答をもとに、必要な知識を身に付けているかを評価する。

・ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を正確に読み取り、論理的・分析的に整理できているかを評価する。学習活動を通して、知識の理解が深まっているか、新たな興味関心を発見しているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

・思考ツールを使って、知識を整理したり情報を分析できるワークシートを用意する。自分の考え、他の人の考え、新たな発見事項を記録し、疑問をもとに問いを立てる練習ができるよう工夫する。思考の過程や結果をアウトプットするためのレポートやプレゼンテーションを通して総合的に評価する。また、レポートやプレゼンテーションの前には到達目標としてのルーブリックを共有し、学習の到達点を事前に確認しておく。事後にはリフレクションを行い、アウトプットの過程や方法が正しくできたのかを自己評価させる。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

・グループで協働し、意見を出したりまとめたりする過程において個々の生徒の取り組みや役割分担などを観察し、事前に共有している学習の到達目標と照らし合わせながら評価する。

・生徒の変容を捉えるためにワークシートにおいて新たな興味関心を持ち問いに発展させることができているか、今後の探究活動への意欲や動機づけができているかをリフレクションシートをもとに生徒と対話して確認し評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

・レポートやプレゼンテーションについては大学教員や専門家など外部の有識者の講評等も取り入れ、生徒と教員間だけでなく、多様な視点から評価がされることが望まれる。また、生徒自身が事前に提示される到達目標にどの程度達しているのか、不足するものは何かを省察し、教員と対話しながら学習を振り返ることが必要である。教員は生徒の変容を確認するためにワークシートやレポートを活用するが、主観的にならないように留意する。そこで、生徒のコンピテンシーを測ることができる外部評価ツール等を効果的に活用し、変容を可視化することが望まれる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校
科目名	ビジネス経済応用		
単元名	第二章 経済の国際化 1節企業の国際化・グローバル化		
指導項目	1 国際化からグローバル化へ 3 わが国の企業のグローバル化	2 グローバル化の主体 4 地域経済統合	
単元の目標	(1) 企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解させる。 (2) わが国企業のグローバル化の実態を具体的に理解させる。 (3) 地域の発展・成長をねらいとした世界的な地域連携の動向について学習させる。 (4) 世界の地域経済統合について、それぞれの構成国を理解させ、その趣旨を学習させる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○これから求められるグローバル経営についての基礎的・基本的な知識を理解しているか。 ○地域経済統合の重要性について理解しているか。	○グローバル経営の長所・短所を客観的に判断し、それを表現する創造的な能力を身に着けているか。 ○地域経済統合の意義について理解することを目指して、思考を深めているか。	○企業が国際化からグローバル化へと進展する現状について、自ら進んで確認しようとする意欲や態度を持っているか。 ○地域経済統合について関心を持ち、自ら進んでまとめようとする意欲や態度を持っているか。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（2時間）	<p>【ねらい】 企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解する。</p> <p>【学習活動】 ○国際化とグローバル化の違い、歴史の流れについて説明を聞き、ノートにまとめる。 ○世界や日本企業でグローバルに展開している企業を調べ、どのような事業活動をしているかまとめ、発表する。</p>	知 態	○ ○	<p>【評価規準】 ○国際化とグローバル化の違いや国際化からグローバル化へ進展していく歴史をまとめることで様々な地域経済統合があることを理解しているか。 ○企業活動が国境を越え、人・物・金・情報あるいは企業そのものがグローバルに展開されている事例を積極的に調べられているか。（主体的に取り組む態度）</p> <p>【評価方法】 ○ノートの提出、観察、テスト ○発表の相互評価表へ記入し提出</p>

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>【ねらい】 反グローバル化の動きがあることも学習し、双方の考えを知ることでグローバル化について考察を深める。</p> <p>【学習活動】</p> <p>○「反グローバルの台頭や動き」について、その具体例と内容について調べる。</p> <p>○自分の考えをまとめたあと、グループでグローバリズムと保護主義の長所・短所を話し合い、考察を深める。</p>	<p>思 主</p>	<p>【評価規準】</p> <p>○反グローバル化の動きについて積極的に調べ、他者の意見も傾聴しながら自分の考えを深められているか。 (思考・判断・表現)</p> <p>○【評価方法】</p> <p>○ノートの提出</p> <p>○グループワークで話し合った内容から自分の考えをまとめたレポートの提出</p> <p>○観察(話し合いの様子)と自己評価票の提出</p>
<p>第三次 (3時間)</p>	<p>【ねらい】 地域の発展・成長をねらいとした世界的な地域連携の動向や趣旨、課題について考察できるようになる。</p> <p>【学習活動】</p> <p>○世界各地域の地域経済統合のそれぞれの構成国とその趣旨や目的をノートにまとめる。</p> <p>○TPPとはどのようなものか調べ、日本のTPP参加による利益と不利益についてグループで話し合う。</p> <p>○IPEF発足の新聞記事を読み、自分の意見をまとめる。</p>	<p>知 主 思</p>	<p>【評価規準】</p> <p>○国際化とグローバル化の違いや国際化からグローバル化へ進展していく歴史をまとめることで様々な地域経済統合があることを理解しているか。</p> <p>○企業活動が国境を越え、人・物・金・情報あるいは企業そのものがグローバルに展開されている事例を積極的に調べられているか。(主体的に取り組む態度)</p> <p>○【評価方法】</p> <p>○ノート提出</p> <p>○グループワークで話し合った内容から自分の考えをまとめたレポートと自己評価票の提出と観察。</p> <p>○新聞記事をみた自分の意見文の提出</p>

2 主な評価方法と留意点

(1)「知識・技術」の評価

- ・様々な経済用語を理解し、覚えることで新聞やニュースなど時事問題にも関心が増してくる。よって、定期テストの正答率を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・意見文やレポートの提出を求める。特に新聞記事や雑誌、ネットなどから引用したり、数値データを用いているかを重視したい。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループワークの観察と自己評価票、相互評価票を総合的に判断し、評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ①取り組む姿勢を観察する授業者の視点と自己評価票から生徒自身が評価する自分の取り組む姿勢で乖離がある場合は事後指導を行い、ねらいや目的を確認する必要がある。
- ②学習内容に関係する新聞記事を用いることで生徒が新聞やニュースに関心を持ち、意見文やレポートに反映されることを期待したい(昨年度の例:インサイダー取引の事例、雇用慣行の特色から考えるメリットとデメリット、地域の問題や課題を解決する地域ビジネスを考えるなど)。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立熊谷商業高等学校	
科目名	企業分析（学校設定科目）			
単元名	ライフプランとお金			
指導項目	・ライフプラン（ライフプラン） ・資金計画 ・キャッシュフロー ・シミュレーション			
単元の目標	（１）人生における働き方や生涯賃金、ライフイベントにかかる費用について理解する。 （２）ライフプランに応じた資金計画の大切さを知り、自身の生活設計に役立てられるようにする			
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	将来設計をする際に自身のキャッシュフロー表の動機付けができ、進路別に表作成できる技術を身に付けている。	モデル例を参考、お金の流れの問題点に気づき、解決しようとしている。	見直し例を参考に、中長期のライフプランに応じた資金準備を主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	
1 指導と評価の計画（6時間）				
時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次（2時間）	<p>1 働く、税金、社会保障</p> <p>長い人生を生き抜くための、お金の稼ぎ方・働き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな働き方について考える。 雇用形態によるメリット・デメリット働き方改革について理解する。 ・ 税金、社会保険、民間保険について理解する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用形態による労働者のメリット、デメリットについて基礎的な知識を理解している。 ・ 給与明細から差し引かれている税金や社会保険料について理解している。 <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次（2時間）	<p>2 ライフプランとお金</p> <p>中・長期の具体的なお金の流れをつかみ、前もって資金計画を立てることの大切さを実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来のライフプランを設計する。 自らのライフイベントと必要なお金の準備を考える。 ・ キャッシュフロー表を作成する。 具体的な数字を用いて、お金の流れを確認する。家計収支と貯蓄残高の推移をシミュレーションする。 ・ キャッシュフロー表のシミュレーション結果についての実現可能性を考察する。 	態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らのライフイベントに必要なものを的確にまとめようとしている。 ・ ライフイベントに掛かる具体的な費用を理解し、協働的に調べている。 ・ キャッシュフロー表の内容についてその実現可能性を他者に説明できる。 <p>観察・ワークシート</p>

第三次 (2時間)	3 キャッシュフロー表の見直し 前もって資金不足などの問題を発見し、早めに対処法を考えられるようになる。	態 思 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 自ら作成したキャッシュフロー表の問題点を発見しようとしている。 グループで問題点の具体的な対応策を検討し、キャッシュフロー表を修正できている。 既習事項や作成したキャッシュフロー表から未来の家計が予測できている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ワークシート</div>
	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュフロー表の問題点を整理する。具体的な問題点を抽出する。 キャッシュフロー表の見直し問題に対する対策を考え、キャッシュフロー表を修正する。 キャッシュフロー表をもとに、未来の家計を予測する。 税金、社会保険、貯蓄、投資、ローン、保険などの要素を加え、未来の家計を予測する。 			

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- 小テストの各設問への解答をもとに、理解している状況を読み取り評価する。
- 協働的な学びをとおして、具体的な費用を調べることができているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- 自ら作成したキャッシュフローの問題点や矛盾点を見つけているかを評価する。
- 自らのキャッシュフローを他者に理論的に説明できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループで調べ学習や協議による対応策の検討場面では、個々の生徒の取組や役割分担、議論の活発ぶりや発展性を観察する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- 既習事項をもとに具体的なキャッシュフローを作成する場面で「努力を要する状況」(評価C)の生徒に対しては、個別指導を行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田市立秋田商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	決算整理（貸し倒れの見積もり）		
指導項目	(3) 決算 ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 決算整理における見積もり額の計算と記帳法、貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理の記帳法を身に付ける。貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理においては、貸倒引当金と貸倒額の金額の差や、貸し倒れになった売掛金の発生時期を基に判断し適切に処理する。 (2) 決算整理の目的や評価勘定と関連付けて決算整理における貸し倒れの見積りの意義を見いだす。 (3) 貸し倒れの取引に関心を持ち、決算の意義や貸し倒れの処理の違いについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	貸し倒れの見積もり額の計算と記帳法、貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理において、貸倒引当金残高や売掛金の発生時期から判断し適切な処理をしている。	決算整理の目的や評価勘定と関連付けて、決算整理における貸し倒れの見積りの意義を見いだしている。	決算整理における貸し倒れの見積りに関する取引について、自ら学び、結論を導き出そうと主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1 指導と評価の計画			
時間	ねらい・学習活動	評価 観 点	記録 記 録
第一次（2時間）	1 貸し倒れの見積もりの処理① 決算における貸し倒れの見積もりや関係する勘定科目の意味を理解し、基本的な仕訳や見積額の計算方法などの処理方法を身に付ける。 ・貸し倒れ発生時の処理について確認する。 ・貸し倒れの見積額と次期に回収と予想される売掛金の金額を計算し、仕訳の記帳法を確認する。	知	○ ・取引の内容を理解し、貸倒引当金の見積額の計算と仕訳を適切に行っている。 観察、ワークシート

○十分満足できる状況（A評価）の記述例

1. 借方（貸倒引当金） 20,000 / 貸方（売掛金） 30,000
 （貸倒損失） 10,000 / （ ）

理由 貸倒引当金の残高が20,000円であり、貸倒額が貸倒引当金残高を超える不足分は、貸倒損失となる。

2. 借方（貸倒損失） 30,000 / 貸方（売掛金） 30,000

理由 当期発生した売掛金は貸倒損失となる。貸倒引当金は前期発生した売掛金をもとに設定された準備額のため、当期発生した売掛金に対して貸倒引当金を取り崩すことはできない。

- ・1および2のケースについて、前期および当期発生した売掛金の違いや、貸倒引当金の残高と貸倒額から正しい処理ができています。

○努力を要する状況（C評価）の記述例

1. 借方（貸倒引当金） 30,000 / 貸方（売掛金） 30,000
 （ ） / （ ）

理由 貸し倒れ発生時は、貸倒引当金を取り崩して補填する。

2. 借方（ ） / 貸方（売掛金） 30,000
 （ ） / （ ）

理由

- ・1および2のケースについて、前期発生した売掛金として処理することができていない。理由についても、貸倒引当金の残高と貸倒額から正しい判断ができていない。また、解答が記載されていない箇所がある。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・決算の意義について理解している状況については、ワークシートの記述から読み取り評価する。最初に考えた自分の考えと、グループで話し合った後の考えをそれぞれ記述し、思考の過程や変容がどのように表現され、まとめられているかをもとに理解の状況の評価する。

○おおむね満足できる状況（B評価）の記述例

問 なぜ実際に発生していない貸し倒れに対して、貸倒引当金を設定するのだろうか？

※決算時に貸倒引当金を設定することにどんな意味があるのだろうか。

STEP①自分の考え

- ・貸倒引当金を設定することで売掛金の実質額が求められるため。

STEP②グループの考え

- ・売掛金の現在高を評価し直すことで、正確な金額が求められるから。

- ・自分の考えが記載され、貸し倒れの見積りの意義についての適切な考えが記載されている。

○十分満足できる状況（A評価）の記述例

問 なぜ実際に発生していない貸し倒れに対して、貸倒引当金を設定するのだろうか？

※決算時に貸倒引当金を設定することにどんな意味があるのだろうか。

STEP①自分の考え

- ・貸倒引当金を設定することで売掛金の実質額が求められ、売掛金の現在高を評価し直すことで、正確な金額が求められるから。

STEP②グループの考え

・正しい金額に修正された手続きを行うことで、利害関係者に対しても正確な報告をすることができたり、自社の経営判断などにも生かすことができるから。

・自分の考えが記載され、決算整理における貸し倒れの見積りの意義についての適切な考えが記載されている。

○努力を要する状況（C評価）の記述例

・記載がない箇所がある。貸し倒れの見積りの意義についての適切な考えが記載されていない。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートおよび小テストの記述から授業や課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・自らの考えをもとに、グループで協力して意見を出し合い、結論をまとめ、考えを記入しているかを評価する。生徒の取組状況を観察し、観察シートに記録する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

知識・技能がおおむね満足できる状況（B評価）および努力を要する状況（C評価）の生徒に対して、教科書の内容をもとに、貸倒引当金が売掛金などの貸し倒れに備えた準備額であり、前期の売掛金に対して取り崩すことができることを確認させ、評価勘定としての貸倒引当金の性質をしっかりと把握させるようにした。

思考・判断・表現が努力を要する状況（C評価）の生徒に対して、教科書の内容とワークシートをもとに、貸倒引当金から売掛金の実質額を求めてから決算を行うことで、決算整理の内容がどのように変化するかを考えるよう促すなどの支援が必要である。また、グループワークの状況などを確認し、協議のヒントなどを与えて活発な意見交換ができる雰囲気をつくるなどの支援も行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山形県立米沢商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	第1章 現金・預金の記帳		
指導項目	II 各種取引の処理 ①現金②現金出納帳③現金過不足④当座預金⑤当座借越 ⑥当座預金出納帳⑦その他の預金⑧小口現金		
単元の目標	(1) 仕訳帳や総勘定元帳のような主要簿と現金出納帳や当座預金出納帳のような補助簿の関係を理解させる。 (2) 簿記上の現金について学習し、仕訳や現金出納帳の作成方法・現金過不足について理解させる。 (3) 当座預金について学習し、仕訳や当座預金出納帳の作成方法・当座借越について理解させる。 (4) 小口現金に関する取引や記帳方法について理解させる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現金・預金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけられている。	現金・預金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	現金・預金の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	観点	記録	評価規準・評価方法
第一次 (1時間)	1 現金 2 現金出納帳 現金が関わる取引について記帳方法を理解し、現金出納帳の記帳方法や役割を理解できる。主要簿と補助簿の役割を理解できる。 ・現金勘定となるものについての理解 ・現金の入金と出金の仕訳を行い、現金出納帳に転記する。 ・仕訳⇒転記⇒現金出納帳記入の一連の学びをする。	知 技 思 判 表 主	○ ○	・簿記上の現金について理解し、現金に関する取引の仕訳や転記ができています。 観察 ワークシート ・現金出納帳について正しく記帳することができている。 ・主要簿と補助簿の役割や意味を理解できている。 観察 ワークシート
	3 現金過不足 現金過不足の意味を理解し、正しく処理することができる。実際有高に一致させることができる。 ・帳簿残高と実際残高の違いについて理解させる。 ・記帳方法を習得させる。			
第三次 (2時間)	4 当座預金 5 当座借越 6 当座預金出納帳 7 その他の預金 当座預金と当座借越について理解し、正しく処理することができる。当座預金出納帳への記帳方法や役割を理解できる。 ・当座預金の役割と仕組みについて理解する。 ・当座借越を理解し、仕訳ができる	知 技 思 判 表 主	○ ○	・当座預金の意味について理解し、当座預金に関する取引の仕訳や転記ができています。 ・当座借越契約について理解し、当座借越に関する取引の仕訳や転記ができています。 観察 ワークシート ・当座預金出納帳について正しく記帳することができています。 ・当座預金以外の預金について理解できている。 観察 ワークシート

第四次 (1時間)	8 小口現金 章のまとめ	知 技 主	○	<ul style="list-style-type: none"> ・小口現金と定額資金前渡法の意味や役割について理解できている。 ・小口現金に関する取引を理解し、小口現金出納帳を正しく記帳することができる。観察 ワークシート ・現金・預金の記帳について全体的に理解することができる。観察 小テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・小口現金の意味や定額資金前渡法について理解し、正しく処理することができる。小口現金出納帳への記帳や役割を理解できる。 ・小口現金の意味と、定額資金前渡法の仕組みが理解できる。 ・小口預金出納帳に記帳させる。 			

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技能」の評価

- ・簿記上の現金、現金過不足、当座預金、当座借越、その他の預金、小口現金に関する基本的な取引及び仕訳について理解しているか評価する。
- ・補助簿としての現金出納帳、当座預金出納帳、小口現金出納帳に関する知識を身につけ、それらの帳簿に記入する方法を習得しているか評価する。
- ・通貨代用証券の取り扱い、小切手のしくみや特徴、不渡りの意味、および定額資金前渡法のしくみについて理解しているか評価する。

(2)「思考力、判断力、表現力等」の評価

- ・現金や預金に関する取引が、総勘定元帳だけでなく、補助簿にも記入される理由について考えようとしているか評価する。
- ・企業の取引では小切手が多く用いられる理由について考え、自分自身の言葉で表現しようとしているか評価する。
- ・定額資金前渡法が採用される意義について考え、自分自身の言葉で表現しようとしているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

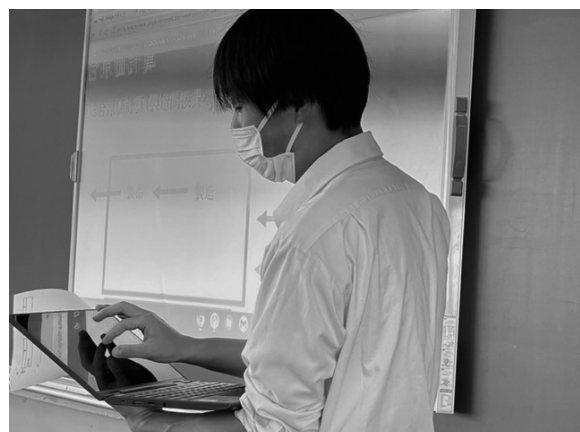
- ・現金預金に関する取引や、それにとまなう制度のしくみについて自ら学び、各取引の仕訳の方法や各種補助簿への記入方法を、主体的かつ積極的に身につけようとしている。
- ・演習する際には座席が近い者でグループを作り確認する作業を行う。その際に、グループ内のメンバーが理解できるように率先して学ぼうとしているなどを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・資産についての最初の部分である。特に小切手の処理で、小切手を受け取ったら「現金」の増加に、振り出したら「当座預金」の減少につながることを徹底して理解させたい。そうすることで検定試験等の仕訳問題でのケアレスミスを防ぐことになる。その為にも授業だけではなく家庭学習をすることで本当の力をつけられるに留意したい。
- ・補助簿と総勘定元帳を照合しての記帳の確認などは、情報機器を活用して作業時間を短く、そして分かりやすいように工夫した授業展開が今はできると思う。



グループ学習の様子



大型提示装置を使った授業

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	福島県	学校名	福島県立若松商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	商品売買の取引		
指導項目	ウ 商品売買		
単元の目標	(1) 取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 (2) 取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだして、科学的な根拠に基づいて課題に対応し、表現すること。 (3) 取引の記帳について自ら学び、適切な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだして、科学的な根拠に基づいて課題に対応し、表現している。	取引の記帳について自ら学び、適切な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

① 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1. 3分法 分記法との違いを意識しながら、3分法における商品売買の記帳方法を理解する。 ・3分法では「仕入」、「売上」、「繰越商品」を用いて記帳することを理解する。 ・返品・値引きの記帳方法について理解する。	知 思 態	○	・売買取引において3分法で記帳する方法を理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・売買取引の記帳を主体的かつ協働的に行っている。 観察
第二次 (2時間)	2 仕入帳 仕入れ、値引き、返品した際の仕入帳の記帳方法を理解する。 ・仕入れ、値引き、返品した際の摘要や内訳の記載事項を確認し、記帳方法を理解する。 ・総仕入高や値引高、返品高を用いて、純仕入高の算出方法を考察する。	知 思 態	○	・仕入帳の記帳方法に関して理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・記帳法の妥当性を実務に関連付けて思考している。 ワークシート、観察
第三次 (2時間)	3 売上帳 売り渡し、値引き、返品した際の売上帳の記帳方法を理解する。 ・売り渡し、値引き、返品した際の摘要や内訳の記載事項を確認し、記帳方法を理解する。 ・総売上高や値引高、返品高を用いて、純売上高の算出方法を考察する。	知 思 態	○	・売上帳の記帳方法に関して理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・記帳法の妥当性を実務に関連付けて思考している。 ワークシート、観察

<p>第四次 (3時間)</p>	<p>4. 商品有高帳 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">先入先出法、移動平均法の違いを理解し、記帳方法を身に付ける。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・仕入原価によって記帳し、商品残高を適正に把握するための帳簿であることを理解する。 ・先入先出法と移動平均法による記帳方法を理解する。 </p>	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先入先出法による商品有高帳の記帳方法に関して理解している。 ・移動平均法による商品有高帳の記帳方法に関して理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペーパーテスト (定期テスト)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・記帳法の妥当性を実務に関連付けて思考している。 ・実務では多くの帳簿を補助簿とし、同時に記帳が行われていることを理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークシート、観察</div>
----------------------	---	--	---

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・売買取引について分記法と3分法の違いを理解し、仕入帳、売上帳、商品有高帳に記帳する技術を身に付けているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・売買取引の記帳方法について考察して、記帳方法を選択し、自らの考えを表現できるかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・売買取引の記帳方法について自ら学び、効果的に情報を活用する態度を持ち、主体的かつ協働的に取り組んでいるかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「努力を要する」状況（C評価）の生徒は、課題の内容に対して、分記法と3分法の違いを理解できていないため、課題に沿って記帳方法を選択することができず、他者に自分の考えを表現できない。このような生徒には、身近な例を用いるなどして、気づきを促すような助言をし、生徒の視点に立った指導をしていきたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立水海道第二高等学校
科目名	簿記		
単元名	第3編 決算（その1）第18章 決算整理		
指導項目	決算整理 ア 決算整理とは イ 商品売買に関する勘定の決算整理 ウ 貸し倒れの見積もり エ 固定資産の減価償却 オ 現金過不足の整理 カ 当座借越への振り替え		
単元の目標	(1) 決算整理の意味とその必要性を理解させる。 (2) 3分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の処理法、現金過不足の処理、当座借越勘定への振り替えを理解させ、その記帳に習熟させる。 (3) 棚卸表の意味や記入する内容について理解させる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算手続きの意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	なぜ決算整理を行うのか、なぜこのような決算整理を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を明瞭に表現できる能力を身に付けている。	決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えているのかに関心を持ち、自ら考える態度を示している。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法						
		観点	記録							
第一次 (2時間)	1 決算整理とは 決算整理の必要性を理解し、商品の勘定残高を修正し、売上原価を計算することができる。 ・会計期間における正しい勘定残高について考える、これまでの学習から要因とその解決策を考察する。ペア学習で意見を出し合い共有する。 ・決算整理の目的を認識し、どのように修正すればよいかを考え、決算整理仕訳を行う。	能 思 思	○	・決算整理が必要な具体例を挙げる活動に、自らの意見と他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 ・ペア学習へ意欲的に取り組み、意見交換をしている。 観察、ワークシート・ノート						
	2 商品売買に関する勘定の決算整理 ・なぜ、商品に関する勘定の決算整理が必要か考え、ペア学習で共有し、表現することができる。 ・商品売買業は商品の売買によって利益を出していることを踏まえ、売れた(減った)商品が売上原価であることを理解している。 【略図】 <table border="1" style="display: inline-table; margin: 5px;"> <tr> <td>仕</td> <td>入</td> </tr> <tr> <td>純仕入高</td> <td>繰越商品</td> </tr> <tr> <td>繰越商品</td> <td>売上原価</td> </tr> </table>				仕	入	純仕入高	繰越商品	繰越商品	売上原価
	仕	入								
純仕入高	繰越商品									
繰越商品	売上原価									
・売上勘定と仕入勘定の残高を損益勘定に振替仕訳ができる。	知	○	ペーパーテスト(小テスト)							

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>3 貸し倒れの見積もり</p> <p>売掛金の貸し倒れのリスクや、固定資産の減価償却の必要性を理解し、それぞれ費用として計上することができる。</p> <p>・なぜ、決算日に貸し倒れを見積もるのかをペア学習で考え、意見を出し合い発表する。 ・貸倒引当金の計算をし、残高がある場合にはどのようにすればよいか考える。 ・次期に貸し倒れが発生した場合どのようなのか計算することができる。</p> <p>4 定額法による減価償却</p> <p>・なぜ、固定資産の価値の減少額を費用に計上するのかを考察する。残存価格についてペアの生徒と考え意見を出し合う。 ・定額法で減価償却の計算をする。その後どのように固定資産の価値を減らしていけばよいかを考える。</p>	<p>態 思 思 知 思 知</p>	<p>・売掛金残高は当期にかかわるものだから次期の費用にせず、決算に貸し倒れを計上する必要性を理解する。</p> <p>・ペア学習へ意欲的に取り組み、意見交換をしている。 ・ワークシートを活用し、目的や意味を理解して計算する。 観察・ワークシート・ノート ペーパーテスト (小テスト)</p> <p>・ペア学習を意欲的に取り組み、意見交換をしている。 ペーパーテスト (小テスト)</p>
<p>第三次 (2時間)</p>	<p>5 現金過不足の整理</p> <p>決算に際し、現金過不足・当座借越の期末の処理の必要性を理解し、整理することができる。決算整理の一連の流れを理解し、棚卸表の作成まで行う。</p> <p>・決算日になっても、過不足原因が判明しない場合は、雑損・雑益勘定に振り替えることを把握し、現金過不足を整理する仕訳を行う。 ・現金過不足は一時的に存在する勘定であることを理解している。</p> <p>6 当座借越勘定への振り替え</p> <p>・当座預金勘定が貸方残高の場合は、当座借越の状態にあることを理解し、決算における必要な決算整理仕訳を行う。</p> <p>7 棚卸表の作成</p> <p>・これまでの決算整理を一つにまとめた棚卸表の作成を行い、決算整理の一連の流れを確認する。</p>	<p>思 思 知</p>	<p>○ 現金過不足は事前に学習しており、再度確認し、決算整理について確認する。 観察・ワークシート・ノート</p> <p>○ 観察・ワークシート・ノート</p> <p>ペーパーテスト (小テスト)</p> <p>○ 章末テスト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・章末テストや小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートやノート学習を活用し、情報や資料の的確な整理や、理解度の深まりを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートに記述式の解答欄を設け、自らの考えを文章にまとめることができる。またペア学習でより深い学びにつなげ、他者の意見を参考にしながら発表することができるかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートとノートを活用し、ワークシート用いた意欲的なまとめを行っているかを評価する。また、教員が伝えた重要なポイント等を意識づけできるようなメモや工夫がなされているかを評価する。
- ・ペア学習への取り組みやペア学習を活かした発表ができたかなどの反省をワークシートに盛り込み、自己評価と教員の評価を併せて行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立栃木商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	商品売買の記帳		
指導項目	商品有高帳		
単元の目標	1. 商品売買の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. 商品売買の記帳の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する。 3. 商品売買の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	商品売買の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	商品売買の記帳の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応している。	商品売買の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	1 分記法と3分法 3分法による商品売買の記帳法を身に付ける。 ・分記法の長所と短所を考え、ワークシートに記入する。	知 態	○	・分記法の短所を改善する必要性から3分法が用いられることを理解している。 ワークシート ・3分法の基本的な内容とその記帳法について、自ら学ぼうとしている。 観察
第二次 (2時間)	2 仕入帳と売上帳 仕入帳の補助簿としての役割を理解させ、その記帳法を身に付ける。 ・教科書の例1の取引について仕訳し、ワークシートの仕入帳に記入する。 売上帳の補助簿としての役割を理解させ、その記帳法を身に付ける。 ・教科書の例1の取引について仕訳し、ワークシートの売上帳に記入する。	知 知	○ ○	・仕入帳に関する知識とその記帳法について理解し、正確な記帳を行っている。 観察、ワークシート、小テスト ・売上帳に関する知識とその記帳法について理解し、正確な記帳を行っている。 観察、ワークシート、小テスト
第三次 (2時間) 本時	3 商品有高帳 商品有高帳の補助簿としての役割を理解させ、先入先出法と移動平均法による記帳法を身に付けさせる。 ・ワークシート(1～4)に取り組む。 ・ワークシート(5)をまとめる。 ・教科書の例1の取引について仕訳し、商品有高帳に記入する。	思 態	○ ○	・商品有高帳の補助簿としての役割について考察し、ワークシートにまとめている。 観察、ワークシート ・先入先出法・移動平均法における相違点について関心を高め、理解できるまで粘り強く取り組もうとしている。 観察、ワークシート、振り返りシート

第四次 (1時間)	<p>4 商品売買損益の計算</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3分法による商品売買損益の計算を身に付ける。</div> <p>・教科書の例2の問題について、売上原価と商品売買益を計算する。</p>	知	○	<p>・3分法における商品売買損益の求め方を理解している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ペーパーテスト(小テスト)</div>
--------------	---	---	---	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

商品売買の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。

(2)「思考・判断・表現」の評価

商品売買の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けたか。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

商品売買の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

○ 指導に生かす評価（毎時間行う）

発問や机間指導等で、生徒の学習状況（単元の前半は、特に努力を要する生徒）を適切に見取って支援する

○ 記録に残す評価

単元のまとまりの中で、指導した内容の達成状況が適切に見取れる段階で行う
（定期試験、単元テスト、成果物、実技テスト、レポート等）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	決算		
単元の目標	<p>(1) 費用・収益の繰り延べと見越しなど、より正確な損益計算を行うための決算整理の意味を理解するとともに、決算整理仕訳や財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(2) 期間損益計算の観点から、なぜ費用・収益の繰り延べと見越しを行うのか発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。</p> <p>(3) 評価勘定の観点から、なぜ減価償却の記帳を間接法で行うのか発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。</p> <p>(4) 費用・収益の繰り延べと見越し、有価証券の評価など、より正確な損益計算を行うための決算整理事項に関心を持ち、自分から進んでまとめ、問題演習に取り組む。</p>		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	費用・収益の繰り延べと見越しなど、より正確な損益計算を行うための決算整理の意味を理解しているとともに、決算整理仕訳や財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	期間損益計算の観点から、なぜ費用・収益は繰り延べと見越しを行うのか発見する。評価勘定の観点から、なぜ減価償却の記帳を間接法で行うのか発見する。そして、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	費用・収益の繰り延べと見越し、有価証券の評価など、より正確な損益計算を行うための決算整理事項に関心を持ち、自分から進んでまとめ、問題演習に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (2時間)	<p>1 費用・収益の繰り延べ・見越し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 費用・収益の繰り延べ・見越しや切手・はがきなどの未使用分の意味とそれぞれの記帳方法を理解する </div> <p>■費用・収益の繰り延べ・見越しの基礎について理解する。</p> <p>■切手・はがきなどの未使用分についての意味を考察し、その処理方法について理解する。</p>	知	○	・費用・収益の繰り延べと見越し、切手・はがきなどの未使用分の処理の記帳などに関する基礎的・基本的な技術を身につけたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ペーパーテスト(小テスト) </div>

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>2 減価償却費（間接法）</p> <p>直接法と間接法の違いを発見し、基礎的・基本的な考え方を理解するとともに、仕訳と転記の技術を身に付ける。</p> <p>■減価償却の評価方法について、直説法と間接法の特徴や違いを考察する。</p> <p>■間接法のメリットを考察し、その処理方法を理解する。</p>	<p>思 知</p>	<p>○</p>	<p>・減価償却の評価方法について興味や関心を持ち、その種類の違いなどについて意欲的に探究している。</p> <p>ワークシート、評価シート</p>
<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 有価証券の評価替え</p> <p>有価証券の評価替えについて理解するとともに、仕訳と転記の技術を身に付ける。</p> <p>■有価証券の評価替えの基礎について理解する。</p> <p>■有価証券の評価替えについての意味を考察し、その処理方法について理解する。</p>	<p>知 態</p>	<p>○</p>	<p>・有価証券の評価替え処理の記帳などに関する基礎的・基本的な技術を身につけたか。</p> <p>ペーパーテスト(小テスト)</p>
<p>第四次 (2時間)</p>	<p>4 財務諸表の作成</p> <p>費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを含めた財務諸表の作成について習熟させる。</p> <p>■費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを含めた財務諸表の作成について理解する。</p> <p>■費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを行うことによって、当期純利益の算出がより正確になったことについて考察する。</p>	<p>態 思</p>		<p>・より正確な財務諸表を作成するための処理について、興味や関心を持ち意欲的に探究している。</p> <p>ワークシート、評価シート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、学習活動を通して身に付けた知識について、理解が深まっているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートを用いて、取り上げた課題について思考し得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・理解」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、小テストの際に無解答が多くある。基本的な処理の仕方について復習が必要となった。それらの生徒には、教科書や補習プリントなどを使用し、決算時における整理仕訳を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、基本的な知識や理解ができていない生徒に対しては個別指導を後日行うこととする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立新潟商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	財務諸表作成の基礎		
指導項目	(1) 決算 ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につける。 (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身につけている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 8桁精算表の作成</p> <p>個人企業の決算整理に基づいて8桁精算表の記帳方法を身につけるとともに、決算の見通しについて考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 決算整理を精算表に記入することによって、整理前残高試算表に加算または減算する理由を整理して、説明する。 記入後の精算表が総勘定元帳と相違ないかを確認し、決算の見通し及び決算の重要性について考察する。 	<p>思 態</p> <p>思 考</p> <p>知 識</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p align="center">観察、ワークシート ペーパーテスト(小テスト)</p> <p>・加算または減算する理由を、根拠に基づいて説明しようとしている。 ワークシート、観察</p> <p>・決算の必要性や重要性について理解しており、決算見通しを立てることができる。 ワークシート</p> <p>・資料に基づいて、精算表を作成する記帳方法を身につけている。 ペーパーテスト(小テスト)</p>
第二次 (4時間)	<p>2 損益計算書の作成 3 貸借対照表の作成</p> <p>総勘定元帳や精算表などの資料をもとに、損益計算書及び貸借対照表を正確に作成する技術を身につけるとともに、当期純利益に差異が生じた場合についても誤りを見つけることができ、その誤りに適切に対処することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 損益勘定と損益計算書の異なる点と貸借対照表において売掛金や間接法で記帳している場合の固定資産を控除形式で示す理由を考察し、説明する。 資料に基づいて損益計算書と貸借対照表を論理立てて作成する。 ワークシートにある証ひょうや精算表をもとに、損益計算書、貸借対照表の誤りを指摘し、根拠に基づいて整理する。 	<p>思 態</p> <p>知 識</p> <p>思 考</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>・相違点や控除形式で記帳する理由について理解しており、説明しようとしている。 ワークシート、観察</p> <p>・資料に基づいて、損益計算書と貸借対照表を作成する技術を身につけている。 ペーパーテスト(小テスト、定期考査)、ワークシート</p> <p>・損益計算書と貸借対照表、決算整理の訂正箇所気づき、訂正するための技術を身につけている。 ワークシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・小テストや定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、損益計算書や貸借対照表にある訂正箇所と内容を記述させるなどして、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートに思考の過程を記述する箇所をもうけ、知識や技術を基に判断した理由や結果について表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ペアワークやグループワーク、個別ワークにおける生徒の取組の様子などを観察し、評価する。
- ・ワークシートに記入してある内容から課題への取組状況を読み取り評価するとともに、学習をとおして身につけたことを記述させ評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートへの記入がほぼされていないものや「よくわかった」など具体性に乏しい記述であった。そのため、後日個別指導を行うとともに、演習時の学習グループ内での支援、ワークシートにおける記述の仕方について例を用いて指導することとした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	富山県	学校名	富山県立高岡商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	帳簿決算		
指導項目	財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、決算に関連する技術を身に付ける。 (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、決算に関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (2時間)	1 帳簿決算 帳簿決算の学習を通して、財務諸表の役割と記帳法を理解する。 ・決算時に作成した資料がビジネスの場面で活用される具体例をグループで話し合い、整理する。 ・総勘定元帳の締め切りや繰越試算表の作成について、基礎的な知識と記帳法について理解する。	知	○	・帳簿決算の過程や帳簿作成技術についての基礎的な知識を理解している。 ワークシート
第二次 (3時間)	2 財務諸表の作成 適正な決算整理と財務諸表の作成ができるようになる。 ・総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成について理解し、記帳技術を身に付ける。 ・貸借対照表と損益計算書について、その帳簿からどのようなことが読み解くことができるかを、考察させ、グループ内で意見を出し合い、発表する。	知 思	○ ○	・決算時に作成する帳簿について、正確に作成できる技術を身に付けている。 ペーパーテスト(小テスト) ・決算帳簿から得られる情報の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 ワークシート、評価シート
第三次 (2時間)	3 財務諸表の活用 作成した会計帳簿や貸借対照表と損益計算書から経営状況について考察できるようになる。 ・2社の会計帳簿や貸借対照表と損益計算書を比較して企業の特徴を読み取り、経営状況についてグループでタブレットの jamboard を用いて意見を出し合い、考察する。	態	○	・会計帳簿や貸借対照表と損益計算書から経営状況について考察し、自分の意見を調整しようとしている。 ワークシート、評価シート

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り、帳簿作成技術が身に付いているかを評価する。
- ・ワークシートを用いて、企業の事例から理論と実務とを関連付けて理解しているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、財務諸表を読み取り、具体的な課題を見いだしているかを評価する。
- ・財務諸表から読み取った企業の課題について思考し、知識や技術を基に経営状況を判断した過程や結果を自分の言葉で表現できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートと jamboard の記述からグループワークで他者の意見を聞き、自分の考えを調整しながら理解を深めようとする態度を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」について、「おおむね満足できる」状況であるB評価を「経営状況の比較や他者の意見に関連づけて考察し、自分の意見を調整しようとしている。」と設定した。

Jamboard に気づいたことや読み取ったことを付箋に記入し、他者の意見が書かれた付箋と関連づけて自分の意見が整理されているものをB評価とした。また、ワークシートでは、固定資産や借入金の金額に着目し、財政状況について読み取って意見を記述しているものなど知識を活用して粘り強く思考を深めている過程が見取ることができものをB評価とした。

「十分満足できる」状況であるA評価は、B評価に加えて「企業の活動や経営方針を推察し、今後の方針などについて考察できる。」とした。

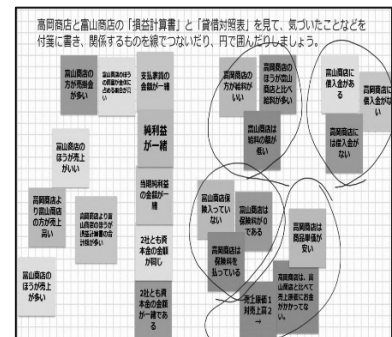
ブレインストーミングにおいて、多数の意見を出すだけでなく、意見のグループ分けをするなど、論理的に説明をしながらスムーズに展開される様子が見受けられたものをA評価とした。また、ワークシートにおいては財務諸表の限られた情報の中から、企業の経営戦略を想像し、「積極的な企業である」と考えたり、業種や従業員規模にも想像を膨らませ、自分の言葉で進んで表現し、粘り強く取り組んでいたりする様子を見取ることができものをA評価とした。

「努力を要する」状況であるC評価は、「経営状況について読み取ることができず、自分の意見を調整することができない。」「貸借対照表と損益計算書から勘定科目の意味を理解できていない。」と設定し、手立てとして、「売上総利益の求め方と意味を伝え、2社を比較するよう言葉がけをする。」とした。

今回の実施では該当する生徒はいなかった。

単元終了後のアンケートからは「財務諸表からどんな会社か推測するのは難しかったが楽しかった。」「付箋で気付いたことをそれぞれ貼ることで、みんなの意見が一気に見ることができたので、話をまとめやすかった。」「貸借対照表や損益計算書を身近に感じることができた。」などの前向きな意見が多くあった。

評価の結果を生かし、教材の貸借対照表や損益計算書の金額や条件などを細かく設定したものも用意するなど、思考を深める学習活動を段階的に展開できるよう改善していきたい。また、生徒が学習の成果物から自分の変容が視覚化できるようなワークシートの作成を行い、簿記を学ぶ面白さを伝え、会計の視点からビジネスを捉えられる生徒の育成を目指したい。



「おおむね満足できる」状況であるB評価の例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立宇治山田商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	現金と預金		
指導項目	取引の記帳 ア 現金と預金 イ 債権・債務と有価証券 ウ 商品売買 エ 販売費と一般管理費 オ 固定資産 カ 個人企業の純資産と税		
単元の目標	<p>(1) 現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法について理解し、技術を身に付ける。</p> <p>(2) 現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法を考察し、深い理解を身に付ける。</p> <p>(3) 現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法について理解し、その技術を身に付けている。	現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法を考察し、深い理解を身に付けている。	現金の入金と出金、現金出納帳および小口現金出納帳の記帳方法と、当座預金など預貯金の預け入れと引き出しおよび当座預金出納帳の記帳方法について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

1 指導と評価の計画 (5 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 現金・現金出納帳・現金過不足</p> <p>現金に関する記帳方法や現金出納帳の役割とその記帳方法について理解する。</p> <p>・現金として扱われるものには、どのようなものがあるかを整理する。</p> <p>・現金過不足の意味、記帳方法についてグループで相談して整理する。</p>	知	○	<p>・現金の入金と出金時の仕訳を理解し、仕訳できる技術を身に付けている。</p> <p>・現金出納帳の記帳方法を理解し、記帳が正確にできる技術を身に付けている。</p> <p align="center">ペーパーテスト</p> <p>・貨幣以外のものを挙げ、なぜ現金になるのかを考察し、深い理解に至っている。</p> <p>・現金過不足について、相談・考察し深い理解に至っている</p> <p align="center">ワークシート、観察</p>
		思 態	○	

<p>第二 次 (2時間)</p>	<p>2 当座預金・当座借越・当座預金出納帳 その他の預金</p> <p>当座預金と小切手のしくみ、当座預金に関する記帳方法や当座預金出納帳の役割とその記帳方法について理解する。</p> <p>・当座借越の意味、記帳方法についてグループで相談して整理する。 ・その他の預金の種類を考え、グループで相談して整理する。</p>	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <p>・当座預金の預け入れと引き出し時の仕訳を理解し、仕訳ができる技術を身に付けている。 ・当座預金出納帳の記帳方法を理解し、記帳が正確にできる技術を身に付けている。</p> <p>ペーパーテスト</p> <p>○</p> <p>・当座借越について、相談・考察し深い理解に至っている ・当座預金以外の預金を挙げ、違い等を考察し、深い理解に至っている。</p> <p>ワークシート、観察</p>
<p>第三 次 (1時間)</p>	<p>3 小口現金 小口現金出納帳情</p> <p>小口現金の意味および記帳方法や小口現金出納帳の役割とその記帳方法について理解する。</p> <p>・小口現金を利用する理由を考え、グループで相談して整理する。</p>	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <p>・小口現金出納帳の記帳方法を理解し、記帳が正確にできる技術を身に付けている。</p> <p>ペーパーテスト</p> <p>○</p> <p>・小口現金を利用する理由を考察し、グループでも相談し、深い理解に至っている。</p> <p>ワークシート、観察</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、知識・技術を理解している状況を読み取り評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、思考・判断・表現を理解している状況を読み取り評価する。
- ・授業で教わったことを基に、自分の頭で考える、グループで相談する中で、ただ、覚えるのではなく深く理解しているのかをワークシートやグループでの話し合いを観察して評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・プリント学習の中で、単に答えを記入するだけでなく、自分が主体的に学ぶためのまとめや工夫がなされているものを評価する。
- ・グループ学習の中でワークシートの記述やグループでの発言や取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・ペーパーテストにおいて、「知識・技術」が「思考・判断・表現」が努力を要する（C評価）であった生徒に対しては、再テストや個別指導を行った。また、「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」（C評価）の生徒は、グループ学習において消極的な生徒が多かったので、巡視をしながら助言をし、発言をうながす発問をした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	大和高田市立高田商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	伝票の利用		
指導項目	(5) 記帳の効率化 ア 伝票の利用 イ 会計ソフトウェアの活用		
単元の目標	(1) 記帳の効率化について理論と実務とを関連づけて理解するとともに、伝票の利用に関連する技術を身に付ける。 (2) 伝票の利用など記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	記帳の効率化について理論と実務とを関連づけて理解するとともに、伝票の利用に関連する技術を身に付けている。	伝票の利用など記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (1時間)	1 伝票の起票 記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、伝票の利用に関連する技術を身に付ける。 三伝票制について理解し、取引をどの伝票に起票するか考える。	知	○	一つの取引を、入金伝票・出金伝票・振替伝票のいずれに該当するか判断し、起票しようとしている。 ワークシート
第二次 (2時間)	1、2 伝票の集計・転記 伝票の利用など記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見出し、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 前時で学習した伝票から、総勘定元帳への転記の仕方について考える。 また、起票された伝票からどのような取引が行われたかを考える。	思 1 知 2	○	一連の取引が、いずれの伝票に該当するか判断し、起票しようとしている。 起票された伝票から正しく総勘定元帳へ転記できている。 ワークシート 小テスト
第三次 (1時間)	1 三伝票制による一連の記帳 伝票の活用による記帳の効率化について、主体的かつ協働的に取り組み、理解を深める。 起票から総勘定元帳への転記までの一連の記帳をグループで行う。	態	○	記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察 ワークシート

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ 伝票の意味と作成方法を理解しているか評価する。
- ・ 伝票の起票、集計・転記が適切にできるか評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ 入金取引・出金取引・その他の取引にどの伝票を用いるのかの判断を通じて、記帳の合理化を考へることができているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ 起票から総勘定元帳への転記までの一連の記帳をグループで行う。取引を示した教材を提示し、グループ内で起票、集計、転記の役割を分担し、効率良く、正確に記帳できるよう工夫しながら取り組ませる。
- ・ 伝票の利便性、仕訳集計表の活用、合計転記の利点等、伝票の利用による記帳の効率化について、主体的かつ協働的に取り組み、粘り強く理解を深めているかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

ワークシートの記入状況から、伝票の役割や起票方法、転記への一連の流れについてどの時点が理解不足かを確認し、グループで作成した帳簿と教科書の内容を確認させることで、伝票の利用の特徴を理解させる。また、グループでの活動を振り返り、どのような効果があったのかを一つずつ確認させ、グループの一員としての役割を果たしていることにも気づかせたい。再確認後、演習において技術的な側面は支援していくこととする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立箕島高等学校
科目名	簿記		
単元名	簿記の概要		
指導項目	(1) 簿記の原理 ア 簿記の概要 イ 簿記一巡の手続 ウ 会計帳簿		
単元の目標	(1) 資産・負債・純資産・収益・費用の基本的な概念及び貸借対照表と損益計算書の役割や構造について理解する。 (2) 実際に企業が作成した貸借対照表及び損益計算書と関連付けて見いだす。 (3) 簿記の概要について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	資産・負債・純資産・収益・費用の基本的な概念及び貸借対照表と損益計算書の役割や構造について理解している。	実際に企業が作成した貸借対照表及び損益計算書と関連付けて見いだしている。	簿記の概念について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (4時間)	1 資産・負債・純資産と貸借対照表 資産・負債・純資産の基本的な概念及び貸借対照表の役割や構造について理解する。 (1) 資産・負債・純資産に分類される勘定を記入する。 (2) 期首及び期末の貸借対照表をそれぞれ作成する。 (3) 資本等式及び財産法を用いて当期純利益を計算する。	知	○	資産・負債・純資産の基本概念及び貸借対照表の役割や構造について理解している。 小テスト、定期考査
	2 収益・費用と損益計算書 収益・費用の基本的な概念及び損益計算書の役割や構造について理解する。 (1) 収益・費用に分類される勘定を記入する。 (2) 期末の損益計算書を作成する。 (3) 損益法を用いて当期純利益を計算する。	知	○	収益・費用の基本概念及び損益計算書の役割や構造について理解している。 小テスト、定期考査
第二次 (1時間)	3 実務上の貸借対照表及び損益計算書 実際に企業が作成した貸借対照表及び損益計算書と関連付けて見いだす。 地元企業（小売業）が作成した貸借対照表及び損益計算書をそれぞれ2期分見比べ、資産や負債などがどのように推移しているか考察し、グループで話し合い発表する。	思 態	○	実際に企業が作成した貸借対照表及び損益計算書を見て考察し、既習の内容と関連付けて見いだしている。 観察、ワークシート 気付いたことを自分から積極的に発表するだけでなく、他者の意見にも傾聴するなど、学習に取り組む態度を調整しながら主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 観察

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

小テストや定期考査の解答をみて理解しているか判断し評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

グループワークにおいて、生徒の考察した内容や他者の意見が書き込めるようにワークシートの形式を工夫し、既習の内容と関連付けて具体的に見いだせているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

グループワークにおいて、自分から積極的に発表するだけでなく、他者の意見にも耳を傾けている様子も観察し、状況に応じて学習に取り組む態度を調整する部分も評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・技術」がA評価またはB評価にも関わらず、「思考・判断・表現」がC評価の場合、学習した内容と実際の企業が作成した貸借対照表及び損益計算書との関連付けが不十分であると考えられる。検定問題を解けるように指導するだけでなく、ビジネス社会とのつながりを意識して今後の指導改善に生かしたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立和歌山商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	決算（その1）		
指導項目	（1）損益計算書と貸借対照表の作成		
単元の目標	①決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけること。 ②決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。 ③決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算整理や財務諸表の作成について理論と実務を関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算整理や財務諸表の作成方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算整理や財務諸表の作成について、自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
3時間	1. 決算整理仕訳 2. 財務諸表の作成 3. 訂正箇所および訂正理由 4. ワークシートを活用し、決算手続きに関する質問にグループで協議する。 5. 全体で発表する	知 知 思 思 態 態	○ ○ ○ ○ ○	・決算整理事項および財務諸表の作成ができる。 ・決算整理事項および財務諸表の訂正箇所について、理論に基づいて正確に訂正できる技術を身に付けている。 ・決算手続きについて、記帳方法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。

2 主な評価方法や留意点について

（1）「知識・技術」の評価

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	決算整理仕訳や財務諸表の作成について、おおむね作成することができる。	決算整理仕訳や財務諸表の作成について、理論と実務を関連付けて理解しているとともに、決算整理仕訳や財務諸表の作成が正確にできる。	決算整理仕訳や財務諸表の作成ができない。

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	決算整理仕訳の訂正箇所について、理論に基づいて正確に訂正できる技術を身に付けている。	決算整理仕訳の訂正箇所について、理論に基づいて正確に訂正できる技術を身に付けているとともに、実務に関連付けて理解している。	決算整理仕訳の訂正箇所について、正確に訂正できない。

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	貸借対照表・損益計算書の訂正箇所について、理論に基づいて正確に訂正できる技術を身に付けている。	貸借対照表・損益計算書の訂正箇所について、理論に基づいて正確に訂正できる技術を身に付けているとともに、実務に関連付けて理解している。	貸借対照表・損益計算書の訂正箇所について、正確に訂正できない。

(2)「思考・判断・表現」の評価

<ワークシート内容>

1. 決算整理事項 a の仕訳を行う理由を述べよ。【思・判・表】
「期首商品」「期末商品」「売上原価」の言葉を用いること。
2. 決算整理仕訳 b の仕訳を行う上で気をつけることを述べよ。【思・判・表】
4. 貸借対照表作成において表記上気をつけることを述べよ。【思・判・表】
5. 損益計算書作成において表記上気をつけることを述べよ。【思・判・表】

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思・判・表	決算整理や財務諸表の作成方法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題におおむね対応している。	決算整理や財務諸表の作成方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算整理や財務諸表の作成方法の妥当性と実務における課題を見いだすことができない。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<ワークシート内容>

3. 決算整理仕訳 c の誤りを確認し、今後気をつけるべきことは何か述べよ。【態度】
 - ・ワークシートを持ち寄り、5名のグループ協議（20分）
 - ・発表（20分）

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
	決算整理仕訳を行う目的や貸借対照表・損益計算書作成にあたっての注意点について、おおむね粘り強く考察しようとしている。 目安 グループに入り、意見を出し合い積極的に取り組んでいる。	決算整理仕訳を行う目的や貸借対照表・損益計算書作成にあたっての注意点について、十分に粘り強く考察しようとしている。 目安 グループに入り、意見を出し合い積極的に取り組み、導き出した意見を述べるができる。	決算整理仕訳を行う目的や貸借対照表・損益計算書作成にあたっての注意点について、粘り強く考察することができない。 目安 Bに値しない。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

検定取得学習においては、主に決算整理仕訳を行い、貸借対照表・損益計算書の作成を行うことに重きが置かれる。しかし、より学びを深めるためにワークシートを活用し、特に誤りがある箇所について訂正できる力を評価するとともに、グループワークによって他の生徒との協働によって意見を述べるができる力を評価する。各観点別評価でCと評価される生徒については、暗記ではなくより根拠に基づく処理方法について指導を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立浜田商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	第12章 決算（その1）		
指導項目	決算 ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見出し、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・決算の記録・計算・整理に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。	・決算整理を含んだ決算について、一定の方法に従って判断処理しているか。	・基本的な決算整理を加えた決算に関心を高め、その決算処理の学習を的確に主体的に行おうとしているか。

1 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	1. 決算整理の意味 2. 商品に関する勘定の整理（売上原価の計算） 決算整理の必要性を理解したうえで、売上原価の算出において実務上必要である決算整理仕訳を理解する。 ・利益計算の算出方法や仕訳と転記の役割を振り返り、売上原価算出にあたり、決算整理仕訳の役割を理解する。	知態	○	・売上原価の算出にあたり、期首商品、期末商品に金額を転記する決算整理仕訳を理解している。 ペーパーテスト
第二次 (2時間)	3. 貸し倒れの見積もり 4. 固定資産の減価償却 貸倒れの対策としての引当金設定や固定資産の価値が減少に伴い、費用が発生することを理解する。 ・売掛金の意味を確認し、回収不能に備えた引当金の設定や、時間の経過に伴う価値の減少が費用として計上することを理解する。	知	○	・貸し倒れの意味や回収不能に備えた引当金の設定の役割を理解し、差額補充法による引当金の算出や仕訳を理解している。 ・直接法による価値減少の金額の算出方法や仕訳を理解している。 ペーパーテスト

<p>第三次 (1時間)</p>	<p>R 4 しまねの高校生学力育成事業で購入した学習教材によるグループ学習</p> <p>実務を想定したボードゲームを通し、顧客のニーズを把握したうえで最も売れる商品を仕入れ、販売の過程で利益を追求する難しさを理解する。</p> <p>・ 4人グループになり店主1と顧客3に分かれ商品の仕入から販売までを繰り返す。</p>	<p>思 態</p> <p>○</p>	<p>・顧客ニーズの正確な把握が利益に直結することを理解し、最大利益を追求するために、試行錯誤している。</p> <p>観察</p>
<p>第四次 (本時)</p>	<p>6. 8桁精算表</p> <p>1学期の内容を振り返り、整理記入欄と決算整理仕訳が繋がっていることを理解するとともに、精算表を作成する技術を理解する。</p> <p>・整理記入欄の必要性和記入方法を理解したうえで、8桁精算表を作成する技術を身に付ける。また、前次のグループ学習における個人の結果から自店の精算表を作成し、試算表の作成から通常取引、決算整理の流れについて考える。</p>	<p>知 思</p> <p>○</p>	<p>・決算整理仕訳に基づき整理記入欄に金額を正確に記入する方法を理解している。</p> <p>・精算表を正確に作成する知識を身に付けている。</p> <p>・グループ学習における結果をもとに、開業から通常取引、決算整理、精算表作成までの一連の処理を行うことができる。</p> <p>ワークシート、観察、ペーパーテスト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ペーパーテストの問題に対する回答をもとに、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ボードゲームの結果と簿記学習への繋がりを読み取り、利益の求め方を理解しているか評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・決算整理に関係する収益と費用の金額を求める計算過程を記述し、金額の変化から、利益に対する影響を思考し、さらに多くの利益を計上するための具体的な方法を、収益または費用の両方の観点から表現できるか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・(ボードゲーム)一つでも多くの商品を販売し、利益を計上するために、(質問による)グループ内の市場調査を工夫しているか観察し、質問の意図が説明できているか評価するとともに、観察シートに記述する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、精算表の作成において正確に作成できる知識が不十分であり、ボードゲームと簿記による決算整理との繋がりが理解できていなかった。そこでその生徒への手立てとして、授業で使用するプレゼンテーション資料や教科書の内容を確認させ、決算整理の意味と必要性を理解させた。またゲームによる自分の結果と簿記の決算との関連を説明し、決算整理に際して発生する必然的な費用などを理解し、利益を多くするための方法を収益または費用の観点から説明した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立邑久高等学校
科目名	簿記		
単元名	簿記の概要		
指導項目	(1) 簿記の原理 ア 簿記の概要 イ 簿記一巡の手続 ウ 会計帳簿		
単元の目標	(1) 簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 簿記の原理について企業活動の展開と関連付けて見いだす。 (3) 簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	簿記の原理について企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 簿記の意味、目的、種類、歴史、基礎的条件</p> <p>簿記の意味や目的を理解し、企業の経営展開とどのような関連があるか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業はどのような経営活動をおこなっているか、具体的な例をあげて考え、簿記の目的が財産管理や財政状態、経営成績の明示であることを理解する。 簿記の歴史について、インターネットで調査することで、現代の企業経営との関連を考える。 	態	○	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味や目的を理解するために、企業はどのような経営活動をおこなっているか、具体的な例についての話し合いに意欲的に取り組もうとしている。 <p align="center">観察、ワークシート</p>
第二次 (3時間)	<p>2 簿記の要素、取引と勘定、仕訳と転記</p> <p>簿記の要素を身近なものから取り上げ、概念を理解し、適正な取引の記録と記録の効果的な活用ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記の要素にはどのようなものがあるのかを整理し、ワークシートの貸借対照表や損益計算書に記入することで、どのような活用ができるか考察する。 取引をただちに勘定口座に記入する方法では、記入もれや誤りを生じることになるため、仕訳と勘定口座への転記をすることが、簿記のしくみを支える必要な作業であることを理解し、身に付けている。 	思	○	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の要素を身近なものから考えることができる。財政状態と経営成績を明らかにする貸借対照表と損益計算書を、企業活動の展開と関連付けながら作成できている。 <p align="center">観察、ワークシート</p>
		知	○	<ul style="list-style-type: none"> 仕訳の意味と必要性を理解し、基本的な仕訳と勘定口座への転記を習得し、活用できている。 <p align="center">ワークシート</p> <p align="center">ペーパーテスト（定期考査）</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・本事例における「知識・技術」の評価規準は、簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けていることである。定期考査やワークシートの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・本事例では、ワークシートを用いて、取引をただちに勘定口座に記入する方法を体験させる。その後、仕訳をしてから勘定口座へ転記をする方が合理的だということを、実習を通して学ばせる。定期考査では、より多くの仕訳と転記を出題することで、技術が身に付いているかを確認する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・本事例における「思考・判断・表現」の評価規準は、まず、第一次では主に簿記の種類や歴史について調査したことをもとに自分なりの意見を表現することができるか、また第二次では簿記の要素を身近なものから考えることができるかどうか、次に財政状態と経営成績を明らかにする貸借対照表と損益計算書を、企業活動の展開と関連付けながら思考し、表現できているかを評価する。
- ・本事例では、まず、第一次でインターネットで簿記の種類や歴史について調査させた後、現代の企業経営にも共通する背景を考えさせ、ワークシートに記述させる。さらに第二次では、ワークシートを用いて、身近な簿記の要素を考えさせ、それが企業活動においてはどのようなものになるのかを考えさせる。次に企業の活動の流れをイメージしながら、貸借対照表と損益計算書を完成させる。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・本事例における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、簿記の意味や目的を理解するために、企業はどのような経営活動をおこなっているか、具体的な例を話し合う活動に意欲的に取り組もうとしているかを評価する。
- ・本事例では、ワークシートへの記述だけでなく、話し合いの様子を観察し評価する。簿記の授業の入り口になる重要な時間であるので、生徒同士がしっかりとコミュニケーションをとることができる状態にしてから、話し合いにもっていくなどの配慮と工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

第一次の時間は、「主体的に学習に取り組む態度」について重点を置いた。簿記の授業の入り口でもあり、かつ高校生にとっても重要な時期であることから、授業の始めに生徒同士の話し合いを円滑に進めるため、自己紹介を兼ねた1分間スピーチなどを取り入れるとともに、話し合いの様子を観察し、必要に応じて話し合いを促進するような声かけを行う。

「努力を要する状況」(C評価)の生徒が出た場合は、ワークシートへの記述が不十分であることが考えられるので、具体的な記述内容について、教科書等で事例の確認をさせ、インターネットでの調査、確認を促すなど、今後のワークシートの記述が行えるようにアドバイスをする。

生徒同士の話し合いなどが苦手な生徒が多く存在することも考えられるので、その後の授業では、グループを変えながら自己紹介やスピーチを取り入れて、簿記の授業をとおして生徒同士が助け合う集団作りを行い、生徒同士の有機的なつながりを促進することが、この時期の授業には必要である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山口県	学校名	山口県立徳山商工高等学校
科目名	簿記		
単元名	本支店の会計		
指導項目	(4) 本支店会計 ア 本店・支店間取引と支店間取引 イ 財務諸表の合併		
単元の目標	(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 支店会計の独立と本支店間の取引</p> <p>支店会計の独立の意味を理解させ、本支店間の取引の意味とその記帳方法を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで、支店を持っている企業名を挙げる。 本店と支店を一つの会計単位として処理せず、支店会計を独立させることの意味や必要性を学習する。 本支店間の取引の仕訳を理解し、例題に取り組む。 	知 態	○ ○	<p>・支店会計の独立の意味と本支店間の取引に関する基本的な内容を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。グループ内で積極的に意見を出し、例題を使ってその記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。</p> <p align="center">観察、ワークシート</p> <p>・例題に取り組みながら、本支店間の取引について自らの考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けたか。</p> <p align="center">ワークシート、ペーパーテスト (確認小テスト)</p>

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>2 支店相互間の取引</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本店集中計算制度の意味と支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・支店が二つ以上設けられている場合の支店間の取引の仕訳を考え、本店集中計算制度の利点について考察する。 ・本店集中計算制度を採用している仕訳について理解する。 	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支店が二つ以上設けられている場合の支店間の取引の仕訳を理解しているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>ペーパーテスト (確認小テスト)</p> </div> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支店が二つ以上設けられている場合の本店集中計算制度の利点を考察し、その仕訳について理解しているか。例題を使って、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>ワークシート、評価シート</p> </div>
<p>第三次 (3時間)</p>	<p>3 本支店の財務諸表の合併</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本支店の財務諸表の合併の意味と合併財務諸表を作成する技術を習得させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本支店が個別に作成した財務諸表を合併する意味と必要性を考え、ひとつの企業としての財務諸表をグループで作成し、通常の財務諸表の作成時との処理の違いや問題点を考察、学習する。 ・合併時に注意することを理解し、個別に問題を解く。 	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について基本的な内容を理解し、作成法を身に付けたか。また、一定の方法で判断処理しようとしているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>ペーパーテスト (定期考査)</p> </div> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本支店の貸借対照表と損益計算書の合併の手続きとその作成法に関心を持ち、進んで取り組み、作成した貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を理解しようとしているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>ワークシート、評価シート</p> </div>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・小テストや定期考査の解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・取引の内容を読み取り、適切な勘定科目を選択して仕訳ができているかを評価する。
- ・なぜその処理や仕訳が必要なのかを考察し、理由やその処理の過程をワークシートに記入、表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・個々の生徒が意見を出し合い、グループで協力して課題に取り組む様子を観察し、観察シートに記述する。
- ・ワークシートには、個々の生徒の考えと解答やグループ活動での気づきを書き込めるようにし、記述から課題の取り組み状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、グループ活動で取り組んだワークシートや個別の課題プリントに無解答がある、誤答のままにしているなど取り組み状況が不十分であった。そこで、それらの生徒には、授業においては活動グループ内での支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立高松商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	債権・債務と有価証券		
指導項目	(2)取引の記帳 ア 現金と預金 イ 債権・債務と有価証券 ウ 商品売買 エ 販売費と一般管理費 オ 固定資産 カ 個人企業の純資産と税金		
単元の目標	(1)債権と債務の記帳について、実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)債権と債務の記帳法の必要性和実務における課題を見だし、補助簿の在り方や課題に対応する。 (3)債権と債務の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	債権と債務の記帳について、実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	債権と債務の記帳法の必要性和実務における課題を見だし、補助簿の在り方や課題に対応している。	債権と債務の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 掛け取引</p> <p>債権と債務の意味を理解し、実務を関連付けて補助簿が用いられていることを理解する。</p> <p>・グループで債権と債務の具体的な事例を発言し合い、立場に応じて債権と債務が発生し、消滅する例を整理する。</p> <p>・債権と債務の基礎的な知識や、売掛金元帳と買掛金元帳の記帳法について理解する。</p>	<p>思 態</p> <p>知</p>	<p>○</p>	<p>・債権と債務に関する例を挙げる活動に、自分の考えに加え、他者の意見を聞き、意欲的に協働的に取り組もうとしている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・債権と債務がどのように増減し、売掛金元帳と買掛金元帳の記帳法について理解している。</p> <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次 (3時間)	<p>2 手形の取引</p> <p>具体的に商品売買の事例を考察しながら、実務に関連付けて、どのように手形を用いるのか理解する。</p> <p>・債権と債務の基礎的な知識を学び、商品代金を受け払いする手段として手形を理解する。</p> <p>・約束手形と為替手形の2種類があり、約束手形について確認する。記載内容やどのように債権と債務が発生し、消滅するのか具体例を用いながら理解する。</p> <p>・受取手形記入帳と支払手形記入帳の記帳法を学び、債権と債務の明細を記録するための補助簿として理解する。</p>	<p>知 態</p> <p>思</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>・掛け取引と手形取引に関する特徴を理解しながら、実務に関連付けて、手形取引に関心を持ち、取り組もうとしている。</p> <p>評価シート</p> <p>・手形取引により、どのような取引が行われているのか、いつ債権と債務が発生し、消滅するのか、理解している。</p> <p>・受取手形記入帳と支払手形記入帳の記帳法を理解する。</p> <p>ペーパーテスト（定期考査）</p>

第三次 (2時間)	3 その他の債権・債務の取引	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に商品売買以外の事例を考察しながら、日常生活に関連する内容で、どのように債権と債務が発生し、消滅するのか理解する。 商品売買以外でも、債権と債務が生じることを学び、前払金や前受金、未収入金や未払金など取引に応じて、仕訳を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品売買以外の場合でも債権と債務がどのように発生し、消滅しているのか具体的に説明している。
	<ul style="list-style-type: none"> その取引に応じて、正しく処理をすることができ、債権と債務の発生、消滅を理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> 商品売買以外の取引もビジネスの事象に応じて、正しく処理することができ、現状や課題について理解している。 	

観察、ワークシート

ペーパーテスト (定期考査)

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・売掛金元帳や買掛金元帳などの補助簿の記帳法について、理論と実務に関連して理解して、記帳技術を確実に身に付けていることをしている。
- ・得意先の補助簿を用いることで、回収率が高いことや資金不足になっていないかなど、現状に繋がるように演習に取り組んだ。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・この単元で学習する補助簿は、記帳法の妥当性と実務における課題を見いだすことで、経営の方法や補助簿の重要性を知ることができる。記帳法に多くの演習時間を費やし、定期考査で確認するだけでなく、ワークシートを用いることで記述式にし、必要性の意味を記入させた。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果やまとめる過程における生徒たちの取り組む姿勢や活動内容を観察し、観察シートに記入する。
- ・ワークシートを用いることで、授業での意識や現状にあった考え方がどのように変化したのかが分かるように記述内容や発問が重要になってくる。
- ・知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みのなかで、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が自ら意欲的に取り組む内容と、学習内容に時間がかかったとしても粘り強く取り組みを行えるかが大きな部分であると考えている。理解力は様々な状況になるため、グループ活動などを通して、全体的に理解が把握できることや、生徒間で支援できることが望ましい。教材研究も日頃から取り組むとともに、実務に応じた内容を常日頃から準備することが重要だと感じた。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立小豆島中央高等学校
科目名	簿記		
単元名	取引の記帳と決算		
指導項目	現金・預金の記帳		
単元の目標	(1) 現金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。 (2) 当座預金・その他の預金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。 (3) 小口現金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現金・預金の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。	現金・預金の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、適切に判断し、表現する能力を身につけたか。	現金・預金の取引に関心が高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1. 現金・現金出納帳 現金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。 ・ワークシートを用いて、質疑応答しながら、実際に記帳していくことで記帳の方法について理解を深めていく。 ・簿記で現金として扱われるものの基礎的な知識を理解するとともに、現金に関する取引の明細を記入する帳簿である現金出納帳の記帳の方法について理解する。	思 知	○ ○	・現金の種類について身の回りにあるものを具体的に説明し、記帳の方法について理解し、積極的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・現金に関する取引の明細を記入する帳簿である現金出納帳の記帳の方法について理解している。 問題集、ペーパーテスト(定期考査)
第二次 (3時間)	2. 当座預金・当座預金出納帳・その他の預金 当座預金・その他の預金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。 ・ワークシートを用いて、質疑応答しながら、実際に記帳していくことで記帳の方法について理解を深めていく。 ・簿記で当座預金として扱われるものの基礎的な知識を理解するとともに、総勘定元帳の当座預金勘定の残高の照合のために必要な当座預金出納帳の記帳の方法について理解する。 ・当座預金以外の預金に関する取引については、それぞれの種類ごとに勘定を設けて記帳することを理解する。	思 知	○ ○	・当座現金について引き出しの方法について説明し、記帳の方法について理解し、積極的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・当座現金に関する取引の明細を記入する帳簿である当座現金出納帳の記帳の方法について理解している。 問題集、ペーパーテスト(定期考査)
第三次 (2時間)	3. 小口現金・小口現金出納帳 小口現金の意味を理解させ、その記帳法を習得させる。 ・ワークシートを用いて、質疑応答しながら、実際に記帳していくことで記帳の方法について理解を深めていく。 ・簿記で小口現金として扱われるもの、基礎的な知識を理解するとともに、小口現金出納帳の記帳の方法について理解する。	思 知	○ ○	・小口現金の必要性について説明し、記帳の方法について理解し、積極的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・簿記で小口現金として扱われるもの、基礎的な知識を理解するとともに、小口現金出納帳の記帳の方法について理解している。 問題集、ペーパーテスト(定期考査)

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。
- ・定期考査への解答を基に、各単元の内容を理解しているかどうかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートを用いて、空欄になっている箇所を自分で考えて埋めていき、実際の記帳について、知識や技術を基に判断した過程や結果を正確に表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートを用いて基礎的な知識や記帳の方法について理解できたかどうか、併用問題集の演習を通じて、課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・授業に積極的に取り組もうとしているかを評価する。
- ・選択科目であるため、人数が少なく、グループで話し合っ解決する過程も評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・少人数の利点を活かすため、質疑応答の時間を確保し、授業時間内で理解を深めていく。また、併用問題集の演習を通じて、次月繰越、前月繰越、月ごとの締切線など個別に対応するとともに、共通して間違っ箇所については、全体でもう一度再確認するようにする。ペーパーテスト(定期考査)など、いい結果が得られない生徒には個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	決算		
指導項目	(3) 決算 ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(1) 指導と評価の計画 (3) 決算 ア 決算整理 (全4時間)

●…形成的評価、○…総括的評価 (定期考査も含む)

時間	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1	売上債権に対する貸倒れの見積もり、間接法による減価償却の記帳について理解する。	●	●	○	〔知①〕 問題集、ワークシート、観察 ・貸倒れの見積もり、減価償却について、理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔思①〕 確認テスト ・貸倒れの見積もり、妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 〔主①〕 ワークシート (ペア活動)、観察 ・貸倒れの見積もり、減価償却の必要性について自ら学び、適正な決算整理に協働的に取り組もうとしている。
2	費用・収益の繰り延べにともなう決算の手続きについて理解する。	●	●	○	〔知①〕 問題集、ワークシート、観察 ・費用・収益の繰り延べについて、理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔思①〕 確認テスト ・費用・収益の繰り延べについて、妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 〔主①〕 ワークシート (ペア活動)、観察 ・費用・収益の繰り延べの必要性について自ら学び、適正な決算整理に協働的に取り組もうとしている。
3	費用・収益の見越しにともなう決算の手続きについて理解する。	●	●	○	〔知①〕 問題集、ワークシート、観察 ・費用・収益の見越しについて、理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔思①〕 確認テスト ・費用・収益の見越しについて、妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 〔主①〕 ワークシート (ペア活動)、観察 ・費用・収益の見越しの必要性について自ら学び、適正な決算整理に協働的に取り組もうとしている。
4	消耗品費勘定の整理と、通信費・租税公課勘定の整理について理解する。	●	●	○	〔知①〕 問題集、ワークシート、観察 ・消耗品費、通信費・租税公課勘定の整理について、理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔思①〕 確認テスト ・消耗品・貯蔵品勘定について、妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 〔主①〕 ワークシート (ペア活動)、観察 ・消耗品費、通信費・租税公課勘定の整理の必要性について自ら学び、適正な決算整理に協働的に取り組もうとしている。

(2) 実践事例 (ワークシート)

1年生簿記 決算【費用・収益の繰り延べ(前払・前受)】

1年 H 番 氏名 _____

【知①】ワークシート
費用・収益の繰り延べとは何か、なぜ、繰り延べの仕訳を行う必要があるのか

◎費用の _____ 【 _____ 】

【計算例】
以下の取引について仕訳しなさい。
① ×1年8月1日、向こう1年分の店舗に対する損害保険料¥600を現金で支払った。
② ×2年3月31日、決算にあたり、上記保険料に関して必要な決算整理を行う。
③ ×2年4月1日、期首に前払保険料勘定の残高を保険料勘定に振り戻した。

	借方	貸方
①		
②		
③		

計算スペース

◎収益の _____ 【 _____ 】

【計算例】
以下の取引について仕訳しなさい。
① ×1年10月1日、向こう1年分の地代¥840を現金で受け取った。
② ×2年3月31日、決算にあたり、上記地代に関して必要な決算整理を行う。
③ ×2年4月1日、期首に前受地代勘定の残高を受取地代勘定に振り戻した。

	借方	貸方
①		
②		
③		

計算スペース

【思①】 **確認テスト**

1. 下記の一連の取引について仕訳しなさい。また、保険料の計算については計算スペースに記入しなさい。
① ×1年8月1日、向こう1年分の店舗に対する損害保険料¥1,200を現金で支払った。
② ×2年3月31日、決算にあたり、上記保険料に関して必要な決算整理を行う。
③ ×2年4月1日、期首に前払保険料勘定の残高を保険料勘定に振り戻した。

	借方	貸方
①		
②		
③		

計算スペース

2. なぜ、費用・収益の繰り延べを行う必要があるのか、自分の考えを述べなさい。

【主①】 **授業 振り返りシート**

Q1. なぜ、費用・収益の繰り延べを行う必要があるのか、自分の考えを述べなさい。

Q2. なぜ、費用・収益の繰り延べを行う必要があるのかをペアで話し合い、答えをまとめなさい。

Q3. 次の一連の取引についてペアと答え、仕訳しなさい。
① ×1年12月1日、向こう1年分の店舗に対する損害保険料¥1,000を現金で支払った。
② ×2年3月31日、決算にあたり、上記保険料に関して必要な決算整理を行う。

	借方	貸方
①		
②		

Q4. もう少し理解したい! 部分や間違いやすい部分について記入しよう!

(3) 主な評価方法や留意点について

【知識・技術】

本事例の【知①】教科書や問題集を活用した学習から、ワークシートに板書を写したり、説明をメモに取り、理解につなげている。
評価方法：費用・収益の繰り延べについて、理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(総括)

【思考・判断・表現】

本事例の【思①】評価ツール：確認テスト(ルーブリック評価)
評価方法：費用・収益の繰り延べについて、妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。

【主体的に学習に取り組む態度】

本事例の【主①】評価ツール：ワークシート(ルーブリック評価)
評価方法：費用・収益の繰り延べの必要性について自ら学び、適正な決算整理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価の実践事例 ペアワークの様子を観察したり、ワークシートの記述を見取ったりすることにより、評価を行う。また、粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面の双方の側面を一体的に見取るため生徒自らの意見やペアワークでの「気付き」に対するワークシートへの記述を評価する。粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面の評価の実践事例を下に示す。

(ア) 粘り強い取組を行おうとする側面の評価

上記のワークシートのように、生徒がQ1自ら考えたこと、Q2とQ3にペアワークを通して話し合ったことを記述させる。その記述内容から、生徒の新たな気付きや変容を見取ることにより、粘り強い取組を行おうとする側面を評価する。

B 評価 (おおむね満足できる)	A 評価 (十分満足できる)	C 評価 (努力を要する)
学習した内容を踏まえて、費用・収益の繰り延べの必要性について、おおむね粘り強く考察しようとしている。	B評価に加え、他者の意見を聞いて、自らの考え(学習)を十分に粘り強く考察しようとしている。 <判断の目安>自らの新たな気付きがあり具体的な記述にしている。	費用・収益の繰り延べの必要性に対する考察が不十分であり、粘り強く取り組む態度が見られない。[手立て]振り返りシート返却時に、良い例を積極的に取り上げるとともに、生徒には個別に指導助言し、今後に生かす。

(イ) 自らの学習を調整しようとする側面の評価

上記のワークシートのように、学習した内容を踏まえて生徒がQ4自ら学んだことを記述させる。その記述内容から、自ら学習を調整しようとする側面を見取って評価する。

B 評価 (おおむね満足できる)	A 評価 (十分満足できる)	C 評価 (努力を要する)
学習した内容を踏まえて、費用・収益の繰り延べの必要性について考察し、自分の考え(学習)をおおむね調整しようとしている。	B評価に加え、他者の意見や評価を聞いて、自らの考え(学習)を調整しようとする取り組みをしている。 <判断の目安>自らの新たな気付きがあり具体的な記述にしている。	費用・収益の繰り延べの必要性に対する自らの考えを考察する内容が不十分であり、改善するために粘り強く取り組む態度が見られない。[手立て]振り返りシート返却時に、良い例を積極的に取り上げるとともに、生徒には個別に指導助言し、今後に生かす。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎市長崎商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	財務諸表作成の基礎		
指導項目	(3) 決算 ア 決算整理 イ 財務諸表作成の基礎		
単元の目標	(1) 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 財務諸表作成の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	財務諸表作成の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 決算整理</p> <p>企業会計に関する法規と基準を実務に適用できるようになり、適正な決算整理について理解する。</p> <p>・売上原価の算定について理論と実務とを関連付けて理解する。</p> <p>・貸し倒れの見積もり、固定資産の減価償却費の計算と記帳、現金過不足の整理、引出金の整理について、決算整理の意味を考察し、理解する。</p>	思 態	○	<p>・売上原価を算定するための決算整理仕訳に関して、それぞれの振替仕訳が具体的にどのような意味をあらわすのかについて、主体的かつ積極的に考え、自分自身の言葉でまとめ、表現しようとしている。</p> <p>観察、ワークシート</p>
		知	○	<p>・決算整理事項について、その概要や決算整理仕訳を理解している。</p> <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次 (7時間)	<p>2 決算の手続きと財務諸表作成の基礎</p> <p>財務諸表作成の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて作成する力を身につける。</p> <p>・8けた精算表の作成方法について理解する。</p> <p>・決算の予備手続きと本手続きの必要性について考察し、それぞれの方法について習得する。</p> <p>・勘定式の貸借対照表と損益計算書の作成方法について理解し、資料をもとに財務諸表を作成する力を身につける。</p>	知	○	<p>・8けた精算表の作成方法、各種帳簿を締め切る方法、繰越試算表の作成方法、損益計算書と貸借対照表の作成方法について、それぞれ習得している。</p> <p>ペーパーテスト（定期考査）</p>
		態 思	○	<p>・損益勘定と損益計算書、繰越試算表と貸借対照表の違いについて主体的に考え、自分自身の言葉でまとめ、協働的に話し合いに参加し、理解を深めようとしている。</p> <p>ワークシート、評価シート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートの取り組み状況と正答箇所・誤答箇所から理解度を把握し、日々の授業での発問によって習熟状況を確認する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートの記述欄とまとめ欄を用いて、具体的な課題を見だし、自分自身で思考し、周囲との協働により意見をまとめているかを確認し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・周囲と協働し、意見交換している生徒の活動を観察し、ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・技術」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、決算整理事項の仕訳が十分に身に付いていないため、財務諸表や精算表を作成することができていなかった。そこで、それらの生徒には、教科書等で決算整理仕訳と整理記入欄の記入について確認させた後、再度個別に財務諸表や精算表の作成について指導した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立都城商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	簿記の概要		
指導項目	(1) 簿記の原理 ア 簿記の概要 イ 簿記一巡の手続 ウ 会計帳簿		
単元の目標	(1) 簿記の概要について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 簿記の概要について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。 (3) 簿記の概要について、自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簿記の概要について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	簿記の概要について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。	簿記の概要について、自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（19時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (5時間)	<p>1 簿記の基礎</p> <p>簿記の意味・目的など簿記の基礎を理解し、貸借対照表と損益計算書の役割・構造について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記の定義、目的、種類、歴史、前提条件など、簿記の基礎を理解し、記帳の重要性を理解する。 資産・負債・純資産の意味を明らかにし、貸借対照表の役割・形式を理解する。 純資産の増減と純損益の計算について考察し、貸借対照表を作成する。 収益・費用の意味を明らかにし、損益計算書の役割・形式を理解する。 損益法による純損益の計算について考察し、損益計算書を作成する。 	思 知 態	○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の基礎を理解し、純損益の計算について自ら考え理解を深めようとしている。 ワークシート、ペーパーテスト（小テスト） 貸借対照表と損益計算書の構造についての基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト（小テスト） 簿記の基礎に関する知識、貸借対照表と損益計算書の役割と構造について理解を深め、自己調整を図ろうとしている。 レポート作成
第二次 (10時間)	<p>2 簿記一巡の手続き</p> <p>取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続の基本的な流れを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取引の意味、ルールを理解し、勘定に記入する方法を理解する。 仕訳と転記の意味について理解し、取引から仕訳を導き出せるよう考察する。 主要簿の概念を理解し、仕訳帳および総勘定元帳の基本的な記帳を理解する。 試算表の意味および仕組みを理解し、総勘定元帳から試算表を作成する。 精算表の意味を明らかにし、損益法・財産法の計算式と関連させて作成方法を考察する。 決算の意味・必要性・重要性について理解し、振替の仕組みについて考察する。 	知 思 知 思 態	○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 取引から仕訳を考察し、仕訳帳と総勘定元帳への記帳方法を身に付けている。 ワークシート、ペーパーテスト（小テスト） 試算表の仕組みと精算表に関する基礎的な知識を身に付けている。 ワークシート、ペーパーテスト（小テスト） 決算の必要性・重要性・振替の仕組みについて、自ら意欲的に説明しようとしている。 レポート作成、評価シート

<p>第三次 (4時間)</p>	<p>3 会計帳簿</p> <p>主要簿と補助簿の関係性について理解し、簿記一巡の手続きに関する帳簿を作成する。</p> <p>・これまで学習した簿記一巡の手続きに関する帳簿の関係性について考察を深め、取引から決算に至る手順を理解する。</p>	<p>知 思 態</p>	<p>○</p> <p>・取引から正しい仕訳を導き出し、簿記一巡の手続きに関する帳簿作成技術を身に付けている。</p> <p>ワークシート</p> <p>○</p> <p>・簿記一巡の手続きについて、他者の意見を取り入れながら意欲的に説明しようとしている。</p> <p>レポート作成、評価シート</p>
----------------------	--	---------------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートの記述から、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるよう小テストの出題を工夫し、学習活動を通して必要な知識を身に付け、思考の過程を表現できるかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・第一次は自らの課題を見つけ、自己調整を図ろうとしているかをレポートの内容から評価する。レポートの内容が充実しているかを評価するため、枚数については評価に入れない。また、どのようなレポートを作成すれば良いのか、事前に丁寧な説明が必要である。
- ・第二次は個人で考えた結果を他者へ発表する形をとり、他者評価とする。表現方法の工夫や意欲的に取り組む態度を評価するため、評価シートの工夫が必要である。
- ・第三次はグループ活動によるレポート作成から、グループ内での役割を果たそうとしていたかを評価する。最初に明確な役割分担を行い、自身の役割を正しく理解することが大切である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、自己理解が不十分であり、自ら学習を調整しようとする意欲にかけていた。そこで、それらの生徒には、自身のこれまでの学習プリントの見直しとレポートの再提出を求めた。その際、生徒が意欲的に取り組めるよう、最初に提出されたレポートに「気付き」を促すコメントやレポート作成のヒントとなるコメントを記入して返却をした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	債権・債務と有価証券		
指導項目	(2) 取引の記帳 ア 現金と預金 イ 債権・債務と有価証券 ウ 商品売買 エ 販売費と一般管理費 オ 固定資産 カ 個人企業の純資産と税		
単元の目標	(1) 手形の種類、約束手形の振出・受取・割引・裏書・書換・不渡、手形貸付金、手形借入金、営業外受取手形、営業外支払手形の記帳法について理解する。 (2) 掛け取引、未収金、未払金、前払金、前受金の記帳法、株式や公社債などの有価証券の取得と売却の記帳法について扱う。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	取引の記帳について理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	それぞれの取引の記帳法について学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（7時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 手形の取引の記帳</p> <p>・手形の種類と約束手形の記帳、手形の裏書と割引、受取手形記入帳・支払手形記入帳の記入法について理解する。</p> <p>・約束手形が商品売買に用いられる理由や裏書や割引がなされる理由などについて、グループで話し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、取引のしくみを整理している。</p> <p>・小テストに記載されている取引を適切に処理し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。</p>	知 思 態	○ ○	<p>・手形貸付金、手形借入金、営業外受取手形、営業外支払手形について、的確に記帳できる技術を身に付けている。</p> <p>小テスト</p> <p>・約束手形の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>小テスト、観察</p>
第二次 (2時間)	<p>2 特殊な手形の取引の記帳</p> <p>・約束手形を振り出して金銭の貸借をおこなう場合と商品売買以外の取引で約束手形を振り出した場合の記帳法について理解する。</p> <p>・金融手形や営業外手形が用いられる理由などについて、グループで話し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、取引のしくみを整理している。</p> <p>・小テストに記載されている取引を適切に処理し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。</p>	知 思 態	○ ○	<p>・手形の種類、約束手形の振出・受取・割引・書換・不渡について、的確に記帳できる技術を身に付けている。</p> <p>小テスト</p> <p>・金融手形と営業外手形の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>小テスト、観察</p>

<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 その他の債権・債務の記帳</p> <p>・前払金と前受金、未収金と未払金、貸付金と借入金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券の記帳法について理解する。</p> <p>・その他の債権・債務の勘定科目で処理する取引について、グループで話し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、その他の債権・債務の取引の内容を整理している。</p> <p>・小テストに記載されている取引を適切に処理し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。</p>	<p>知 思 態</p>	<p>○ ○</p>	<p>・前払金と前受金、未収金と未払金、貸付金と借入金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券についての的確に記帳できる技術を身に付けている。</p> <p>小テスト</p> <p>・「その他の債権・債務」の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>小テスト、観察</p>
<p>第四次 (1時間)</p>	<p>4 有価証券の記帳</p> <p>・株式や公社債などの有価証券の取得と売却の記帳法の記帳法について理解する。</p> <p>・株式・社債・公債について、それぞれの内容を理解するとともに、有価証券勘定で処理する取引についてグループで話し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、有価証券に関する取引の内容を整理している。</p> <p>・小テストに記載されている取引を適切に処理し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。</p>	<p>知 思 態</p>	<p>○ ○</p>	<p>・有価証券の取得と売却についての的確に記帳できる技術を身に付けている。</p> <p>小テスト</p> <p>・有価証券の取得と売却の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、その課題に対応している。</p> <p>小テスト、観察</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問の解答を基にして、理解している状況を読み取り評価する。
- ・取引の内容を理解し、どの勘定科目を用いてどのように仕訳と転記をおこなうのが適切なかが身に付いているかどうかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・授業の途中に適宜グループによる討議の時間を設けて、「借入金と手形借入金を区別する理由」「受取手形と営業外受取手形を区別する理由」などについて考えさせ、小テストを用いてどの勘定科目を用いるのが適切なのか、その判断と表現を評価する。
- ・受取手形記入帳や支払手形記入帳などの補助簿の記帳については、なぜその補助簿が必要なのかを考えさせ、記帳させる。また会計ソフトウェアが発達すれば、こうした補助簿の学習は必要性があるのかないのかも考えさせ、その思考の過程や判断、表現を評価する。
- ・小テストに記述問題を用意し、その思考の過程や表現を評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における生徒の取組や役割を観察して評価する。
- ・小テストに「今回の授業で学習したこと」をまとめさせ、その内容を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」の生徒は、グループワークにおいて積極的な発言がみられず、また「今回の授業で学習したこと」についても無記入か改善点が多い記入のある生徒である。複式簿記を学習するうえで、仕訳や転記といった入門段階で理解が不十分な可能性があり、「簿記」の入門段階から学習の支援をおこなう。
- ・借方や貸方、資産と負債の定義などの「知識・技術」が不足している生徒には、個別学習をおこなう。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立浦添商業高等学校
科目名	簿記		
単元名	資産・負債・純資産と貸借対照表		
指導項目	簿記の五つの要素		
単元の目標	○資産・負債・純資産（資本）の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解させる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	資産・負債・純資産（資本）の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解している。	資産・負債・純資産（資本）について、実際の店舗と関連づけて理解している。	資産・負債・純資産（資本）の意味について、自ら学び、主体的かつ協同的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（1時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	1 資産 資産とは、企業がもっている財貨や債権をいうことを理解する。 ・おもちゃ屋さんを経営する太郎さんがお店をオープンするために何を準備するか、自分の意見をワークシートに記入し、グループで自分の発言と他者の発言から必要なものの具体例を整理する。	思 態	○	・おもちゃ屋さんのオープンに必要なものを自分なりに考え、他者の意見も取り入れながら意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート
	・資産の項目の「説明文を読み、おもちゃ屋に必要なものの何に当てはまるかを自分の意見をワークシートに記入し、グループでの意見をまとめる。	知 態	○	・おもちゃ屋のオープンに必要なものが簿記の要素のどれに当てはまるかを理解している。 観察、ワークシート
	・おもちゃ屋を経営する際に生じる債務について理解する。	思 知 態	○	・売掛金と借入金の違いを理解している。 ワークシート
	資産・負債・純資産（資本）の意味を明らかにし、それらの総合関係を理解している。 ・簿記では記録の対象となる項目を5つのグループに分けて分類・整理していることを理解する。 ・純資産を求める方法（資本等式）を理解する。	思 知 態	○	・簿記には5つの要素があることを理解している。 ワークシート ・純資産は資本等式で求めることができることを理解している。 観察、ワークシート
・振り返りシートに本時でわかったことや疑問に思ったこと・気になったことを記入する。	態	○	自ら学び、主体的に取り組もうとしている。 ワークシート	

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期テストや小テストの解答を元に理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートへの記入や問題への取り組みなどの学習活動を通して、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかどうかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートに振り返りの欄を設け、理解できたことやできなかったこと、疑問点などを表現できているか評価する。
- ・取り上げた課題に対して、知識・技術で学んだことを生かし、必要な値や適切な解答が記述できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで意見を出し合う際に個々の生徒の役割や取り組み状況を観察し、評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・検定取得の目標に向けた取り組み状況を評価する。検定前と検定後の気持ちの変化を記入できるようにワークシートの様式に工夫をする。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・簿記独特の考え方の理解が難しく、やる気を失ってしまう生徒が多いため、NHK高校講座などのデジタル教材を活用するなどの支援を行う。
- ・知識・技術の定着を図るために、反復学習が必要であるため、授業において演習の時間の確保に努める。

R5.()月()日()曜日

簿記の要素について知る

本時の目標

1. 考えてみよう?
太郎さんがおもちゃ屋さんを経営したいと思っています。お店をオープンするためには何を準備する必要がありますがあるかな。

必要なものを書いてみよう。

2. 簿記の5要素
◎簿記では、記録対象となる項目を5つのグループに分類・整理する。この5つのグループを簿記の()という。
() () () () ()

2. 資産
経営活動に役立つ財貨や債権などを()という。

	●紙幣や硬貨などの金銭
	●商品を掛け売り(代金を後日、受け取る約束で売り渡すこと)したとき、その代金を受け取る権利
	●販売する目的でもっている物品
	●他人に金銭を貸し付けて、後日、返済を受ける権利
	●パーソナルコンピュータ・コピー機・商品陳列ケース・営業用の机・いす・金庫など
	●店舗や事務所などの建物
	●店舗や事務所などの敷地

1年 組 番 氏名 ()

3. 負債
将来、一定金額を支払わなければならないなどの義務である債務を()という。

	●商品を掛け仕入れ[代金を後日、支払う約束で仕入れること]したとき、その代金を支払う義務
	●銀行などから借り入れた金銭を、後日、返済しなければならない義務

4. 純資産
◎負債は現金などの資産で返済されるので、資産を減少させる性質をもっている。いま仮に、負債を全額支払った場合、企業に残る資産があるとき、これを()という
◎純資産は次の計算式で求められる。
() - () = () ... ()
資 産 負 債

--	--

資産総額 - 負債総額 = 資本の額
() - () = ()

【振り返り】
①今日の授業でわかったこと

②疑問に思ったこと・気になったこと

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立青森商業高等学校
科目名	財務会計Ⅰ		
単元名	資産と負債		
指導項目	(1) 会計処理 ア 資産と負債 イ 純資産 ウ 収益と費用 エ 税		
単元の目標	(1) 会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (4時間)	<p>1 資産の分類、評価基準、会計処理 資産の会計処理に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を意識しながら適切な会計情報の提供と効果的な活用している。 ・各資産の会計処理と期末評価について理解する。</p> <p>・なぜ付随費用は取得原価に含めるのかを考察する。</p> <p>・なぜ、減価償却の処理をしているのか減価償却導入の歴史を意識しながら考察する。</p>	知	○	<p>・各資産の会計処理と期末評価について理解している。 ペーパーテスト(小テスト、定期考査)</p>
		思	○	<p>・取得原価に含めずに処理した場合、利益にどのような影響があるかを計算し、考察している。</p>
		態	○	<p>・減価償却が導入された時代背景について興味関心を持ち、ipad で調べながら、意欲的に説明しようとしている。 ワークシート、ロイロノート</p>

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>2 負債の分類、評価基準、会計処理 負債の会計処理に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を意識しながら適切な会計情報の提供と効果的な活用している。 ・各負債の会計処理と期末評価について理解する。</p> <p>・なぜ引当金を計上するか企業会計原則を意識しながら考察する。</p>	<p>知</p> <p>思 態</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>・各負債の会計処理と期末評価について理解している。</p> <p>ペーパーテスト(小テスト、定期考査)</p> <p>・教科書の企業会計原則の資料を見ながら、引当金の性質を意識しながら考察している。</p> <p>・企業会計原則に興味関心を持ち、その中でもこの単元で考えてもらいたい保守主義の原則について ipad で調べながら、意欲的に説明しようとしている。</p> <p>ワークシート、ロイロノート</p>
----------------------	--	-------------------------	----------------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。

・ワークシートやロイロノートを用いて、必要な情報を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、まとめているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、ipad でその様子を撮影する。

・ワークシートやロイロノートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートの工夫が必要である。

ワークシートは次ページ参照。

WHY 思考プリント
～なぜ、付随費用は取得原価に含めるのか～

年 組 番 氏名

①建物 10,000,000 円を購入し、買入手数料 100,000 円とともに小切手を振り出して支払った。この取引の仕訳を答えなさい。【知識・技術】

借方	貸方
建物 10,100,000	当座預金 10,100,000

②付随費用を取得原価に含める理由はなぜか、考えを答えなさい。

付随費用も含めて支払ったから。

③仮に買入手数料を「支払手数料」として処理した場合、当期純利益にどのような影響を与えるか、答えなさい。【思考・判断・表現】

支払手数料分利益が減る。

④例えば 30 年使う固定資産を取得したときに買入手数料を「支払手数料」で処理した場合、取得した年だけ利益が減ってしまう。最初の年だけ業績が悪くみえないようにしたいが、何かいい方法はないだろうか。答えなさい。

減価償却。

⑤減価償却の導入の歴史について調べ、まとめなさい。【主体的に学習に取り組む態度】

19世紀半ばに鉄道会社設立。固定資産への投資が膨大で、そこで、巨額の支出を数年にわたる費用として計上する減価償却が登場した。

③～⑤を経て適正な損益計算について理解し、考察し、いかに見取る。

⑥改めて、付随費用を取得原価に含める理由はなぜか、答えなさい。【思考・判断・表現】

適正な期間損益計算を行ったため。
→費用収益対比の原則に照らす。

WHY 思考プリント
～なぜ、引当金を設定するのか～

年 組 番 氏名

①売上債権の期末残高 (100,000 円) に対し、2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。この取引の仕訳を答えなさい。【知識・技術】

借方	貸方
貸倒引当金繰入 2,000	貸倒引当金 2,000

②引当金を設定する理由はなぜか、考えを答えなさい。

?

③教科書 pp22～23 を見て、企業会計原則の中から引当金を設定する理由となっている原則を一つ記入し、その内容を答えなさい。【主体的に学習に取り組む態度】

保守主義の原則。
→主観的の見積もりや判断をとる会計処理において、収益と資産については積極的に計上したほうが債権者や株主はよいかえめに計上し、費用と負債については積極的に計上したほうが債権者や株主にとっては望ましいといふ企業経営上の要請が理由とされている。過度の保守主義は禁止されている。

④保守主義の原則がなぜ必要かを調べ、まとめなさい。【主体的に学習に取り組む態度】

見手賃料が「収益のみ、費用控入れ」になると利益が多くなる。そこで当分法人税算の支払といった資金の流出が企業の財政状態を悪くすることや将来不利な環境になる。そういった事態を避けるために必要。

③④を経て、引当金の設定の理由を考察し、いかに見取る。

⑥改めて、引当金を設定する理由はなぜか、考えを答えなさい。【思考・判断・表現】

費用を前倒して計上する事により、株主や投資家に対して「悪いニュース」をい早く知らせる事ができるため。

【ワークシート使用の留意点】

ワークシートは作成したものをロイロノートにて配布する。その際、一つの問いを全員で考え、答えを共有しあえるようにする。最後の問いは知識・技術を踏まえたうえで思考できるように授業を展開する。ワークシートを使うことで評価の3観点を意識しながら、授業に取り組めるようになるのが狙いである。ワークシートの作成は問題の工夫により指導と評価が一体化になるように意識して作成する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があるとともに、減価償却が導入された時代背景に関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、減価償却が導入された時代背景がわかる動画を教えて促すなど生徒の興味関心を引き出す。さらに、演習においても、適切な対応ができなかったため、授業においては演習グループ内での支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。教師の指導改善については、ワークシートの生徒の記述内容を見て、問いの出し方を見直していくことも必要である。なるべく授業のうちに生徒が提出してくれたワークシートの内容についてフィードバックをしたいため、配布は紙ではなくロイロノートを使用した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立盛岡商業高等学校
科目名	財務会計Ⅰ		
単元名	無形固定資産		
指導項目	のれんの処理		
単元の目標	(1) 無形固定資産の会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 (2) 無形固定資産の会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 (3) 無形固定資産の会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	無形固定資産の会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	無形固定資産の会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	無形固定資産の会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 企業の買収 企業が他社を買収する事例を調査して、買収に至った経緯を考察し、理解する。 ・ソフトバンクは LINE 株式会社を 2019 年に買収したが、その際にかかった費用を予想する。 ・過去の買収事例についてインターネット等を利用して調査する。 ・買収による企業側のメリットとデメリットを考察する。	思 態	○	・買収に成功した企業と失敗した企業の事例に関心を持ち、意欲的に調査研究をしている。 観察、自己評価・授業評価シート
	2 企業の取り組み M&A において、ブランド力などの無形資産がもつ超過収益力を理解する。 ・日本経済新聞の記事から、大手菓子メーカーがチョコレートの原料となるカカオ豆で、サステナビリティ（持続可能性）に配慮した取り組みを広げていることを知り、各メーカーの取り組みおよびカカオ豆農家などにどのような影響を与えているか整理する。 ・日本生命が公開した子育てと女性の社会進出を支える CM「笑顔が大好き」、スバルが公開した交通事故ゼロの未来を表現した CM「一つのいのち」を視聴し、様々な企業が SDGs に取り組んでいることを理解する。	思 態	○	・新聞記事より SDGs に関わる取り組みを読み取り、整理した上で、自分の考えを盛り込むなど意欲的に取り組もうとしている。 観察、自己評価・授業評価シート
		思 態	○	・2社のCMより SDGs への取り組みが生み出す超過収益力を自分の考えとしてまとめ、意欲的に取り組もうとしている。 観察、自己評価・授業評価シート

<p>第二次 (3時間)</p>	<p>3 のれん＝企業価値</p> <p>仮に日本生命とスバルが合併した場合の予想を立て、企業価値を考察できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した企業の取り組みを参考にグループで考察する。また、様々な課題に対してあらゆる角度からの解決法があることを理解しながら考察する。 ・調査分析した内容をパワーポイントのスライドにまとめ、グループごとに発表および代表者はクラス全体で発表する。 ・前時に自ら考察した企業はなぜ買収するのかについて、発表やこれまでの授業を受けた上でさらに深化させていく。 	<p>知 態</p> <p>○</p> <p>思 態</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた自分の考えと、他者の考えを調整しながら積極的にグループ活動に参加している。 企業価値を高めるための調査分析や発表から、信用力・ブランド力・技術力・ノウハウなどの数字では表すことのできない資産である「のれん」の存在に気づき、まとめることができている。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の中の課題の解決に向けた取り組みを調査する中で、企業の魅力に関心を持ち、自ら意欲的にスライド作成や発表をしようとしている。 <p>自己評価・授業評価シート、スライド</p>
<p>第三次 (1時間)</p>	<p>4 のれんの処理</p> <p>これまでの活動から企業の買収や合併の際に受け入れた純資産額と支払った対価との差額がのれんであることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常、買収や合併をする際にはのれんが計上されるが、純資産額よりも安い金額で買収し、負ののれんが発生する場合もあることに触れる。 	<p>知</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライザップが積極的な買収をしていた事例から、のれんだけではなく、負ののれんも存在することに触れ、発展学習につなげる。 <p>自己評価・授業評価シート、問題集</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・ワークシートや問題集の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、必要な情報を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付ける中で授業当初と後半で企業価値という点からのれんについて理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートより買収に関わった企業の取り組みを整理し、まとめられているか評価する。
- ・ワークシートより合併による企業価値を考察し、自らの意見に加え、他社の意見を踏まえた上で様々な課題について思考しているかを評価する。
- ・企業の取り組みを調査分析した内容を整理し、世の中の課題とそれに対応する解決に向けた取り組みについてパワーポイントのスライドで表現できているか評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・買収に関わった企業の調査研究から個々の生徒の取り組みを観察し、特徴的な様子を見出して評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・グループで意見を交換し、結果をまとめる過程で、個々の生徒の生徒の取り組みや役割などを観察し、特徴的な様子を見出して評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートおよびスライドから課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際に、自分が調査した企業だけの思考だけではなく、他の生徒が調査した企業の取り組みを知った上で考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシート作りの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況 (C 評価)」の生徒は、各企業の取り組みに対して自らの意見の記述が不十分であるとともに、調査分析における企業の取り組みを整理し、スライドで上手く表現できていなかった。これらの生徒には、他の生徒の意見を紹介したり、上手くまとめられている生徒のスライドを紹介するなどの思考を促す支援が必要であると感じる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立水戸商業高等学校
科目名	財務会計Ⅰ		
単元名	税		
指導項目	(2) 会計処理 ア 資産と負債 イ 純資産 ウ 収益と費用 エ 税		
単元の目標	(1) 税について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 税に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 (3) 税について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	税について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	税に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	税について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 株式会社の税務 株式会社における法人税、住民税、事業税の会計処理、企業会計上の利益と税法上の課税所得の違いを理解する ・ グループで株式会社における法人税等の意味を理解し、タブレット端末を使用して資料を作成し、他のグループに発表する。 ・ 株式会社における法人税等の適切な会計処理を理解する。	思 態	○	・ 株式会社における法人税等の意味を説明ができるか。 作成した資料 観察
		知 思	○	・ 株式会社における法人税等の適切な会計処理ができるか。 ペーパーテスト (単元テスト)
第二次 (3時間)	2 税効果会計 税効果会計の意義及び将来減算一時差異と将来加算一時差異に関する基礎的な処理を理解する ・ グループで税効果会計の意味と役割を理解し、タブレット端末を使用して資料を作成し、他のグループに発表する。 ・ 貸倒引当金、減価償却、その他有価証券に関する税効果会計の会計処理を理解する。 ・ 税効果会計を適用した場合の財務諸表の表示について理解する。	思 態	○	・ 税効果会計の意味と当期純利益に与える影響を説明できるか。 作成した資料 観察
		知 思	○	・ 貸倒引当金等に関する税効果会計の適切な会計処理ができるか。 ペーパーテスト (単元テスト)
		知 思	○	・ 税効果会計を適応した場合の財務諸表作成に関する適切な処理ができるか。 ペーパーテスト (単元テスト)

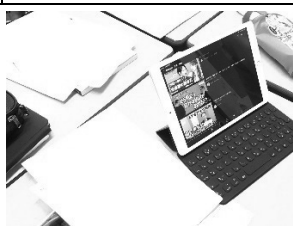


図1 YouTubeの動画を検索している様子



図2 タブレット端末で作成し提出された資料

茨城県の県立高校では、BYODでタブレット端末を準備している。本校では、iPadを推奨している。また、ロイロノート・スクールというアプリを導入し、授業内で活用している。

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・単元テストや定期考査で学習内容の知識の定着状況を図る問題を設定し、解答状況から、生徒の理解度を読み取り評価する。
- ・教師からの指示によって、タブレット端末を用いて情報を収集し、整理しているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・単元テストや定期考査で記述式の設定問を設定し、解答状況から、生徒の理解度を読み取り評価する。
- ・タブレット端末を用いて収集した情報を、他の生徒に説明できる資料を作成させ、思考の過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループを通して情報収集・意見集約を行い、その結果をまとめる過程における生徒の取り組みや役割を観察し、評価するとともに、観察シートに記録する。
- ・資料の記述から課題への取り組み状況を確認する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・技術」や「思考・判断・表現」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、単元テストや定期考査で誤答や無回答が多い状態であった。これらの生徒に対しては、どの部分で理解に躓いたかを確認し、個別に復習するための手段として、動画サイトの紹介を行う。

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、グループ内で自分が担う役割が曖昧なために、グループワークに入れていない状態であった。そのため、グループワークを開始する前に、各自の役割分担を明確にする時間を取り入れ、だれ一人取り残されない状態で学習が開始できるような支援を行うよう変更した。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県蘇南高等学校	
科目名	財務会計Ⅰ			
単元名	純資産			
指導項目	(2) 会計処理 ア 資産と負債 イ 純資産 ウ 収益と費用 エ 税			
単元の目標	(1) 会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応をする。 (3) 会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組み。			
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応しようとしている。	会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
1 指導と評価の計画 (27 時間)				
時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (5時間)	<p>1 純資産の意味と分類および資本金</p> <p>株式会社における純資産の構成と増資・減資の目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社の純資産の分類および内容を理解する。 増資及び減資の際の会計処理について理解する。 企業が増資や減資を行う理由をペアワークで考え、経営の視点から考察する。 実際の企業を例に、減資によるメリットとデメリットについて、法人税法とあわせて理解する。 	知 態 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 資本金の意味を理解し、適切な会計処理ができる。 企業が減資をする理由を予測し、調べたことを自分たちの言葉で説明することができる。ワークシート 1 <p>行動観察シート 自己評価表</p>

<p>第一次 (5時間)</p>	<p>2 資本剰余金</p> <p>資本剰余金と企業の合併について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実質的増資の際、資本金としなかった部分は資本準備金に計上することと、その他資本剰余金は資本金や資本準備金との間で振り替える意味について理解する。 企業が合併することの意味や状況を学び、特に吸収合併により行われる会計処理を理解する。 	<p>知</p> <p>態</p> <p>思</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 会社法を理解したうえで、資本金および資本準備金の役割と適切な処理ができる。 被合併企業の株主に対する株式発行を要することが理解できる。 <p>ワークシート2</p> <p>小テスト</p>
<p>第二次 (6時間)</p>	<p>3 利益剰余金</p> <p>利益剰余金の各項目と利益処分について学び、企業の経営方針や株主総会議決の仕組みを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 利益準備金とその他利益剰余金について理解する。 利益処分時における利益準備金の計上額について、会社法の解釈と算出方法とともに理解する。 企業は先を見通し、適切な任意積立金によって内部留保することの意味について学ぶ。 自身の取り組みについて振り返る。 	<p>知</p> <p>思</p> <p>態</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 会社法の理解と企業の財政状態により、利益準備金の計上額を算出することができる。 企業が中長期的に準備する積立金を経営的な視点により、考えることができる。 企業が集めたり、得たりした資金の使途について、利害関係者を意識しながら理解することができた。 <p>ワークシート3</p> <p>定期考査</p> <p>振り返りシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

会社法に規定する株式会社の資本金のことについて理解し、十分な計算・処理ができる。また、減債時における資本準備金やその他資本剰余金勘定への振替処理がイメージできるかどうかを評価した。

(2)「思考・判断・表現」の評価

指導と評価の計画で、「思」に○をつけた場面についてルーブリック表を作成した。また、「思考・判断・表現」を問うペーパーテスト（定期考査）問題例とその評価のルーブリック表を作成した。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「粘り強い取り組みを行おうとする側面」を横軸に「みずからの学習を調整しようとする側面」を縦軸に配し、A・B・C評価を実施した。ワークシート、レポート、小テスト等を実施し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の充実をはかった。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「財務会計1」の授業は、商業科目を学ぶ多くの生徒が履修する科目の一つであるが、「簿記」同様、多くの学校において、簿記検定合格を目指した授業展開になりがちである。そのため、教師による一方通行型の授業展開になる場合が多い。協働学習やタブレットを用いた学習への期待が高く、企業や大学側からの指摘もあり、実社会と学習内容を結びつけるような授業展開を構築することが急務である。

特に法的規制が強く、概念的要素が多い「純資産」にスポットをあて、教員側の一方通行型の授業に対する反省を始点とし観点別学習状況の評価による授業の充実とこれをもとにした「学習と評価の一体化」を目指すことにした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校
科目名	財務会計Ⅰ		
単元名	リース会計		
指導項目	(2) 会計処理 ア 資産と負債		
単元の目標	①リース取引に伴う借手側の会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②リース取引における借り手の会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。 ③リース取引における借り手の会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	リース取引に伴う借手側の会計処理について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	リース取引における借り手の会計処理に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができている。	リース取引における借り手の会計処理について自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

1 指導と評価の計画（2時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	リース取引の概要・分類 リース取引の概要と分類について理解し、借手側の会計処理について理解する。 ・リース取引の概要について、実例を挙げながら取引の全体像を理解する。 ・ファイナンス・リース取引の要件を理解し、リース取引の分類の判定を理解する。	態 知	○	・リース取引の実例について、具体例について、興味を持ち、自ら意欲的に学ぼうとしている。 ・ファイナンス・リース取引の要件を理解し、リース取引を分類することができる。 観察・ワークシート
第二次 (2時間)	リース取引の会計処理 具体的な計算例を解くことができ、ファイナンス・リース取引の利子抜き法と利子込み法の違いを分析し表現することができる。 ・具体的な計算例で利子抜き法と利子込み法を理解し、2つの違いについて、考察する。 ・オペレーティング・リース取引の会計処理について理解する。	知 思 態	○ ○	・計算例を自ら取り組み、適切な会計処理を行うことができる。 ・利子抜き法と利子抜き法の違いを考察し、その理由を表現することができる。 ・他者の意見も取り入れながら、リース取引の会計処理について理解することができる。 観察・ワークシート
		知	○	ペーパーテスト(小テスト) ペーパーテスト(定期考査)

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、問題文から必要な資料を収集し、情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようにワークシートの形式を工夫し、会計処理の違いについて自分の言葉で表現できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒がリース取引についての興味・理解が深まったことが分かるようなワークシートのつくりの工夫が必要である。

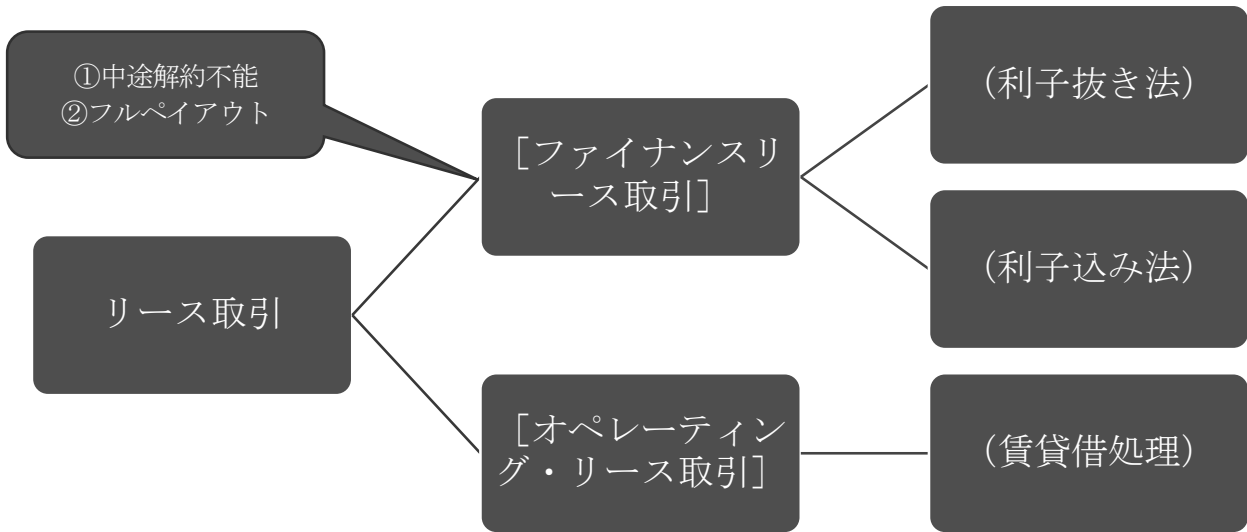
3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートが白紙や、リース取引に関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、リース取引の実例を示し、教科書等でリース取引の会計処理を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、演習においても、適切な対応ができなかったため、個別指導を後日行うこととした。

【ワークシート】

第7章 リース会計

【リース取引の分類と会計処理との関係】



【計算例】

九州商店は、令和〇1年4月1日（期首）に備品のリース契約を次の条件で締結した。なお、ファイナンス・リース取引に該当した場合、利息相当額については定額法で配分する。また、減価償却は耐用年数はリース期間、残存価額は零（0）とし、間接法で記帳している。

- 年間リース料 ¥100,000（毎年3月末支払い）
- 見積現金購入価額 ¥440,000
- リース期間 5年

	ファイナンス・リース取引 (利子抜き法)		ファイナンス・リース取引 (利子込み法)		オペレーティング・リース	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
〇1年4月1日						
〇2年3月31日						

【リース取引の会計処理の違いについて、考察しよう】

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪府立住吉商業高等学校
科目名	財務会計 I		
単元名	財務分析		
指導項目	(4) 財務諸表分析の基礎 イ 財務諸表分析の方法		
単元の目標	(1) 財務諸表分析について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけること。 (2) 財務諸表分析の方法の妥当性と実務における課題を見だし、それらを踏まえて、財務諸表を基に企業の実態を分析する。 (3) 財務諸表分析について自ら学び、会計情報の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身につけている。	財務諸表の作成に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応できている。	財務諸表の作成について自ら学び、適正な財務諸表による適切な会計情報の提供に主体的かつ協働的に取り組むことができている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>学習のねらい</p> <p>コンサルティング業務を行う上で、財務諸表分析が必要不可欠であることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資するならどの企業を選ぶか 投資家としてどの企業に投資すべきかを判断するために財務諸表分析を行う。 ・投資を決定するために必要な指標を知る 投資の判断を行う際に必要となる指標について、教科書を参考に考えさせる。 ・分析指標の計算 投資の判断に必要な指標を計算させる。どのような指標を活用しても良いことを周知する。 ・指標の比較 計算された通知が教科書に記載されている正常とされる範囲と比較させる。正常な範囲内でないことが考えられるため、違った視点で計算していくように指導する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> ・投資を判断させるために必要となる指標が検討できている。 正しい計算方法を用いることができている。 ペーパーテスト（小テスト）
		思		<ul style="list-style-type: none"> ・投資を促す指標を判断できている。 理論的な文章を書くことができている。 投資リスクを把握できている。 投資する判断しない判断の理由が書けている。 ワークシート
		態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協力することができている。 自身の考えを伝えることができている。 他者の意見を聞くことができている。 自らの意見を調整することができている。 粘り強く論理的な説明に取り組むことができている。 観察、ワークシート

<p>第二次 (2時間)</p>	<p>学習のねらい</p> <p>コンサルティング業務を行う上で、財務諸表分析が必要不可欠であることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資判断資料作成 分析結果から、投資を判断する説明文を作成する。作成された説明文が科学的な根拠に基づいた説明になっているかを確認させる。 ・発表 分析した内容を基に発表させ、聴衆者に投資を判断させる。 ・まとめ 財務諸表分析が実務につながることを理解させる。 	<p>知 思 態 ○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表が理論立てて構成されている。投資を判断する材料が述べられている。発表者の意見が明確に述べられている。 ・他者の発表を聞く際、投資家の立場で聞き、自らの分析の改善に向けて行動できている。 <p>グループ発表</p>
----------------------	--	--------------------------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・実際の企業の数値を扱うため、教科書や問題集とは違い、指標の計算に端数が出る場合がある。そのため、小数の四捨五入の処理を指示しておく。実際の企業では勘定科目や表示科目の表記が異なる場合があるため、事前に周知しておく。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・発表が理論立てて構成されており、論理的に発表されているかを確認する。その際、指標が示されており、投資判断に適切な指標であるかも含めて確認しておく。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・あくまでグループでの協働的な投資判断であるため、他者と協力できているかを重要視する。自身の意見を明確にしなが、他者を尊重し、論理的に発表を作ろうとしているかを観察しておく。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、このグループワークにおいてほとんど見られない状況であった。同評価となったごく一部の生徒については、自身の投資判断資料の作成において十分な考察ができておらず、また他の発表者が示す説明の際に十分傾聴することができず投資判断も不十分であったことから、財務諸表分析によって示された各項目の内容を再度確認するよう促すとともに、他者の発表を自身の理解に落とし込むことができるよう個別に支援を行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立徳島商業高等学校
科目名	財務会計Ⅰ		
単元名	財務諸表分析の方法		
指導項目	(1) 財務諸表分析の基礎 ア 財務諸表分析の意義 イ 財務諸表分析の方法		
単元の目標	(1) 財務諸表分析について理論と実務を関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 財務諸表分析の方法の妥当性と実務における課題を見だし、それらを踏まえて、財務諸表を基に企業の実態を分析する。 (3) 財務諸表分析について自ら学び、会計情報の効果的な活用主体にかつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務諸表分析について理論と実務を関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	財務諸表分析の方法の妥当性と実務における課題を見だし、それらを踏まえて、財務諸表を基に企業の実態を分析する力を身に付けている。	財務諸表分析について自ら学び、会計情報の効果的な活用主体にかつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
第一次 (1時間)	1 企業と利害関係者 2 ディスクロージャー 3 財務諸表分析の意味 企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解するとともに、財務諸表分析の意味や方法を明らかにする。 ・多様な利害関係者が企業に対してもっている関心について理解する。 ・ディスクロージャーとはどのようなものか、またディスクロージャーの必要性について説明する。 ・財務諸表分析の意味や方法を理解する。	知 思 態	○	・企業と利害関係者、ディスクロージャーについての基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(定期考査) ・財務諸表分析がなぜ必要なのか、企業の外部者、内部者など様々な立場から考察している。 観察、ワークシート
第二次 (3時間)	4 財務諸表分析の方法 5 関係比率法による分析 関係比率法による分析の種類を明らかにし、指標を求める計算方法や分析手法について理解する。 ・実際の有価証券報告書(2社)をもとに、安全性・収益性・成長性の指標について算出する。 ・指標がもつ意味について、なぜ高い方(低い方)が望ましいのか、理由を説明する。 ・同一企業における過去と現在の比較により、経営活動の変化が財務状態や経営成績に反映されているかを確認する。 ・同業他社比較により、違いがあるかを確認する。	知 思	○ ○	・安全性・収益性・成長性分析の指標を求める計算方法について理解するとともに、指標がもつ意味について考察している。 ペーパーテスト(定期考査) ・同一企業比較、同業他社比較により企業の課題を見いだすなど、財務諸表をもとに企業の実態を分析している。 観察、ワークシート

<p>第二次 (6時間)</p>	<p>6 財務諸表分析の実際</p> <p>財務諸表分析に関する知識と技術を活用し、比較したり関連付けたりすることにより分析を深め、企業の経営成績や財政状態の良否を判断できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3人のグループになり、興味のある同種企業2社の有価証券報告書を入手し、安全性・収益性・成長性の指標を正確に計算する。 ・会社概要や事業内容（ビジネスモデル・経営戦略）について、テレビのニュースや新聞、インターネットなどを活用して調べる。 (※調査活動は、家庭学習として行う) ・計算した指標と調べた事柄をもとに、同業他社比較や同一企業による過去と現在の比較をし、分析を深める。 ・グループごとに分析結果を発表する。 ・他のグループの発表を見て、お互いに評価する。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>・財務諸表分析の方法に思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断して学習を進めている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・財務諸表分析を実施する企業について関心を持ち、分析を行う上で必要な情報を収集し、整理している。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・分析結果について適切にまとめ、考えた内容について表現している。</p> <p>評価シート</p>
----------------------	--	----------------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査の各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、有価証券報告書や会社概要、事業内容等、分析に必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、分析に活用しているかを評価する。そして、学習活動を通して財務諸表分析に必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、企業の安全性・収益性・成長性における具体的な課題を見いだしているかを評価する。
- また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述や授業中の発言から、課題に取り組む状況を読み取り評価する。
- ・知識を獲得するために自ら考えて調べようとしたり、思考力を身に付けるために原因と結果を考えようとしたりするなど、粘り強い取組を行おうとしている側面を見取り評価する。
- ・相互評価シートからは、授業者が把握しきれなかったような生徒の取組の様子をより正確に把握するための補助的な材料として採用する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、定期考査の指標を求める問いや語群選択に誤答や無解答があるとともに、ワークシートの記述や探究活動への取組が不十分であった。そこで、それらの生徒には、教科書等で指標の求め方や分析方法、語群選択を確認させた上で、実際に出資者の立場で分析することをイメージさせ、分析結果をかみくだいて説明するなどの支援を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立球磨中央高等学校	
科目名	財務会計Ⅰ			
単元名	財務諸表のディスクロージャー			
指導項目	財務諸表分析の基礎 1 財務諸表分析の意義・方法 2 財務諸表分析 3 財務諸表分析が示す経済状況			
単元の目標	<p>(1) 知識・技術の習得について</p> <p>①企業の利害関係者の存在を認識し、財務諸表分析の意味と方法について理解する。</p> <p>②関係比率法による計算について、計算過程から計算結果を求めることができ、その結果を表やグラフでわかりやすく作成する。(情報処理の授業との科目横断)</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力の育成について</p> <p>①企業の安全性・収益性・成長性などの分析方法について思考を深め、知識や技術を活用して適切に判断して学習を進める。</p> <p>②表やグラフを用いて前年度や同業他社との比較についてグループで説明しあう。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度について</p> <p>①自分も一人の利害関係者としての意識を持ち、他者と協働して資料を収集して分析を行い、企業経営活動や経済状況について主体的に取り組む。(課題・レポート提出)</p> <p>②計算結果から分析まで、他者と協力して話し合い、他者からの意見を受け入れ、自分の考えを深めたり、改善したりする。</p>			
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	①財務諸表分析の意味や目的について正しく理解している。 ②財務諸表分析の方法について理解し、特に関係比率法の計算方法の技術を身に付けている。実際の財務諸表を用いて、分析を行うことができている。	①計算結果を企業の安全性・収益性・成長性の3つに分けることができ、企業ごとにグラフを見やすく作成することができる。 ②企業の安全性・収益性・成長性について前年度や他社と比較し、業績や今後の企業状況・課題について対応策を考察している。	①他者と協力して分析を行い、他者の意見と比較検討したり改善したりすることができる。 ②財務諸表分析における学習過程を振り返り、考えを深めたり、自己評価を通して改善したりすることができる。	
1 指導と評価の計画 (7時間)				
時間	ねらい・学習活動	評価		
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 企業の利害関係者と財務諸表分析の意味と方法 (実数法と関係比率法)</p> <p>財務諸表を分析することにより、企業の安全性・収益性・成長性を数値によって把握できることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の利害関係者を取り上げ、それぞれの立場で財務諸表のどの数値に注目しているかを、グループ内で取り上げ、整理する。 分析の方法について、実数分析法と関係比率法の基礎的な知識や、双方のメリット、デメリットを理解する。 関係比率法による、企業の安全性・収益性・成長性の分析について理解する。 	思	○	<p>・利害関係者を取り上げ、それぞれの立場で経営活動のどこに関心を持っているか、自分の知識を活用して、グループ内で積極的に発言しようとしている。</p> <p>観察・ワークシート</p>
		思 知	○	

<p>第二次 (3時間)</p>	<p>2 実際の企業の財務諸表をみてみよう</p> <p>実際の企業(菓子業界2社)の過去3期分の財務諸表分析を行い、安全性・収益性・成長性の推移を比較し、各企業の現状や今後の現状を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融庁のEDINETの電子システムから上場企業の有価証券報告書を閲覧できることを認識する。 各企業の財務諸表から関係比率法による分析を行い、安全性・収益性・成長性の数値から、それぞれの企業の特徴や現状等をグループ内で考察し、分析結果をまとめ、発表する。 2社の分析結果について、表とグラフを作成する。(情報処理の授業で作成：科目横断) 	<p>知 態 知 思 知 思</p>	<p>○ ○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際の有価証券報告書には、様々な会計情報が記載されていることを認識し、単に財務諸表を計算するだけでなく、金額の背景にある企業状況を理解するため意欲的に取り組もうとしている。 ワークシート・観察 企業の相違点を見つけるとともに、様々な要因を取り上げ、科学的根拠を用いて、意見をまとめようとしている。 他のグループの発表内容を記録し、さらに自分たちの発表内容をまとめ直し、考えを深めようとしている。評価シート 発表後にグループ別レポートを作成することで、学習の振り返りを行っている。 グループ別レポート及び自己評価
<p>第三次 (1時間)</p>	<p>3 財務諸表分析の結果が示す経済活動の状況</p> <p>財務諸表分析の数値結果が経済活動の状況の影響を受けていることを、考察できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報処理やマーケティングなどの科目の学習と関連し、財務諸表の数値が企業やビジネス社会全体に与える影響と課題について理解する。 経済状況の影響を強く受けた企業を2社取り上げ、財務諸表分析を行うとともに、様々な情報を収集し、調査する。(長期休業中課題) 	<p>思 態 知 思</p>	<p>○ ○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近年起きている、国内外の社会情勢や経済状況を取り上げ、そのことが企業にどのような影響を与えているのか、グループ内で意見を共有している。 自ら、実在の企業を2社取り上げ、財務諸表分析と情報収集を行い、企業の経営活動の今後の課題について考察している。 小テスト・定期考査・長期休業中課題

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- 定期考査では、計算問題及び分析の意義について理解している状況の評価する。
- 小テストでは、家庭学習課題の内容を出題し、評価する。
- ワークシートには、授業時の学習内容の記録と整理ができてきているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ワークシートに計算結果欄とともに、解説(科学的根拠を用いた説明)を示す欄を設ける。発表資料となる説明内容がまとめられているかを評価する。
- グループ発表前に、グループの発表項目を確認し、項目別に評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループ活動は役割分担(分析計算は全員で取り組む)し、役割における取組状況を評価シートに記録し、状況の評価する。
- 他者の発表と自分たちのグループの意見や考えに相違があったところは、記録をしておくよう促す。活動後に他者の意見から、自分の考えを深められたかがわかるようなワークシートやレポートの様式を工夫する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- 小テストで「知識・技術」がC評価、また、ワークシートやレポートの記録が少ない生徒は、財務諸表分析の計算ができていなかった。よって、財務諸表のつくりの解説と分析の基礎となる問題を個別に準備し指導を行った。また、グループ活動では、分析問題を他者と協力して計算するよう支援し、役割を事前に説明する時間を確保することが必要である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和島東高等学校
科目名	財務会計Ⅱ（3年次：2単位）		
単元名	財務諸表の活用		
指導項目	（1）有価証券報告書と連結財務諸表の活用 （2）企業価値の評価 （3）財務諸表分析と株価		
単元の目標	（1）連結財務諸表の必要性について理解する。 （2）連結財務諸表の入手方法について理解し、活用できる力を身に付ける。 （3）財務諸表分析の意味と分析の方法を理解する。		
単元の 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	（1）連結財務諸表を中心とする連結情報の意義と必要性を理解している。 （2）分析する際の連単倍率や代表的な指標を理解している。	連結財務諸表を中心とする連結情報について理解し、その分析にあたり適切な判断ができる。	連結財務諸表を中心とする連結情報に高い関心を示し、その分析法の学習を積極的に進めようとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
2	<p>1 有価証券報告書と連結財務諸表の活用</p> <p>財務諸表を分析し、投資企業として選択する理由を持てるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 連結財務諸表の意義と必要性について理解する。 有価証券報告書の意義や必要性について理解する。 連結財務諸表を使った分析結果について話し合う。 <p>・連結キャッシュ・フロー計算書を使った分析について理解する。</p> <p>・四半期報告書の意義や必要性について理解する。</p>	知 知 思 知 知	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 連結財務諸表の意義と必要性を説明できる。 有価証券報告書に構成について理解できる。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の意見を尊重しながらしっかりとともに自分の意見を発表することができる。 <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つの代表的な指標について理解できる。 四半期報告書の意義と必要性を説明できる。 <p>ペーパーテスト(小テスト)</p>
3	<p>2 企業価値の評価</p> <p>自他の分析結果や意見を取り入れ、より良い投資企業を選択するためにはどうしたらいいか考え、適切に対応できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業価値の意味と考え方について理解する。 割引キャッシュ・フロー法に基づく企業価値評価を理解する。 <p>・株価と企業価値の意味と考え方について理解する。</p> <p>・株価を使った代表的な評価指標を使った分析について理解する。</p>	知 知 知 思	○	<ul style="list-style-type: none"> 企業価値の意味と考え方について理解できる。 割引現在価値の計算問題を解くことができる。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 株価と企業価値の意味と考え方について理解できる。 学習した知識・技術を活用し、積極的に問題に挑む姿勢が身に付いている。 <p>ペーパーテスト(小テスト)</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テスト、ワークシートを用いて、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、取り上げた課題について知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで意見を交換し、協力してその結果をまとめる過程における生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を評価するとともに、観察シートに記述する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が（C評価）の生徒は、誤答や無解答があるとともに、財務諸表分析に関する知識、技術などの基本概念や財務指標を組み合わせて総合的に分析、判断する力が不十分であった。そこで、教科書等で基本概念や財務指標を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに授業においては、演習グループ内の支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立深谷商業高等学校		
科目名	原価計算				
単元名	損益分岐分析（CVP分析）				
指導項目	直接原価計算の目的と財務諸表の作成 1 直接原価計算の意義 2 直接原価計算の目的と方法 3 直接原価計算の手続き 4 直接原価計算の財務諸表 短期利益計画への活用 1 短期利益計画に有用な情報提供 2 損益分岐分析（CVP分析）				
単元の目標	損益分岐分析を用いて、短期利益計画における直接原価計算の有用性を理解する。				
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	振り返りの際に、直接原価計算の特徴を理解し、求められている計算のプロセスが身に付いている。直接原価計算の特徴を理解し、グラフを用いて作図や、損益計算書の作成ができる。	営業量の増加に伴うグラフの変動を予測し、各設問に対して適切に記述(入力)できている。対話的な活動において自分の意見を発表しつつ、他者の意見も参考に活動している。	新しい単元の学習活動において、既有知識をもとに取り組みようとする。また、理解が遅れた内容を、周囲の生徒と協力し、自らの課題解決に向け努力している。		
1 指導と評価の計画（5時間）					
時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法	
		観点	記録		
	第一次（1時間）	1 直接原価計算の意義 原価計算における原価要素を集計する範囲の違いを理解する。 ・ これまで行ってきた全部原価計算を振り返ったうえで部分原価計算の特徴を理解し、考察する。	知	○	・ これまでの全部原価計算の特徴を記述することができ、部分原価計算との違いを理解している。 ワークシート
		2 直接原価計算の目的と方法 経営活動における短期利益計画の位置付け及び、直接原価計算の有用性を理解する。 ・ 変動費、固定費の特徴を理解し、損益計算書にどのように反映されるかを話し合う。	思 態	○	・ 与えられた情報を適切に処理、分析をしている。 ワークシート ・ 分析したものを表現し説明しようとしている。 観察
3 直接原価計算の手続き 直接原価計算の手続き及びコストフローを理解する。 ・ 直接原価計算の手続きにおいて算出される「変動製造マージン」、「貢献利益」、「営業利益」を整理して理解する。 ・ 直接原価計算による諸勘定の振替関係を理解する。		知		・ 直接原価計算による手続きと、諸勘定のコストフローを並行して考察し、振替関係を理解している。 観察	

第二次 (1時間)	<p>4 直接原価計算の財務諸表</p> <p>直接原価計算における損益計算書作成の手続きを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2で行った活動で収集したデータを用いて、損益計算書のひな型にデータ入力を行う。 営業量の増加にともなう貢献利益、営業利益の変化について考察する。 	知 思	○	<ul style="list-style-type: none"> 損益計算書における各項目を理解し、正しくデータ入力ができている。 ワークシート 複数の損益計算書から営業量増加にともなう貢献利益の変化に着目し考察している。観察
第三次 (1時間) 本時	<p>1 短期利益計画に有用な情報提供</p> <p>売上高と利益の関係性について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時4で作成した資料をもとに、売上高と利益の関係性について考察し、利益計画に必要な情報を説明する。 	態		<ul style="list-style-type: none"> グループワークに積極的に参加し、情報共有及び情報提供しようとしている。 観察
	<p>2 損益分岐分析 (CVP分析)</p> <p>損益分岐図表から原価と利益の変化を計算し、損益分岐分析における短期利益計画の有用性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにおける損益分岐図表を用いて、損益分岐点をと原価、利益の関係性について考察する。 損益分岐図表を損益計算書に書き写し(データ入力)、目標営業利益を達成するためのプロセスを考察し、その結果を説明する。 	知 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの入力が正しくできている。ワークシート 原価と利益の関係性を理解し、考察している。観察 目標営業利益達成の手順を考察し、説明しようとしている。観察 振り返り自己評価

2 主な評価方法や留意点について

※ 本指導項目においてはルーブリック評価で行う。各観点における評価基準を観点ごとに分解して以下に示す。

(1) 「知識・技術」の評価

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> 指示された問題を解き、自分の意見が記述できている。 損益分岐分析における各問いに対して、2つの視点から考察し、適切に解答できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示された問題を、グループの協力を得て適切に解答できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示された問題において解答ができておらず、プリントの記入が滞っている。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動において、自らの意見を伝えることができる。 発表の際に、解答までのプロセスが明確に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動において、解答ができる。 解答までのプロセス説明がおおむねできる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動において、自身が知り得た情報を他者に伝えることができない。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">課題に対して積極的に取り組み、グループの生徒と協力して課題解決に向けて取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none">与えられた課題に対して取り組むことができる。自発的な発言やグループ内での協力ができる。	<ul style="list-style-type: none">自主的に取り組むことができない。グループの生徒の意見を聞くことができない。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

観察及び、ワークシートの記入結果を踏まえ、個々に応じた補習活動を行う。また、毎時の授業において必ず前時の振り返りを行っているため、発問に対して理想とされる回答が得られなかった場合は、生徒同士対話的な活動を指示し、振り返り確認を行う。

本校においては、知識の定着や学習活動の成果を確認する機会として、「定期考査」や「検定試験」がある。これらの結果も指導改善の一端として取り入れ、解答用紙を細かく分析し、各生徒の苦手分野の克服や新たな創意工夫を凝らした協調学習のエッセンスとして取り入れる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立京都すばる高等学校
科目名	原価計算		
単元名	部門別個別原価計算		
指導項目	1 部門別計算の目的 2 原価部門の設定 3 勘定の設定 4 部門別個別原価計算の手続き		
単元の目標	(1) 部門別個別原価計算に関する基礎的・基本的な技術を身に付ける。また、部門費配分に関する二つの方法の特徴について理解する。 (2) なぜ、部門別計算を行うのかについて思考・判断し、直接配賦法と相互配賦法それぞれの処理を表現できる。 (3) 部門別個別原価計算の学習に関心を持ち、製造間接費を部門ごとの予定賦課・集計・差異の処理を、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	部門別個別原価計算に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。また、部門費配分に関する二つの方法の特徴について理解している。	なぜ、部門別計算を行うのかについて思考・判断し、直接配賦法と相互配賦法それぞれの処理を表現することができる。	部門別個別原価計算の学習に関心を持ち、製造間接費を部門ごとの予定賦課・集計・差異の処理を、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 部門別計算の目的 2 原価部門の設定 3 勘定の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した部門別計算を行わない場合の製造間接費の配賦では、製造間接費の精密な配賦が行えないことを理解させる。 ・原価の発生場所に製造間接費を集計する部門別計算を行えば、製造間接費の精密な配賦が可能なことを理解させる。 ・部門別計算が原価管理にも有効な方法であることを理解させる。 ・部門別計算のしくみの概略を理解させる。 ・原価部門の設定について、部門別計算の目的から考えさせる。 ・各原価部門の役割を簡単に理解させる。 ・部門別計算に必要な勘定について考えさせる。 </div> <p>少人数のグループでどのような部門が必要か考え部門を作り、その部門ごとにどんな間接費が多く消費させるのか考え、発表する。</p>	知	○	○部門別計算の必要性を理解し、計算のしくみの概略が理解できている。 ワークシート
		思 態	○	○グループ活動において、具体的な部門作成に、自分の考えを発言する中で、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート、発表の様子

第二次 (6時間)	<p>4 部門別個別原価計算の手続き</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の手続きの全体の流れをフローチャートと勘定振替関係図を用いて理解させる。 </div> <p>フローチャート図を書かせながら矢印を示して、図を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・製造部門費予定配賦表の作成の手続きを理解させる。 ・部門費配分表の作成の手続きを理解させる。 ・部門費振替表の作成の手続きにおいて、直接配賦法と相互配賦法の二つの方法の違いを説明し、処理方法を理解させる。 ・製造部門費配賦差異の意味を考えさせ、その処理手順を理解させる。 </div> <p>問題集を活用し、各表の作成手続きを理解する。部門費振替表の二つの処理方法の違いを確認しながら作成手続きを理解する。製造部門費配賦差異の計算のための仕訳手順を理解する。</p> <p>週単位で自らの学習状況を振り返り、何を学んだか、何が理解できたのか、何が理解不十分なのか、そして、次週にどう行動するのかをアプリを活用して整理し提出する。</p>	<p>知 態</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○フローチャート図作成をとおして、部門別個別原価計算の手続きの全体の流れが理解できている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークシート 小テスト</div> <p>○部門別個別原価計算に関する基礎的・基本的な技術として、部門費配分表や部門費振替表が作成できる。</p> <p>○部門費配分に関する二つの方法の特徴について理解している。</p> <p>○製造部門費配賦差異の処理を理解し、再計算のための仕訳ができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト 定期考査</div> <p>○自らの学習状況がしっかりと振り返ることができていて、学習状況について整理ができています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークシート (アプリ)</div>
	<p>知 思</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>
	<p>態</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、自らの考え（知識）をまとめ整理できているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識・技術を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・ワークシートを用いて、課題に対して自らの考えや、グループ活動の中での他者の考えに対する自分の意見を整理しまとめられているかを評価する。また、与えられたテーマについて思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。
- ・定期考査において、自らの考え、判断を表現できているかを読み取り評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察した状況を記録する。
- ・振り返りシート（アプリ）の記述から課題に取り組む状況や、その状況を自らがどう今後活かしていこうと考えているかを読み取り評価する。また、その変化の状況を確認するものとしている。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

振り返りシートは、生徒自身の振り返りとしてだけでなく、教師側の振り返りとしても評価するしくみとなっており、生徒の学習改善に向けた意欲的な記述は、われわれ指導する側の授業改善、指導改善のもととなっている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立八街高等学校
科目名	ビジネス簿記（1年次学校設定科目）		
単元名	第3編 決算（その1）		
指導項目	第18章 決算整理（その1）		
単元の目標	決算時に行われる仕訳について理解し、財務諸表作成の一連の手続きを理解する。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	決算手続きの意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けている。	決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心を持ち、自ら考える態度を示している。
1 指導と評価の計画（8時間）			
時間	ねらい・学習活動	評価	
		観点	記録
第一次 （2時間）	1 決算整理仕訳 決算整理仕訳を理解する。 ・決算整理仕訳（貸し倒れの見積もり、減価償却）の具体的な事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、決算整理仕訳の正しい処理を整理する。	思 態 知 知	○ ・決算整理仕訳（貸し倒れの見積もり、減価償却）の具体的な事例を話し合い、自分の考えに加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート ・決算整理仕訳の基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト)
第二次 （2時間）	2 8桁精算表作成 決算整理仕訳を理解する。 ・8桁精算表を作成するための正しい処理を整理する。	知	・8桁精算表の基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト)
第三次 （2時間）	3 損益計算書作成 損益計算書を理解する。 ・8桁精算表から損益計算書を正しく作成すること理解する。 ・当年度の経営成績において、当期純利益または当期純損失となる理由について、正しく自分の言葉で説明できる。	思 態 知	・損益計算書の基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト) ・自分の考えを整理し、発表について意欲的に取り組もうとしている。 観察、ワークシート
第四次 （2時間）	4 貸借対照表作成 貸借対照表を理解する。 ・8桁精算表から貸借対照表を正しく作成すること理解する。	知	・貸借対照表の基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト)

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートのつくりの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、授業に出席しているが、自分の考えや意見を記述するワークシートが未提出であることや、提出しても無解答があった。そこで、それらの生徒には、個別指導を行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立水沢商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	表・グラフの作成と情報の分析		
指導項目	(3) 情報の集計と分析 ア ビジネスと統計 イ 表・グラフの作成と情報の分析 ウ 問題の発見と解決の方法		
単元の目標	(1) 表・グラフの作成とビジネスに関する情報分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価改善する。 (3) 表・グラフの作成とビジネスに関する情報の分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	表・グラフの作成とビジネスに関する情報分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価改善している。	表・グラフの作成とビジネスに関する情報の分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (18 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (10 時間)	<p>1 関数を利用した表の作成</p> <p>表計算ソフトウェアの日付、数学、統計、検索、論理、データベースなどの基本的な関数を用いて情報分析する技術を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアの基本的な関数(合計、平均、最大最小、端数処理、順位付け、検索、条件付集計など)の使い方について、実習を通して学習する。 ビジネスを想定した題材を踏まえた模擬演習問題に取り組み、使用した計算式や関数式の説明や工夫した点をワークシートにまとめ、発表する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 正しい計算式や基本的な関数式について、正しく記述することができる。 問題に応じて適切な計算式や関数式を自ら選択して使用することができる。 <p>実習課題 ペーパーテスト (定期考査)</p>
第二次 (4 時間)	<p>2 グラフの作成</p> <p>情報の傾向、特徴などを読み取り、適切な表の形態とグラフの種類・形態を検討し、表やグラフを用いて伝えたいことを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフの種類(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーチャート、散布図など)と概要を理解し、各グラフの作成する方法について実習を通して学習する ビジネスを想定した題材を踏まえた模擬演習問題に取り組み、選択したグラフや工夫した点をワークシートにまとめ、発表する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 各種のグラフについて、正しく作成することができる。 問題に応じて適切なグラフを自ら選択して作成することができる。 <p>実習課題、ペーパーテスト (定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬演習問題の意図を読み取り、問題解決に適したグラフを正しく選択し、使用することができる。 グラフの体裁を工夫することによって、伝えるべき情報が相手に伝わり易くなるように工夫がされている。 <p>観察、ワークシート</p>

<p>第三次 (4時間)</p>	<p>3 情報の整列・検索・抽出</p> <p>表計算ソフトウェアの整列・検索・抽出などの基本的な機能を用いて情報を分析し、目的に応じた適切な表やグラフを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアの機能を用いたデータの整列、検索、置換、抽出およびクロス集計、最適解等の活用方法について、実習を通して学習する。 ビジネスを想定した題材を踏まえた、総合的演習問題に取り組む。相当量のデータを自ら整理し情報を分析した上で、それをまとめる表とグラフを作成する。作成した表とグラフについての説明と工夫した点をワークシートにまとめ、発表する。 	<p>知</p> <p>思</p> <p>態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを用いて、データの整列、検索、置換、抽出およびクロス集計、最適解等の機能を正しく使用することができる。 <p>実習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> データの整理、分析について、その方法を自ら選択し実行することができる。 整理、分析した情報を、表やグラフやグラフにまとめるとともに、相手に伝わり易いように工夫されている。 情報の伝え方について、具体例を挙げる活動に自分の考えを加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 <p>ワークシート、観察、発表</p>
----------------------	--	----------------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- 定期考査や小テストの各設問への解答を基に、計算式や関数式が正しく記述できるかを読み取り、理解している状況进行评估する。
- 実習課題について、個々の課題で求められる数値やグラフが正しく作成できているかを読み取る。実習課題は、主に表やグラフを印刷したものの評価対象とする。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- 思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、使用した計算式や関数式の内容や、使用したグラフを選択した理由などを記述させ、工夫した過程进行评估する。また、表やグラフの体裁や、伝えたい点を強調するなど、作成した資料の意図が正しく相手に伝わるように工夫した点进行评估する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 新しい内容を習得する段階においては、実習に対する取り組み状況を観察法で見取ると共に、実習課題の提出状況等进行评估の材料とする。
- グループワークや他の生徒の発表を聞くことにより、その結果をまとめる過程において個々の生徒の取り組みや役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。
- 作成した表やグラフについては、個々の生徒の工夫を見取することを重視する。単元の最後に総合演習問題を用意し、単元を通して資料作成に対する生徒の工夫や変容が分かるように教材を工夫したい。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「知識・技術」の観点をA評価とする場合は、表やグラフの値を正しく作成できているか点の他に、表やグラフの体裁が整っており、資料として見やすいものであること、資料の主旨が強調されるなど内容が伝わりやすいことを要求する。作成した資料の評価を繰り返すことで、優れた資料の良い点を生徒自身に気づかせるように進めたい。

「主体的に学習に取り組む態度」がC評価となる生徒については、表計算ソフトウェアの基本操作や、基本的な関数式の記述の習得段階で躓きがあることが予想されるため、TT授業の実施や補習授業等でフォローを図りたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	福島県	学校名	福島県立福島商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	情報の集計と分析		
指導項目	イ 表・グラフの作成と情報の分析		
単元の目標	(1) ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善する。 (3) ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（20時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1. ビジネスと統計 情報をビジネスに利用するために分析し、考察する能力を身に付ける。 ・表計算ソフトを活用してデータを分析し、どのような傾向が見られるか考察する。	知 思 態	○ ○	・データを分析する統計手法について理解し、適切に分析結果を表現している。 ワークシート ・データの分析を主体的かつ協働的に 行っている。 観察
第二次 (8時間)	2 関数を利用した表の作成 基本的な操作や基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 ・実習を通して基礎的な操作や関数を理解する。 ・応用的な関数を利用し、目的に応じた表を作成する技術を身に付ける。	知 思 態	○	・表計算ソフトの基本的な操作や関数等について理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・必要な関数を判断し、目的に応じた表を意欲的に作成している。 ワークシート、観察
第三次 (3時間)	3 グラフの作成 グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。 ・表計算ソフトの様々なグラフの種類・形態を理解し、目的に応じた表やグラフを作成する。	知 思	○	・それぞれのグラフの特徴やグラフの構成要素を理解している。 ペーパーテスト（定期テスト） ・視覚的に分かりやすく、用途に応じた適切なグラフを作成している。 ワークシート

第四次 (4時間)	<p>4. 情報の整列・検索・抽出</p> <p>大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。</p> <p>・大量のデータから必要なデータを効率的に活用できるように、表計算ソフトの整列、検索、抽出する方法を理解する。</p>	知 思	○	<p>・基準のキー項目でデータの整列ができるか。フィルタ機能などを利用して、データの分類や整列、必要なデータの検索、抽出方法を理解している。</p> <p>ワークシート</p>
第五次 (3時間)	<p>5 問題の発見と解決の方法</p> <p>事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について考察する。</p> <p>・問題を整理し、解決するためのプロセスを理解し、解決に向けて自ら考察する能力を身に付ける。</p>	知 思	○	<p>・ビジネスに関する問題の発見と解決について、基礎的な技法を理解している。</p> <p>ペーパーテスト (小テスト)</p> <p>・ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>評価シート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

・ビジネスに関する情報の集計を表計算ソフトを利用しながら分析する方法を理解し、関連する技術を身に付けているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

・ビジネスに関する情報を目的に応じた方法で集計分析し、結果を適切に表現しているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

・ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、効果的に情報を活用する態度を持ち、主体的かつ協働的に取り組んでいるかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「努力を要する」状況 (C 評価) の生徒は、課題の内容に対して、情報の傾向、特徴、要求される内容を正確に捉えられていないため、ワークシートに記述ができない。実習に取り組めない。手立てとしては、気付きを促すための発問をしていきたい。また、身近にある例や簿記やビジネス基礎で既習した内容で、この課題に近いものを例示するなど、計画的に準備をしていきたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立佐野松桜高等学校
科目名	情報処理		
単元名	情報モラル		
指導項目	(1) 企業活動と情報処理 ア 情報社会の重要性 イ 情報モラルと法規 ウ コミュニケーションと情報デザイン		
単元の目標	(1) 企業における情報モラルおよび法規の必要性について理解する。 (2) 企業における情報モラルおよび法規の意義と課題を企業活動と関連付けて見いだす。 (3) 企業における情報モラルについて自ら学び、情報の適切な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業における情報モラルおよび法規の必要性について理解している。	企業における情報モラルおよび法規の意義と課題を企業活動と関連付けて見いだしている。	企業における情報モラルについて自ら学び、情報の適切な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 情報処理の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業におけるコンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。 情報システムについての概要を理解する。 	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> グループワークに積極的に参加し、情報システム活用の具体例をまとめようとしている。 観察、ワークシート さまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解している。 ペーパーテスト（小テスト） 情報処理に関わる職業について調査し、求められる役割と身につけるべき能力を理解しようとしている。 観察、ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 社会で利用されている情報システムや、ビジネスにおける情報活用について話し合い、具体例をまとめる。 情報システムの構成や社会生活との関係性について理解する。 情報処理に関わる職業について調査し、求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。 		知	○
第二次 (2時間)	<p>2. 情報モラルと法規</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報が社会で果たす役割と社会に及ぼす影響および法規の必要性について考察する。 個人情報および知的財産権を保護する必要性と法律の概要を理解する。 	思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> グループワークに積極的に参加し、情報が社会に及ぼす影響や危険性について事例を調べまとめようとしている。 観察、ワークシート サイバー犯罪について理解し、法律に基づき、正しい判断をするための方法について考察しようとしている。 ペーパーテスト（定期テスト）、観察 個人情報保護について考え、情報モラルに考慮した自らの考えをまとめ、表現している。 ワークシート 知的財産権の意義とその必要性について理解している。 ペーパーテスト（定期テスト・小テスト）
	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例から情報が社会に及ぼす影響、ネットワーク社会の危険性とその対応について話し合う。 サイバー犯罪と法規について理解し、正しい判断をするための方法について考察する。 個人情報保護について考え、情報モラルに考慮した自らの考えをまとめ、表現する。 知的財産権の意義とその必要性について理解する。 		知	○

<p>第三次 (2時間)</p>	<p>3 コミュニケーションと情報デザイン</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・情報をわかりやすく伝達するために必要な情報デザインの重要性について考察する。 ・伝えたい意図を的確に表現するための要素の構成と配置および図解表現の効果と方法について考察する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報をわかりやすく伝達するためにどのような工夫が必要か考える。 ・情報デザインの要素と意義について理解し、企業活動と関連付けて考察する。 ・情報デザインの要素、色彩が心理や感情に及ぼす影響を整理して理解する。 	<p>思 知 知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をわかりやすく伝達するためにどのような工夫が必要か、意欲的に考えまとめている。 <p>観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインの要素と意義について理解し、企業活動と関連付けて考察しようとしている。 <p>ペーパーテスト (定期テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインの要素、色彩が心理や感情に及ぼす影響を整理して理解してる。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインの要素、色彩が心理や感情に及ぼす影響を整理して理解してる。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り <p>自己評価</p>
----------------------	---	----------------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を元に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートへの記入状況から知識を整理し、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・学んだ知識をもとに、自らの意見や感想を整理して表現できているかワークシートへの記入状況やレポートから評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループワークへの積極的な関わりができていないかを評価する。発言だけでなく、話し合いに協力的か、他者の意見を聞く姿勢ができていないか、メモへの記入ができていないかなどの点で評価する。
- ・ワークシートに記載された自己評価で、学習に取り組む姿勢や意識を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートへの記入状況が不十分であった。空欄の箇所が目立ち、感想や意見も深く考えた表現になっていなかった。「自分事」として捉えられていないと考えられるため、身近な事例をいくつか提示し、法律と照らし合わせたうえで「自分ならどうする？」といった課題を課していくこととした。

また、授業におけるグループワークにおいて、積極的な発言が得意でない生徒に対する配慮が必要であると感じた。例えば、付箋を用いて個々の発言を取り上げ、「気付き」があった意見には、マークをつけるなど、グループ内で互いに評価できる仕組みを作り評価に生かしていきたい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立一宮商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	情報モラル		
指導項目	(1) 企業活動と情報処理 ア 情報処理の重要性 イ コミュニケーションと情報デザイン ウ 情報モラル		
単元の目標	(1) 情報技術の進歩や情報が社会で果たす役割と社会に及ぼす影響、情報に対する個人と企業の責任及び情報を取り扱う際に留意することについて理解する。 (2) 個人情報と知的財産の適切な取扱いと保護の重要性について、企業活動や個人の責任と関連付けながら、考える。 (3) 情報に関する法規と企業における個人情報の漏洩や著作権の侵害などの具体的な事例と関連付けて、協働的に分析し、考察する。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報技術の進歩や情報が社会で果たす役割と社会に及ぼす影響、情報に対する個人と企業の責任及び情報を取り扱う際に留意することについて理解している。	個人情報と知的財産の適切な取扱いと保護の重要性について、企業活動や個人と関連付けて、見出している。	情報に関する法規と企業における個人情報の漏洩や著作権の侵害などの具体的な事例を主体的かつ協働的に分析し、考察しようとしている。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	<p>1 情報モラルとは</p> <p>発達した情報社会において、情報を適切に正しく活用する個人としての責任について理解する。</p> <p>・情報を適切に扱うことは何か、自分自身の考えをまとめながら、他者の意見を聞いて感じたことや個人として守らなければならないことについて整理する。</p> <p>・情報技術の進歩や情報が社会で果たす役割と社会に及ぼす影響、情報に対する個人と企業の責任及び情報を取り扱う際に留意することについて理解する。</p>	思 態	知	<p>・情報を適切に正しく扱うことは何か、自分自身でよく考え、他者の意見を取り入れながら個人としての責任を果たそうとしている。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・情報技術の進歩や情報が社会で果たす役割と社会に及ぼす影響、情報に対する個人と企業の責任及び情報を取り扱う際に留意することについて理解している。</p> <p>ワークシート</p>
第二次 (2時間)	<p>2 情報社会の問題点と情報に対する企業の責任</p> <p>情報社会の問題点について考えながら、それに対する企業活動と責任について捉える。</p> <p>・誰もが情報を持ち、自由に活用できる現在において、インターネットの情報の不正利用やSNSの不適切な利用について、グループで事例について考察する。</p> <p>・様々な問題に対する企業の取り組みを調査し、企業内にどのような機関や責任者がおかれているのか整理する。</p>	知 態	○	<p>・自己の意見や他者の意見をもとに、情報社会の問題点に対し、多角的に捉え、考えを述べることができる。</p> <p>ワークシート、評価表</p> <p>・企業における情報の取り扱いと保護の重要性について事例を調べながら、分析・考察している。</p> <p>ペーパーテスト(定期考査)</p>
第三次 (2時間)	<p>3 知的財産と個人情報の保護と管理</p> <p>様々な企業活動における知的財産や個人情報の保護の観点から、個人としての責任について考えることができるようになる。</p> <p>・知的財産とは何か、企業活動における知的財産の位置づけや重要性などの事例について、様々なメディアやインターネットを活用して調査する。</p> <p>・企業や個人における個人情報の保護について、社会における問題と自己の行動を比較し、これからの情報社会における情報の扱い方について理解し説明する。</p>	思 態	○	<p>・知的財産とは何か、企業活動における知的財産の位置づけについて具体的に説明している。</p> <p>観察、ワークシート</p> <p>・企業や個人における個人情報の保護について、社会における問題がどのような影響を及ぼしている現状や自己の行動と比較し、適切な行動とは何かについて理解している。</p> <p>ペーパーテスト(定期考査)</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・各考査や授業時間内での小テストの設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・自作のワークシートを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、事例を具体的に見いだしているかを評価する。また、身の回りの起きている課題や問題について認識できているか、知識や技術を基に判断した結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協働学習を通して、他者と意見を交換し、情報を収集する作業に積極的に取り組んでいるか。その結果をまとめる過程において個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を記録・評価する。
- ・ワークシートでの記述や振り返りから課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の姿勢や考え方の変化を重要視する。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートの内容の工夫が必要だと考える。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があるとともに、情報における企業の取り組みに関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、教科書等で情報における企業と個人の責任を再確認させるよう促すなどのサポートを行いたい。さらに、協働学習においては、周囲と適切なコミュニケーションを取ることができなかったため、授業においてはグループのリーダー格に話し合いの中での支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	東京都	学校名	東京都立第五商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	コンピュータシステム		
指導項目	コンピュータシステムの概要・タイピングの入力技術		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的な機能と構成、コンピュータ内部におけるデータの表現及びコンピュータ内部でデータが処理される仕組みについて理解する。 ・ビジネスで身近に活用されるハードウェアとソフトウェアの種類と機能及びオペレーティングシステムのファイル管理の機能を活用する方法を習得する。 ・コンピュータの基本操作に必要なタイピング技術を身につける。 		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>コンピュータシステムについて実務での活用にあわせて理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>コンピュータの基本操作に最低限必要なタイピングの技術を身につけている。</p>	<p>コンピュータシステムに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、情報を管理する方策を考案している。</p> <p>2進数の概念を利用して課題について解決を図ることができる。</p>	<p>コンピュータシステムについて自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。</p> <p>タイピング技術向上に主体的に取り組む、学習の見通しを立てている。</p>

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (1時間)	<p>1 コンピュータの基本的な機能と五大装置</p> <p>五大機能とよばれる、コンピュータの基本機能と構成について、入力から出力までを実際に行う体験から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の入力装置に触れさせて、自分自身をコンピュータに見立て、入力から出力までを体験させる。 ・ワークシートに重要な用語について整理しながらまとめる。その際、自由記入欄を設けて、主体的に学ぶきっかけをつくる。 	知 思 主	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本機能と構成について実務での活用にあわせて理解している。 ・コンピュータの基本機能と構成に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、情報を管理する方策を考案している。 <p>ペーパーテスト（定期考査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本機能と構成について自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的に取り組もうとしている。 <p>観察・ワークシート</p> <p>※ (3)ワークシートの評価方法参照</p>
第二次 (4時間)	<p>2 パソコンのハードウェアの構成</p> <p>ハードウェアの種類と機能について実務に即して理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに重要な用語について整理しながらまとめる。その際、自由記入欄を設けて、主体的に学ぶきっかけをつくる。 <p>3 データの表現と処理の仕組みと2進数の概念</p> <p>データ表現の基礎となる2進数の概念を理解して計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2進数の概念を理解し、整理したうえで、計算問題に取り組む。 	知 技 思 主 技	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアの種類と構成について実務での活用にあわせて理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・2進数の概念を利用して課題について解決を図ることができる。 <p>ペーパーテスト（定期考査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアの種類と構成について、自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的に取り組もうとしている。 <p>観察・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2進数の概念を利用して計算を正確に行うことができる。 <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>

第三次 (1時間)	4 パソコンのソフトウェア ソフトウェアの種類と機能及びオペレーティングシステムのファイル管理の機能を活用する方法を習得する。	知	・ソフトウェアの種類と機能について実務での活用に即して理解している。 ペーパーテスト (定期考査)
	○単元を通して、毎時間タイピングの入力練習を継続し、記録用紙に文字数の記録と学習の振り返りを行う。	技 主	○ ・コンピュータの基本操作に最低限必要なタイピングの技術を身につけている。 実技テスト (10分間タイピング) ○ ・基礎的なタイピング技術の習得を目指して、自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的に取り組もうとしている。 ワークシート (速度記録表) ※ (4)タイピング課題の点数と記録表の評価方法参照 ※ (5)タイピングの点数と速度記録表を組み合わせた評価方法参照

2 主な評価方法や留意点について

科目の評価は各学期で3観点で以下のような点数に換算したうえで5段階評価している。

知識・技術 35点満点	思考力・判断力・表現力 35点満点	主体的に学習に取り組む態度 30点満点
・定期考査(筆記問題)の点数 ・定期考査(実技問題)の点数	・定期考査の点数 ・提出課題への取り組み	・授業態度・取り組み ・速度記録表など

(1) 授業中の取り組みを評価する際の考え方 = 基本的に評価Bからはじめる。

評価A (5点) … 十分満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。

評価B (3点) … 評価おおむね満足できる適切な内容である。

評価C (1点) … 不十分な部分もあるが、適切な内容である。

評価D (0点) … 不十分であり、今後の努力を要する。

(2) 授業中の取り組みを評価する際のクラス平均点数のめど (35名クラス想定)

評価Aと評価Bの人数比

評価A19名・評価B16名 … 4.09

評価A15名・評価B20名 … 3.80

(3) ワークシートの評価方法 (例)

ワークシートに授業内容を自由に整理できる空欄を大きくとって、主体的に学習に取り組む態度を見取れるようにする。

情報処理用語 第3級① [ハードウェアの構成] → 積極的にアレンジしてシートに書き込もう

	用語	意味
1	5大機能	入力装置・制御装置・演算装置・記憶装置・出力装置
<div style="border: 1px dashed black; padding: 20px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>[自由記入欄]</p> <p>ここに自由にイラストや文字で情報を整理する</p> </div>		
2	入力装置	データやプログラムを入力する装置

(4) タイピング課題の点数と記録表の評価方法（例）

毎時間実施しているタイピングの練習成果を用紙に記録して、4回ごとに振り返りを行い、今後の課題を明確にした後、練習を継続することで生徒の変容や学習を調整しようとする側面を見取る。

ビジネス文書 [3級速度] 記録表

日付					担当検印
文字数					

振り返り ※ 4回分を振り返り、工夫したところ、今後の課題を具体的に記録する。

(5) タイピングの点数と速度記録表を組み合わせた評価方法（例）

タイピングテストの点数は、技術の評価としている。

さらに、下表の評価表をもとに、記録表の評価を横軸に、タイピングの点数を縦軸にした下表の評価表に沿って、主体的に学習に取り組む態度の評価とする。

		速度記録表の評価		
		LV1	LV2	LV3
タイピング 点数	LV3	B	A	A
	LV2	B	B	A
	LV1	C	C	B

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査やの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・タイピング実技テストの点数から、タイピング技術の習得を評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・考査でコンピュータ用語を扱う場合、ビジネスの視点に沿った思考・判断を求める問題を出題する。
- ・考査問題は、情報処理検定に沿った問題ではなく知識を理解した上で思考・判断できる問題を出題する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・第1回の授業で伝えたビジネスマナーに関わる「授業のやくそく」を守られているのか毎時間見取り、座席表形式の記入シートに記録する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、自由記入欄を活用して生徒の変容や学習を調整する側面を捉えることに重点をおく。
- ・タイピング練習を毎時間10分間行う際、4回の練習につき1回の振り返りの時間を設け、振り返りシートに整理させる。
- ・速度記録用紙やワークシートには教師から生徒へのコメント欄を設けて、数値では測れないような評価を書きこむことで、生徒にとって次の学習活動への動機づけに結び付ける。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、どこで理解できなくなったのか、どうして主体的に学習に取り組めないのか、評価材料から推測し、学期ごとに補充を行う。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県辰野高等学校
科目名	情報処理		
単元名	表・グラフの作成と情報の分析		
指導項目	(3) 情報の集計と分析 ア ビジネスと統計 イ 表・グラフの作成と情報の分析 ウ 問題の発見と解決の方法		
単元の目標	(1) ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善できる。 (3) ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報の集計・分析して表現し、評価・改善しようとしている。	ビジネスに関する情報の主計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (27 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	1 表・グラフの作成と表計算ソフトの特徴① ビジネス的視点から統計処理と分析に必要な視点と関数を理解し、分析結果を考察する。 ・第3章第1節の基礎統計量について再度確認し、統計的なデータ分析の目的を理解する。 ・ワークシート1を実施し、作成された統計結果からその特徴などを正しく読み取り理解する。また、その結果から予想される分析結果をペアワークにより考察する。 ・練習問題を行うことで、件数を数える関数についての用法を理解する。また順位付け等、その他統計に関する関数を理解する。 ・ワークシート2を実施し、入力技法について理解する。 ・自身の取り組みについて振り返る。	思	○	・数値のばらつきや特徴を正確に読み取ったうえで、根拠をもって分析しようとしている。 ワークシート1 ・適切な関数を利用することにより、必要な情報を得られる。 ワークシート2

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立島田商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	ビジネスにおけるプレゼンテーション		
指導項目	(5) プレゼンテーション ア プレゼンテーションの技法 イ ビジネスにおけるプレゼンテーション		
単元の目標	①プレゼンテーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②プレゼンテーションに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善する。 ③プレゼンテーションについて自ら学び、適切な情報の伝達に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①プレゼンテーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	②プレゼンテーションに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善をしている。	③プレゼンテーションについて自ら学び、適切な情報の伝達に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画 (10 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1. プレゼンテーションの種類 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 目的別、形式別によるプレゼンテーションの種類を理解するとともに、目的に応じて適切な方法を選択する必要性を理解する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツールについては使用方法を実物で確認し、プレゼンテーションで使われる用語について生徒の理解を深める。 ・ 提示する資料について、デジタル・アナログの両面のメリット、デメリットを考察する 	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションの意義やプレゼンテーションソフトの特徴、画面構成等、基礎的な知識を理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">小テスト</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションの種類やツールは具体的にどのような場面が望ましいか、選択することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">提出物 (ワークシート)</div>
第二次 (4時間)	2. プレゼンテーションソフトウェアの活用 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 図やグラフ、画像や動画などを利用して、効果的で説得力のあるプレゼンテーション力を身につける </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ スライド全体、文章、ビジュアルについての注意事項を理解し、効果的なデザイン・レイアウトを設置する。 ・ PowerPoint と Google スライドについて比較・説明し、1人1台端末(クラウド版)で資料を作成できるようにする。 ・ コンテンツの挿入と原稿について必要性を考察する。 	知 思 態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな機能を意欲的に学び使おうとする姿勢があり、多用しすぎず、コンテンツの選択に根拠がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">観察</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ K P T (Keep、Problem、Try) の要素をまとめ、スライドで表現するか、言葉で伝えるかの両面から考察し、判断しようとする <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">提出物 (プランニングシート・データ)</div>

第三次 (4時間)	3. プレゼンテーションスライドの作成	知 思 態	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設定時間(5分程度)、作成上の条件、スライドの内容、発表態度等、評価の基準を元にプレゼンテーションの評価をする。
	<p style="text-align: center;">身近な商品や店舗を紹介する魅力的なプレゼンテーションをしてファンを増やそう。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションの技法で学習したことを応用し、地元の企業や商品について情報を集め調査してテーマを設定する。 ・ 同業他社や競合商品と比較し分析する等、論理的な構成と適切な表現方法を組み合わせて効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行う。

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・ プレゼンテーションの意義や基礎、種類、ツールに関する知識はペーパーテストで確認し評価する。
- ・ 聴衆分析や情報の入手方法、ストーリーの作成、内容(本題)の構成についてはワークシートを活用し、代表的な内容が記述されているかを評価する。
- ・ プレゼンテーションのスライド資料はデータで提出させ、アニメーションについても技術が身についているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・ 単元で学んだプランニングシート、プログラムシート、ストーリー構成表、原稿と、スライド内容に一貫性があり、テーマ設定した内容について具体的に思考し、相手に伝わる効果的な表現方法を判断して、オリジナリティのある言葉で説得しようとしているかを評価する。
- ・ 使用ソフト・アプリによっては機能に制限があり、特殊効果が表現できない場合もあるので、プランニングシートに記述させ、創意工夫について評価に加味する。著作権についても注意する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・ 作成中ペアでスライドを見せ合い、客観的な意見を取り入れ、表現に偏りがいないか調整することができる点、途中経過で感想を交わし、より良いものを作成しようとする点を評価する。
- ・ データやワークシートの提出物から、作成する過程でどのような工夫をしたのか、発表前の計画から発表後の改善点を記録させておく。
- ・ 発表順は希望をとり、不公平感が出ないように配慮する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・ スライド作成やプレゼンテーション発表で必要な条件や基準を満たさず「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、生徒の相互評価でもCが多かった。またストーリー構成表や原稿等の記述内容も不十分であった生徒には、全生徒が発表した後に、他者のスライド資料から知り得た技術で取り入れたいことは何かを思考、判断させる。修正・加工をして改善をする時間を与え、条件をクリアするよう支援を行うため個別指導を後日行う。
- ・ 作成したスライドのデータは次年度の参考資料としてクラウド保存しておく。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立豊橋商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	問題の発見と解決の方法		
指導項目	(3) 情報の集計と分析 ア ビジネスと統計 イ 表・グラフの作成と情報の分析 ウ 問題の発見と解決の方法		
単元の目標	(1) ビジネスに関する情報の集計と分析について、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善する。 (3) ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活動に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスに関する問題発見やその解決に向けて、効率的なプロセスを考案できる。ビジネスに関する情報を集計、分析する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。	ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用主体の主体的かつ協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで例題1について、フローチャートの流れと、図形の意味を話し合う。 確認問題で記号の意味が理解できているか確認する。 	態 知	○	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに加え、他社の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 記号の意味を理解できている。 <p>ペーパーテスト（小テスト）</p>
第二次 (2時間)	<p>ロジカルシンキングを鍛える。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで「文化祭のレジ」をテーマに、効率の良い手順を考える。 トレースを行い、無駄な処理が無いか確認する。 	思		<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムが効率的に処理を行えているか、無駄な処理は無いか、考察している。 <p>ワークシート</p>
第三次 (1時間)	<p>他の班の考えを取り入れ、再討議することで、ブラッシュアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> フローチャートを Teams へアップロードする。 他の班のフローチャートを閲覧する。 より効率的だと思う班を挙げ理由を添えてまとめる。 自己評価を記入する 	態 態 知	○	<ul style="list-style-type: none"> 他の班の考えと自分達の班の考えを比較している。 <p>観察 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の取り組みを振り返り、多方向から見ることの大切さを理解している。 <p>ペーパーテスト（定期テスト）</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートを用いて、データの流れを理解し、整理しているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・フローチャートを記述することで思考を整理し、トレースを行うことで具体的な課題を見いだしているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、自班の考えをブラッシュアップさせる過程における個々の取組や役割などを観察する。
- ・ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのか、またグループで話し合うことや他の班の考えと比較することで、自らの視野の広がりの変化が分かるようなワークシートの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、「どの部分」を「どのように」改善したかが理解できていない。そのような生徒には、2つの班のフローチャートを用いて、トレース表を作成しながら実装し、どちらが効果的か考えさせることとした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	奈良県立商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	表・グラフの作成と情報の分析		
指導項目	(3) 情報の集計と分析 ア ビジネスと統計 イ 表・グラフの作成と情報の分析 ウ 問題の発見と解決の方法		
単元の目標	(1) ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、表・グラフの作成と情報の分析に関する技術を身に付ける。 (2) ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して、表・グラフを作成して表現し、評価・改善する。 (3) ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、表・グラフを利用した適切な情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解するとともに、表・グラフの作成と情報の分析に関する技術を身に付けている。	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して、表・グラフを作成して表現し、評価・改善をしている。	ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、表・グラフを利用した適切な情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (10 時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (4時間)	<p>1 関数を利用した表の作成</p> <p>基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表を作成する技術を身に付ける。</p> <p>・表計算ソフトウェアの基本的な操作や計算式及び関数について理解する。</p> <p>・課題の資料をもとに、目的に応じた表を作成するために計算式や関数を適切に選択する。</p>	知 思	○	<p>・表計算ソフトウェアの基本的な操作や計算式及び関数について理解している。</p> <p>ワークシート、小テスト</p> <p>・課題の資料をもとに、目的に応じた表を作成するために計算式や関数を適切に選択することができる。</p> <p>観察、ワークシート</p>
第二次 (3時間)	<p>2 グラフの作成</p> <p>グラフの種類や構成要素、特色を理解し、目的に合ったグラフを選択し、自分が伝えたい内容を分かりやすく表やグラフで表現する。</p> <p>・作成された表を、視覚的にグラフで表現することで、意思決定や分析が素早くできるようになるというグラフの特色を理解する。また様々なグラフの種類や構成要素についてその意味を理解する。</p> <p>・インターネットから探した企業の財務諸表をもとに、自分の伝えたい内容を分かりやすく表やグラフで表現する。</p>	知 思	○	<p>・作成された表を、視覚的にグラフで表現することで、意思決定や分析が素早くできるようになるというグラフの特色を理解している。また様々なグラフの種類や構成要素についてその意味を理解している。</p> <p>ワークシート、小テスト</p> <p>・インターネットから探した企業の財務諸表をもとに、自分の伝えたい内容を分かりやすく表やグラフで表現することができている。</p> <p>観察、ワークシート</p>

<p>第三次 (3時間)</p>	<p>3 レポート作成</p> <p>ビジネスに関する情報を集計・分析して、表・グラフを利用した適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の財務諸表のデータを利用し、表・グラフを作成することができ、作成の際に引用したデータ、作成したグラフの種類及びそのグラフを選択した理由、課題等をレポートに記述する。 ・作成したレポートをグループ内で発表し合い、意見交換を行う。他者のレポートや意見を参考に、自分が作成した、表・グラフの課題を適切に解決し、改善することができる。 	<p>思 態</p>	<p>○ ・企業の財務諸表のデータを利用し、表・グラフを作成することができ、作成の際の課題を適切に解決し、改善することができている。 レポート</p> <p>○ ・表・グラフ作成の意図、作成したレポートについて意見交換し、改善を図っている。 観察、レポート</p>
----------------------	--	----------------	--

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・ワークシートを用いて、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。
- ・小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・これまでに学習してきた内容を生かし、表・グラフを利用した適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている力が身に付いているかを評価する。
- ・レポートの記述から課題に取り組む状況を読み取り、他者のレポート発表や意見交換をもとに、自分の表・グラフの課題を適切に解決し、改善することができているかを評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、他の人のレポートに対して良かったところや参考になったところを記入できていない。また、自分のレポートに対しての意見をもとに表やグラフを改善できていない。手立てとしては、他の人のレポートがどんな情報を伝えるために表やグラフを作られているか考えさせる。自分のレポートに対しての意見をもとに、教科書や問題集等を参考に表やグラフを改善させる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	山口県	学校名	山口県立柳井商工高等学校
科目名	情報処理		
単元名	ビジネス情報の処理と分析		
指導項目	(3) 情報の集計と分析 ア ビジネスと統計 イ 表・グラフの作成と情報の分析 ウ 問題の発見と解決の方法		
単元の目標	(1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

1 指導と評価の計画（12時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (3時間)	<p>1 表計算ソフトウェアの基礎</p> <p>表計算ソフトウェアの基本的な知識と操作方法を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面構成について理解する。 文字の入力や編集、罫線、挿入・削除など、示された形式のものを自分で作れるようにする。入力したデータを並べ替えるなど加工することを学習する。 	<p>知態</p> <p>○</p> <p>思</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例題に取り組みながら、教えられた操作を理解しているか。 観察、実技例題 表の作成や、文字の入力や加工など、指示がきちんと読み取れ、基本的操作をすべて理解しているか。 実技テスト
第二次 (6時間)	<p>2 関数の学習</p> <p>基礎的な関数の使い方を理解し、問題文を読みながら関数を使い分ける力を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例題を元に、関数の意味と必要なデータを理解していく。絶対参照と相対参照の違いについてを説明する。関数の中に関数を入れる入れ子を応用として学習する。 	<p>知態</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>思</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例題に取り組みながら、教えられた関数を理解しているか。わからない生徒がいたら教えてあげることができるか。 観察、実技例題 どのような時に、どの関数を使うのか、範囲はどこにすればよいのか理解できているか。考えようとしているか。 ペーパーテスト・実技テスト（定期テスト）
第三次 (3時間)	<p>3 グラフの作成</p> <p>表から目的に応じたグラフを作成する知識と操作方法を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフの種類と特徴について理解させる。 作成に必要なデータ範囲や凡例や項目軸などの区別ができるようにする。 表を元にいろいろなグラフを作成する。 	<p>思</p> <p>○</p> <p>態</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例題に取り組みながら、グラフの作成方法を理解しているか。違うグラフが表示されたときになぜ違うのか気づくことができるか。 観察、実技例題 身の回りにあるデータを、自分で考えてふさわしいグラフを作ることができるか。 ワークシート、発表

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・小テストや定期考査の解答を基に、知識・技能の理解と定着を読み取り評価する。
- ・練習問題を与え、決められた時間内で、指示通りのものを完成させることができるかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・関数やグラフの作成や操作の知識だけでなく、問題文を読み取り適切な関数やグラフを選択し、どう組み合わせればよいかをきちんと考えながら作成することができるかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・課題に取り組む姿勢や発表態度などを観察し、評価シートに記述する。
- ・ワークシートの記述を基に、課題に取り組む状況を読み取り評価する。ワークシートには、生徒が自分の考えや気づきを書き込めるようにすることで、課題に対して自分事として取り組んでいるかを読み取れるように工夫する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」の評価が「努力を要する状況（C評価）」の生徒は、実習課題等への取り組み状況が不十分であり、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力の定着が見られなかった。そこで、それらの生徒には、授業内で個別に対応するとともに、身近なデータをもとにした演習課題を課して提出することを求めた。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知県立伊野高等学校
科目名	情報処理		
単元名	企業活動と情報処理		
指導項目	(3)企業活動と情報処理 ア 情報処理の重要性 イ コミュニケーションと情報デザイン ウ 情報モラル		
単元の目標	(1)企業における適切な情報処理について理解しているとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)情報処理の意義と課題について企業活動と関連付けて見いだす。 (3)企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業における適切な情報処理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	情報処理の意義と課題について企業活動と関連付けて見いだすことができる。	企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画「企業活動と情報処理」情報モラルと法規（全4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	<p>1 情報モラルと情報社会の問題点</p> <p>情報モラルとは何かを理解し、情報社会の問題点の事例を調査して、情報に対する責任の重要性について考察できるようになる。</p> <p>・情報モラルについて理解する。 ・資料収集のため、インターネットや参考資料等による調べ学習を行い、情報社会の問題点と情報に対する責任の重要性について整理する。</p>	知 思 態	○ ○	<p>・情報の信頼性を確認する3つの視点（誰が、どんな目的で、いつ）について理解している。 〔知①〕 レポート・ポートフォリオ</p> <p>・情報モラルについて理解し、情報社会の問題点について、粘り強く考察しようとしている。また、グループ内で意見を共有し、考えをまとめ整理することで自己の学習を調整しようとしている。 〔態①〕 ワークシート・観察</p>
第二次 (1時間)	<p>2 情報に対する責任と情報セキュリティ</p> <p>ネットワーク社会の危険性と対応およびサイバー犯罪とその法規について理解する。</p> <p>・グループ内で積極的に意見を交換するとともに、教科書に記載のある内容を参考に、ネットワーク社会の危険性の対応について考察する。</p>	思 知 態	○ ○	<p>・ネットワーク社会の危険性について理解し、その対応について考察することができている。 〔思①〕 ワークシート・観察</p> <p>・不正アクセスなどサイバー犯罪の種類と不正アクセス禁止法など法規の概要について、内容を理解している。 〔知②〕 ペーパーテスト（定期考査）</p>
第三次 (1時間)	<p>3 知的財産と個人情報</p> <p>知的財産と個人情報の適切な取り扱いと保護の重要性について理解する。</p> <p>・グループで個人情報が流出した場合の顧客、企業に及ぼす影響について意見交換を行い、自分と他者の発言を区別しながら、その影響について整理する。</p> <p>・知的財産権の種類について理解し、知的財産権を保護する重要性について考える。</p>	態 思 知	○ ○	<p>・個人情報が流出した場合の顧客、企業に及ぼす影響について、自分の考えに加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 〔態②〕 ワークシート・観察</p> <p>・自分の意見とグループ内の意見、教科書に記載されている内容を調整しながら、個人情報の保護の重要性について考察している。 〔思②〕 レポート</p> <p>・知的財産権（著作権・産業財産権）の概要について内容を理解している。 〔知③〕 ペーパーテスト（定期考査）</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」〔知①〕

評価規準：情報モラルについて理解するとともに、ネットワーク社会の危険性に気づき、対策を理解している。(ルーブリック評価)

B評価（おおむね満足できる）	A評価（十分満足できる）	C評価（努力を要する）
「誰が・どんな目的で・いつ」という3つの視点がレポート内に記載することができる。	B評価の3つの視点に加え、それぞれの説明について具体的に記載することができる。	B評価の3つの視点を挙げることができていない。

〔知①〕を評価する定期試験の問題（例）

知識の定着度を測るレポート】

（問）「情報の信頼性」を確認するための3つの視点について説明しなさい。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」

ワークシート内の記述内容・観察により、主体的に学習に取り組む態度の評価を行う。

【評価規準】学習した内容を踏まえて、資料を収集・整理し、各質問に対して、粘り強く考察しようとしている。

<判断の目安>自らの新たな気づきがある（B評価）

<粘り強い取組を行おうとする側面> **観察・ワークシート**

生徒が自ら気づいたこと、グループ学習を通して気づいたことの記述により、粘り強い取組を行おうとする側面を評価する。

◆読み取りのポイント（判断基準）

- ①グループ活動により新たな気づき、また整理されている記述が見られる。（ワークシート）
- ②グループワークに積極的、かつ集中して取り組もうとしている。（観察）

<自らの学習を調整しようとする側面> **ポートフォリオ**

ポートフォリオの記述により自らの学習を調整しようとする側面を見取って評価する。

- ①疑問や調べたい内容を調査
- ②集めた情報のファイリング・分析
- ③教員が配布した資料からの学習を行う。本時でファイリングした内容をまとめさせる。

◆読み取りのポイント（判断基準）

- ①これまでのポートフォリオのファイリングと合わせて、整理され、まとめようとしている。（ワークシート）
- ②より具体的に記述があればA評価となる。

(3) 評価の実践事例

「情報モラル」はなぜ守る必要があるのか考えよう！

B評価の例（参考）

情報を正しく安全に利用することで、自分や他人の安全や健康を害するような行動を防ぐことができるため。

- ・ B評価（おおむね満足できる）の記述例では自分の考え、本時間の学習を通して新たな発見ができているためB評価とした。

A評価の例（参考）

たった一言で相手が傷ついてしまったり、どのような行為が違法なのか不適切かを理解しておかないと、個人が負うべき責任は大きいし、犯罪に繋がったり、自分自身が巻き込まれたりする危険がある。つまり、情報社会の危険から身を守り、不適切な情報に対応するとともに、危険を予測し被害を予防するため。

- ・ A評価（十分満足できる）の記述例では、B評価に加え、自らの気づきや考察が具体的に記述されているためA評価とした。

C評価の例（参考）

いろいろ大変な世の中だから。

- ・ C評価（努力を要する）の記述例では、具体性に乏しく学習改善の手立てが必要と判断したのでC評価とした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校
科目名	情報処理		
単元名	コミュニケーションと情報デザイン		
指導項目	(1) 企業活動と情報処理 ア 情報処理の重要性 イ コミュニケーションと情報デザイン ウ 情報モラル		
単元の目標	<p>(1) 表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報の正確性や真偽を正しく評価・分析している。</p> <p>(2) 表現の方法や伝え方などの工夫について、考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報をわかりやすく加工・表現し、正確に伝えられている。</p> <p>(3) 表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報の受け手側のことを考えて取り組んでいる。</p>		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報の正確性や真偽を正しく評価・分析している。	表現の方法や伝え方などの工夫について、考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報をわかりやすく加工・表現し、正確に伝えられている。	表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報の受け手側のことを考えて取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（1時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観 点	記 録	
	<p>3. コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>情報を発信するさいやコミュニケーションをとるさいに心得たい情報デザインについて理解する。</p> <p>・日常生活において、「パッ」と一目見て分かるデザインは、どんなものがあるか考え発表し、身の回りにある情報デザインについて確認する。</p> <p>・グループに分かれ、お互いにコミュニケーションを取る際に、「こんな情報デザインがあったら分かりやすい・伝わりやすい」というものを考え、発表する。</p> <p>・グループごとの発表を聞いて、それぞれどんなことを考えることができたのか、感想をまとめる。</p>	知 態	○	<p>・日常生活で身の回りにある「情報デザイン」についての具体例を挙げる活動に、他者の発表にしっかりと耳を傾け、積極的に取り組もうとしている。</p> <p>ワークシート</p>
		思	○	<p>・グループワークに積極的に参加し、自らの見識を広げようと努めている。</p> <p>評価シート</p> <p>・多様な情報デザインを考えることで、それぞれの立場で受け止める考え方や感じ方・抱える諸問題について理解を深めることができた。</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストを基に、理解できているか、どんなところでつまづいているかを確認し評価する。
- ・ワークシートを中心に学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループ活動において、意見をまとめる際に、その意見によって自分の考えがどう変化していったのか、その過程も併せて記述し、各グループが主体的な取り組みを行っているかを評価するとともに、観察シートに記述する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」において、B評価の生徒が少なく、ワークシートにおいても記述している内容が不十分な生徒が目立った。この単元に入る前に、配布した資料にもう少し興味関心が深まるような資料作成が必要だと感じた。また、グループ活動において活発な意見交換ができるように支援を指示し、意欲・関心が低い生徒に関しては、ワークシートの感想を元に、理解を深められるような授業内容の参考にした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立霧島高等学校
科目名	情報処理		
単元名	情報通信ネットワークの仕組みと構成		
指導項目	(2) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク ア コンピュータシステムの概要 イ 情報通信ネットワークの仕組みと構成 ウ 情報通信ネットワークの活用 エ 情報セキュリティの確保と法規		
単元の目標	(1) 情報通信ネットワークを構成する機器の種類や特徴、インターネットの基本的な仕組みや接続方法について理解する。 (2) ビジネスで情報通信ネットワークを利用することで、どのようなことが実現可能になるのか、具体的な事例を踏まえて表現する。 (3) 情報通信ネットワークを経由して情報システムがサービスを提供するなかで、利用者の情報を共有・蓄積・管理する方法やビジネスについて、主体的に学習する。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報通信ネットワークを構成する機器の種類や特徴、インターネットの基本的な仕組みや接続方法について理解している。	ビジネスで情報通信ネットワークを利用することで、どのようなことが実現可能になるのか、具体的な事例を踏まえて表現している。	情報通信ネットワークを経由して情報システムがサービスを提供するなかで、利用者の情報を蓄積・管理する方法やビジネスについて、主体的に学習しようとしている。

1 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 情報通信ネットワーク 情報通信ネットワークを経由して情報システムのサービスを利用していることに気付く。 ・ 日常生活で利用している事例を発表し合い、他者の意見を踏まえて具体例を整理する。 情報通信ネットワークでやりとりされる情報は、どこかで誰かが蓄積・管理するビジネスが存在することを連想する。 ・ インターネットの利便性の向上は、どうして実現できているか考察する。	態	○	・ 情報通信ネットワークを経由した情報システムサービスの内容を発表し合う中で、どのようなビジネスがあるか他者の意見を踏まえながら意欲的に発言している。 観察・ワークシート (Google Jamboard)
	2 情報通信ネットワークを構成する機器 基本的な情報通信ネットワークを構成するハードウェアとインターネットの基本的な仕組みを理解する。 ・ 身近な情報通信端末を例に、1 端末とインターネットとの通信の流れを連想し、機器の役割や機能を理解する。 ・ 同時に複数の端末との通信についても考えを巡らせることで、情報通信ネットワークの構成全体を理解する。	知	○	

第二次 (2時間)	<p>3 有線 LAN と無線 LAN</p> <p>有線と無線による LAN への接続形態の違いと無線技術の進歩について理解するとともに、ビジネスの遂行上は、機器やデータ等を共有することが大切であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの基本的な構成をもとに、ビジネスを効率的に遂行するためや生産性の向上のために、複数の端末と情報機器やデータ等をどうしたらよいか考察する。 	知	<ul style="list-style-type: none"> 社内・社外を問わずネットワークの重要性を理解している。 LAN は、有線や無線で構築できることを理解している。 無線技術の進歩について、資料を読み取り、考察している。 ビジネスを効率的に遂行するためには、機器やデータをネットワーク上でどうすることが重要であるか考察している。 <p>観察・ワークシート (Google Jamboard)</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアントが機器やデータを共有するためにはサーバが必要であることを理解している。 なぜ1台のサーバで各種の共有がでないのか、その理由を考察している。 ネットワークを構築・保守していくために、情報通信に係るビジネスの存在や役割を理解している。 <p>単元テスト</p> <p>振り返り</p>
	<p>4 LAN の種類と特徴</p> <p>基本的な LAN の構成をもとにクライアントサーバシステムを理解することで、サーバの重要性を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス上の業務データや情報機器、システムやインターネット環境を複数の端末で同時に共有するために、サーバが各種サービスを提供していることを説明し、情報通信産業の重要性や課題を理解する。 <p>* 各種の共有は、ローカルエリアネットワークよりクラウド上で行う場合が多くなった現状を生徒自身の日常生活から考察する。</p> <p style="text-align: center;">(*は進んだ学習内容)</p>	知 思	

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- 定期考査は実施せず、小テストや単元テストの解答をもとに、理解している状況を読み取って評価する。なお、単元テストは、知識を問うだけの内容とし、Web 回答形式と自動採点ツールを活用して評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- グループ学習のワークシートは、Web 上での回答をクラス全員で共有する形式で行う。LAN と WAN との間に課題(ネットワーク機器等)を追加し、グループ内の意見や説明文を加えながら、学習内容が図示できているかを評価する。
- 個人で論述する場面は、学習の資料を読み取り、知識や技術を基に思考した過程を、文章や図示を問わず周囲に分かりやすく表現しているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- グループ学習の際は、グループ内で他者の意見を踏まえながら意見や課題をまとめていく過程において、生徒の役割や取り組む様子を観察し、特徴的な点を評価して観察記録シートに記録する。
- 個人のワークシートや授業の振り返りの記述、課題に取り組んでいる状況を読み取って評価する。ただし、生徒の態度の変容や主体的に学習しようとする姿をどのように見取るか、更なる評価の工夫や改善が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況 (C評価)」の生徒については、「知識・技術」の習得が不十分であったと思われる。この単元は、まずは生徒の日常生活にとって当たり前となっているスマートフォンを活用している場面から振り返ることで、ビジネスでも業務の効率化や生産性の向上のためにネットワークや情報や機器の共有、そのためにはサーバの存在が重要であることを個別指導で理解させたい。

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況 (C評価)」の生徒については、とくにグループ学習時の役割を積極的に果たしていないと思われる。そこで個人で記述するワークシートを活用し、意見を引き出して励ますことで、生徒自身に自信をもたせるような工夫を重ねていく必要がある。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立八戸商業高等学校	
科目名	ソフトウェア活用			
単元名	ソフトウェアの重要性			
指導項目	(1) 企業活動とソフトウェアの活用 ア ソフトウェアの重要性 イ 情報通信ネットワークの導入と運用 ウ 情報資産の保護			
単元の目標	(1) 企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、活用法とその環境について理解する。 (2) 企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、企業活動の改善と関連付けて見いだす。 (3) 企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、自ら学び、企業活動の改善に主体的かつ協働的に取り組む。			
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、活用法とその環境について理解している。	企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、企業活動の改善と関連付けて見いだしている。	企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について、自ら学び、企業活動の改善に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
1 指導と評価の計画（20時間）				
時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (6時間)	1 ソフトウェアの活用 ソフトウェアが、企業活動のなかで活用されていることを理解する。 ・グループで企業活動のなかでのソフトウェアの具体的な活用法を調査し、他者の意見も聞きながら具体例をまとめる。 ・企業活動を正確かつ迅速に行う上で、企業を支えるソフトウェアの活用について基礎的な知識や、その環境について理解する。	思 知	○ ○	・企業活動に関わるソフトウェアの活用の具体例を挙げる活動に、自分の考えに加え、他者の意見もまとめながら意欲的に取り組もうとしている。 ジャムボード、観察 ・企業活動を支えるソフトウェアの活用について基礎的な知識やその環境についての知識を理解している。 ペーパーテスト（小テスト）
第二次 (8時間)	2 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 具体的なビジネスにおけるソフトウェアの活用法を考察しながら、時代に対応したソフトウェアの活用法の変化を捉える。 ・ソフトウェアの活用による時代の変化を背景にビジネスの身近な事例をあげ、活用法の変化を捉える。 ・ビジネスにおけるソフトウェアの活用をネット通販、観光ビジネス、その他のビジネスに分けて考察する。	知 思	○ ○	・時代の変化に応じたソフトウェアの活用法の動向を考察し、ソフトウェアの活用法について関心を持ち、自ら意欲的に説明しようとしている。 ワークシート、評価シート ・ビジネスにおけるソフトウェアの活用法をあらゆる視点にたって、考察している。 ペーパーテスト（定期考査）

<p>第三次 (6時間)</p>	<p>3 ソフトウェアの活用の変化と課題</p> <p>具体的なソフトウェアの活用の事例について分析や考察をしながら、時代の変化に対応した活用法の変化・課題について考察できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの活用に関連した近年のビジネスにおける活用法について分析し、クロームブックを用いて、事例を調べる。 ・ソフトウェアの活用法の変化をビジネスの視点から考察し、社会環境の変化からあげられる課題について理解し、説明する。 	<p>思 態 知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの活用について、クロームブックを活用し、活用法の変化を説明している。 ○ 観察、ワークシート、ジャムボード ・時代の変化に対応したソフトウェア活用法の変化・課題について理解している。 ○ ペーパーテスト（定期考査）
----------------------	---	---------------------------	---

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査や小テストの各設問への解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。
- ・ワークシートやジャムボードを用いて、必要な資料を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理しているかを評価する。そして、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

今日の授業で分かったこと、感想

・私たちの生活には、ソフトウェアの活用が必要不可欠になってきている。✧

・スマホ決済やスマートフォンアプリなど、普段当たり前前に使用していた携帯電話にもソフトウェアが関わっていることを知った。✧

→ 身の回りの事例を述べている。

身近なソフトウェアの活用の具体例をあげよう！！

携帯	電子決済	管理	POSシステム	エアレジ(会計)
クレジット決済	paypay	アマゾン	在庫管理	
ホームページ	アプリ	セキュリティ	ゲーム	PC
				分析

分類分けができていますか。つくりの工夫がされているか。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・思考の過程を記述できるようワークシートの形式を工夫し、具体的な課題を見いだしているかを評価する。また、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。
- ソフトウェア活用の今後の課題について

・金銭がらみでのトラブル（詐欺など）✧

・ソフトウェア開発のためのコスト✧

・知識がない人でも使えるように工夫することが難しくなるのではないかな。✧

→ あらゆる視点から課題を見いだす。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記述する。

観察シート【ソフトウェア活用】

単元名「ソフトウェアの重要性」

グループ	学籍番号	氏名	役割	メモ	評価
1班	△△△△	〇〇 〇〇	記録	丁寧にまとめていた。	A
	△△△△	〇〇 〇〇	記録	話し合いに参加していない	C
	△△△△	〇〇 〇〇	班長	班をまとめていた	A
	△△△△	〇〇 〇〇	発表		B
	△△△△	〇〇 〇〇	記録	積極的に発言	A
	△△△△	〇〇 〇〇	発表	ジェスチャーを加えて、説明	A
2班	△△△△	〇〇 〇〇	発表	内容をうまく伝えられなかった	C
	△△△△	〇〇 〇〇	記録	丁寧に的確にまとめた	A
	△△△△	〇〇 〇〇	班長		B
	△△△△	〇〇 〇〇	発表	あらゆる視点から発言していた	A
	△△△△	〇〇 〇〇	記録		B

- ・ワークシートやジャムボードの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートやジャムボードのつくりの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、ワークシートに誤答や無解答があると同時に、ビジネスに関わるソフトウェア活用法の変化やソフトウェア活用の重要性に関する記述が不十分であった。そこで、それらの生徒には、教科書等でソフトウェア活用法の変化や課題を確認させるよう促すなどの支援を行う。さらに、演習においても、適切な対応ができなかったので、授業においては演習グループ内での支援を指示するとともに、個別指導を後日行うこととした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	桐生市立商業高等学校
科目名	プログラミング		
単元名	配列の利用		
指導項目	アルゴリズム ア アルゴリズムの表現技法 イ データ構造と制御構造 ウ 変数・定数と演算 エ データの入出力 オ 条件判定と繰り返し処理 カ 配列の利用		
単元の目標	(1) プログラムの配列について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。(知識及び技術) (2) 企業活動に有用なプログラムの配列について、課題を発見し、ビジネスに携わるものとして科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等) (3) アルゴリズムについて自ら学び、適切なアルゴリズムの考案に主体的かつ協働的に取り組む。(学びに向かう力、人間性 等)		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	プログラムの配列について、体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	プログラムの配列について、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	プログラムの配列について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
1	1 配列の基礎 配列について理解するとともに、配列のアルゴリズムを適切に表現する技法を身に付ける。 ○配列について基本的なアルゴリズムの学習を通して、目的に応じた適切なプログラムを考えワークシートに記入する。	知	○	◇配列を用いたプログラムを作成している。 ワークシート、問題集
2	2 配列の集計 配列による集計のアルゴリズムについて、プログラミングの知識と技術を身に付ける。 ○配列による集計のアルゴリズムの学習を通して、目的に応じた適切なプログラムを考え、ワークシートに記入する。	知 思	○	◇配列における集計において、自ら集計するプログラムを作成している。 ワークシート、問題集
3 4	3 配列の探索 配列の探索機能を用いて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。 ○配列の探索機能のアルゴリズムの学習を通して、目的に応じた適切なプログラムを考え、ワークシートにて記入する。	知 思	○	◇配列における探索において、自ら探索するプログラムを作成している。 ワークシート、問題集

5 6	<p>4 順位付けと並び替え</p> <p>配列による順位付けと並び替えについて、目的に応じた適切なプログラムを作成し、企業活動の改善につながるプログラムの知識と技術を身に付ける。</p> <p>○配列による順位付けと並び替えのアルゴリズムの学習を通して、目的に応じた適切なプログラムを考え、ワークシートに記入する。また、企業活動の改善につながるプログラムを他の生徒と協働して考える。</p>	知	○	<p>◇添字を適切に用いて配列を利用した集計や順位付け、内部整列など応用的なアルゴリズムについて理解し、科学的な根拠に基づいてプログラムを作成している。</p> <p>ワークシート</p>
7	<p>5 配列を利用したアルゴリズム</p> <p>配列を利用したアルゴリズムについて、最適なプログラムを考えることができる。</p> <p>○配列を利用した発展的なアルゴリズムの学習について、主体的・対話的に最適なプログラムを考える。</p> <p>○振り返りシートを記入</p>	態	○	<p>◇配列のアルゴリズムを理解して、プログラムとして適切に表現し、主体的または協働的に取り組むことができる。</p> <p>アンケート集計ソフト</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

配列を利用したアルゴリズムとプログラミングについて、体系的・系列的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

配列を利用したアルゴリズムとプログラミングについて、科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

配列を利用したアルゴリズムとプログラミングについて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

個人学習の際に分からないことがあれば、自らの理解度に応じた学習方法を活用する生徒の姿が見られた。振り返りシートにおいては、自らの学習を調整しようとする側面が見られた。また、協働学習において話し合う姿が見られた。最後まで諦めずに話し合い、自身で考えても分からなかった部分について、メンバーに聞き相談するなどして、粘り強く取り組む姿が見られた。

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、問題の難易度の設定について難しすぎると、解答ができなくなってしまうため、生徒に最も適した問題を提示することが重要である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立米子南高等学校
科目名	プログラミング		
単元名	アルゴリズム		
指導項目	(2) 基本的なアルゴリズム		
単元の目標	(1) 大量の入力データから合計・件数・最大値・最小値を求める基本的なアルゴリズムと配列についての知識を理解し、技術を身につける。 (2) 企業等での実務を想定し、与えられる様々な条件に応じてアルゴリズムを変形しながら考え、科学的に課題を解決する力を養う。 (3) 実務での利便性向上や様々な条件の解決を目指して、実務的なアルゴリズムを自ら学び、主体的に取り組む態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	大量の入力データから合計・件数・最大値・最小値を求める定型的なアルゴリズムと配列についての知識を理解し、技術を身につけている。	企業等での実務を想定し、与えられる様々な条件に応じてアルゴリズムを変形しながら科学的に考察することができる。	実務での利便性向上や様々な条件の解決を目指して、実務的なアルゴリズムを自ら学び、主体的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (8時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 データの入出力と順次構造・選択構造 流れ図記号と順次構造・選択構造を理解する ・データ記号、処理記号、判断記号などの基本的な流れ図記号の役割と、順次構造・選択構造について理解する。 ・入力データと実行結果との比較から、その間にどのような処理が必要になるかを考察する。	知 思 態	○	・データ記号、処理記号、判断記号などの基本的な流れ図記号の役割と、順次構造・選択構造について理解している。 提出課題、ワークシート ・入力データと実行結果とを比較し、必要な処理を考察している。また、思考過程をまとめたりして、主体的に自らの学習を調整している。 提出課題
第二次 (6時間)	2 合計・平均・最大値・最小値と反復構造、配列 基本的アルゴリズムと反復構造、配列を理解する ・合計、平均、最大値、最小値といった基本的なアルゴリズムと、反復構造について理解する。 ・配列および添字の値を変化させての繰り返し処理について理解する。 ・企業等での実務を想定し、与えられる様々な条件に応じて基本的なアルゴリズムを組み合わせて考察する。	知 知 思 態	○ ○ ○	・合計、平均、最大値、最小値といった基本的なアルゴリズムと、反復構造について理解している。 ペーパーテスト、提出課題 ・繰り返し処理時の添字の変化について、繰り返し条件の限界値について意識しながら配列を扱う技術を身に付けている。 ペーパーテスト、提出課題 ・基本的なアルゴリズムを組み合わせて、様々な処理条件に応じたアルゴリズムを考察することができる。また、思考過程をまとめたりして、主体的に自らの学習を調整している。 ペーパーテスト、提出課題

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・提出された課題やワークシートへの記述を基に、必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・提出された課題の解答を基に、処理条件に対して科学的に思考してアルゴリズムを考えているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・提出された課題から、思考の過程をまとめるための書き込みの工夫や、授業内容をさらに発展させた課題に対して主体的に取り組む態度を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

アルゴリズムについての提出課題は、Googleスプレッドシート上に流れ図の問題および選択肢を図形オブジェクトとして貼り付けて作成している。これにより生徒が視覚的なイメージで捉えながら問題について思考させるだけでなく、教師側も誤答の場合にどのような誤答をしているのかを容易に判断できる。この課題をGoogle Classroomで出題し提出させることで、いち早く生徒の間違いに気づけるため、評価とともに考え方のヒントを付けて返却し、再提出を促す指導を行っている。また、誤答の多い問題については次の授業予定を修正し、その箇所の考え方について詳しく解説を行うことで、生徒の評価を次の授業に反映させる指導を行っている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	大分県	学校名	大分県立大分商業高等学校
科目名	ビジネス情報		
単元名	情報システムの開発		
指導項目	表計算ソフトウェアによる開発 プログラミング機能の利用		
単元の目標	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発に関する知識、技術などを基盤として、企業活動の改善に対する要求などに基づいた適切な情報システムの開発について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を処理する手順を見いだすとともに、情報システムを開発し、評価・改善すること。	情報システムの開発について自ら学び、ビジネスに関する情報を処理する適切な情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むこと。

1. 指導と評価の計画 (16時間)

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 3時間	1. システム開発の基礎 システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的知識を理解する。	知識・技術	○	問題演習
第二次 4時間	2. アルゴリズムの基礎 処理を自動化するときに処理の流れを整理するためのアルゴリズムについて、基礎的および応用的な手法を習得する。	知識・技術 思考・判断・表現	○ ○	問題演習 ワークシート
第三次 9時間	3. 表計算ソフトウェアによる開発 表計算ソフトウェアのプログラミング機能を使用し、マクロ機能を用いた開発の基礎を習得させる。マクロの記述によって、「繰り返し」や「判断」などの応用的な処理を自動化するための手法を習得する。	知識・技術 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	○ ○ ○	成果物（データ） ワークシート 行動の観察

2. 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・情報システムの開発について実務に即して理解している状況を読み取り評価する。
- ・情報システムの開発について関連する技術を身に付けている状況を読み取り評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・企業活動の改善に対する要求分析と科学的な根拠に基づいた処理手順について、考察し、取り組んでいるかを見出して評価する。
- ・情報システムを開発したこと、評価・改善することについての取り組みを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・情報システムの開発について自ら学ぶ態度を見出し評価する。
- ・情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を見出し評価する。

3. 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

関数の適切な判断と活用ができるようになってきているか、マクロ機能を利用して処理を自動化する手法を習得しているかを提出された課題を個別に評価するとともに、生徒がこれまでに学んだ知識を関連付け、実習を通してトライアンドエラーを繰り返しながら学ぶこと、さらに仕事を意識し、効率よく正確な処理の実現のためにペアで協働しながら学ぶことができるようになることを意識して指導していく。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立具志川商業高等学校
科目名	電子商取引		
単元名	第3章 ウェブデザインと広告・広報（インターネットの活用） ネットショップ商品ページの制作、ネットショップ情報の発信		
指導項目	ウェブデザインと広告・広報（インターネットの活用）		
単元の目標	(1) ネットショップの活用について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) ネットショップに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案する。 (3) ネットショップの工夫について自ら学び、商品ページの改善に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ネットショップの活用について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ネットショップに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。	ネットショップの工夫について自ら学び、商品ページの改善に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画（12時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		重点	記録	
第一次 (4時間)	1 ネットショップ商品ページの制作① 前年度のネット販売に関する振り返りと分析を行うことを通して、今年度のネットショップで扱う商品ページの制作に主体的に取り組む態度を身に付ける。 ・実習チームを編成する（今年度各店舗）。 ・前年度制作した店舗の商品ページを確認する。 ・前年度の生徒・職員の仕事アンケート分析を行う。	態		・前年度のネットショップに関する振り返りと分析を行うことを通して、今年度のネット商品ページの制作に主体的に取り組もうとしている。 OPPシート、行動観察
	2 ネットショップ商品ページの制作② [個人学習] ネットショッピングサイト各社のウェブデザインを調査し、閲覧者の興味を引く商品ページを考案する。 ・他のネットショッピングサイト（Yショッピング・楽天市場など）を閲覧し、キャッチコピー、掲載画像、商品説明などを比較する。 ・自店舗の商品の商品ページについて、役割ごとにキャッチコピー、商品画像、商品説明文を検討する。	思		・閲覧者の興味を惹きそうな商品ページについて、その特徴を理解し、自店舗で制作する商品ページに生かそうと具体的に検討している。 ワークシート、OPPシート
	3 ネットショップ商品ページの制作③ [グループワーク] グループワークを通して各店舗の商品販売のページ構成を考案する。 ・各店舗の商品ページをどのように制作するか、前時に検討した個人の案をグループで出し合う。 ・キャッチコピー、商品画像、商品説明文などの商品ページの構成要素についてグループワークで討論を深め、店舗ごとに商品ページプランを考案する。	思 態	○ ○	・商品ページの構成要素（商品名、商品画像、商品説明文など）について、理由つけて考案することができている。 ワークシート、OPPシート ・より良い商品ページの制作について自ら学び、他者の意見を調整しながら、協働的に取り組もうとしている。 ワークシート、OPPシート
	4 ネットショップ商品ページの制作④ 各店舗の商品ページを制作することができる。 ・各店舗の商品ページを制作する（キャッチコピー、商品画像、商品説明文）。	知	○	・商品ページについて、各要素の特徴を理解し、見やすく・分かりやすく制作できている。 実習成果物（商品ページ）
ネット販売期間開始（11月1日～）※予定				
第二次 (2時間)	5 ネットショップ情報の発信① 効果的な情報発信について理解し、前年度の分析をする。 ・前年度の広報活動を振り返り、情報発信の手段や効果について分析する。	知		・新聞やSNSなどを利用した前年度の広報活動を振り返り、その手段や効果について評価することができる。 ワークシート
	6 ネットショップ情報の発信② 効果的な情報発信方法について考える。 ・各店舗のマーケットターゲットを捉え、想定される消費者の年代や性別に応じた媒体選びなど、効果的な情報発信方法について個人またはグループで検討する。	思		・予想される消費者の年代や性別などの特性に応じて認知を高めるためにどのような媒体の活用がより効果的か具体的に考案している。 ワークシート

第三次 (3時間)	7 ネットショップ商品ページの分析・改善① ※販売開始1週間後 【個人学習】 販売開始1週間の注文数、アクセスデータを分析し、注文やアクセスを増加させるための改善策を考案する。 ・各店舗の商品ページのアクセス数と注文数を確認し、商品ページの課題の分析と改善点を検討する。	思 態		・具デパネットショップに関する販売開始後の課題について考察し、改善策を考案している。 ワークシート、OPPシート
	8 ネットショップ商品ページの分析・改善② 【グループワーク】 具デパネットショップ販売開始後の課題を考察し、アクセス数や注文数を増加させるための改善策を考案する。 ・各店舗の商品ページをどのように改善するか、前時に検討した個人の案をグループで出し合う。 ・キャッチコピー、掲載画像、商品説明等についてグループワークで考察を深め、店舗ごとに商品ページ改善プランを考案する。 ・具体的にどのように商品ページを改善するのか、その改善プランについて発表を行う。(数店舗)	思 態	○ ○	・具デパネットショップに関する販売開始後の課題について考察し、改善策を考案している。 ワークシート、OPPシート ・具デパネットショップに関する販売開始後の課題の考察と改善策の考案について、自分の意見を調整しようとしている。 ワークシート、OPPシート 行動観察
	9 ネットショップ商品ページの分析・改善③ 【グループワーク】 各店舗の商品ページを工夫して改善・修正することができる。 ・店舗ごとで、前時までに考案した改善案をもとに商品ページを修正する。	知	○	・より閲覧者の立場に立ったウェブページになるよう、商品ページを修正できている。 実習成果物(ウェブページ)
ネット販売期間終了				
第四次 (3時間)	10 【事後学習】具デパネットショップの振り返り① 具デパネットショップに関するアクセス情報の収集と分析を行うことを通して、一連の取り組みを検証する。 ・今年度の各店舗で取り扱った商品の販売数とアクセス数等を記録する。 ・販売開始1週目と3週目のアクセスデータについて、ウェブページの改善により変化があったか比較する。	態		・一連のネットショップの取り組みを振り返り、データの収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 行動観察、発表資料
	11 【事後学習】具デパネットショップの振り返り② 具デパネットショップに関するアクセス情報の収集と分析を行うことを通して、一連の取り組みを検証する。 ・前時の記録をもとにして、今年度の取り組みを振り返り、発表資料を制作する。	態		・次回以降の取り組みに生かすことができる資料の制作に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 行動観察、発表資料
	12 【事後学習】具デパネットショップの振り返り③ 今年度の各店舗の取り組みと工夫について発表することで、科目の学びを今後に生かす。 ・店舗ごとに今年度のネットショップに関する取り組みや工夫した点について発表し、レポートにまとめる。 ・事後アンケートを行う。	知 態	○ ○	・ネットショップの合理的な活用の方法について理解できている。 ・一連の取り組みで学んだことを、次年度以降の取り組みや自分の将来に生かそうとしている。 発表資料、レポート

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

ネットショップの活用について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

ネットショップに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

ネットショップの工夫について自ら学び、商品ページの改善に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、アクセスデータの見方を示し、課題や改善点を確認させる。

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、改善に取り組むための着眼点を助言する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎商業高等学校
科目名	A I ・データサイエンス演習 I (学校設定科目)		
単元名	第5章 需要予測 RESAS データによる回帰分析		
指導項目	・Python 言語 ・RESAS (地域経済分析システム)		
単元の目標	(1) RESAS から得られるデータを理解するとともに、Python における分析結果を活用する技術を身に付ける。 (2) RESAS から得られるデータについて Python を活用し、科学的な根拠に基づいて分析結果と関連付けて課題に対応する。 (3) RESAS から得られるデータについて Python を活用し、必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	RESAS から得られるデータを理解するとともに、Python における分析結果を活用する技術を身に付けている。	RESAS から得られるデータについて Python を活用し、科学的な根拠に基づいて分析結果と関連付けて課題に対応している。	RESAS から得られるデータについて Python を活用し、必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 指導と評価の計画 (12 時間)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
第一次 (3 時間)	RESAS からデータを収集する RESAS の基本的な使い方を学び、必要なデータを収集する ・RESAS とは何かを主体的に学ぶ ・RESAS の使い方を学ぶ ・グループ (2 人) で必要なデータを RESAS から取得し、CSV データを作成 [留意点] 今回使う RESAS のデータはダウンロードできないので、excel で web 見ながら収集する。	態 知	○	・RESAS について主体的に学ぼうとしている。 観察 ・取得したデータを加工し CSV ファイルにしている。 PC データ
第二次 (5 時間)	単回帰分析・重回帰分析 Python により単回帰分析と重回帰分析を行い、予測について学ぶ。 [留意点] Google Colaboratory を利用して実装していく。Colaboratory のインストールをチェックする。 ・RESAS から収集したデータを python にて読み込み ・データの可視化と予測モデルの構築 ・単回帰モデルによる予測 ・重回帰分析 [留意点] 重回帰分析をする際、サンプルコードがないため、そこを考えられるかを重視する。 ・重回帰のモデル生成 ・予測 [留意点] 予測した数値が手許資料と一致するか確認する。	態 思	○ ○	・傾き、切片、スコア (決定係数) が手許資料一致するかを確認する。 観察・ワークシート ・予測数値が手許資料と一致するか確認する。また、粘り強く課題に取り組もうとしている。 観察

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第三次 (4時間)</p>	<p>予測モデルのアプリ化</p> <p>予測モデルをアプリ化し、予測をする事で何が分かるのかを考察する。</p> <p>[留意点] VSCode では実装する。</p> <p>・モデル生成とファイル化</p> <p>[留意点] 環境復元ソフトが入っているため、pandas や sklearn をインストールする必要がある。</p> <p>・GUI アプリ化</p> <p>・グループ (4 人) で RESAS より違う地点のデータを収集しその地点について GUI によるアプリ化で学んだ事を活かし関係性を考察する。</p>	<p>知</p> <p>態</p> <p>思</p> <p>思</p> <p>態</p>	<p>・収集したデータを説明変数として追加している。</p> <p>PC データ</p> <p>・粘り強く学ぼうとしている。</p> <p>観察</p> <p>・予測で出た結果を関連付けて考察している。</p> <p>作品制作</p> <p>○</p> <p>・決定係数から関連性を考察する。</p> <p>ワークシート</p> <p>○</p> <p>・レポートにて考察した内容を確認する</p> <p>自己評価 (補助資料)</p>
--	--	--	---

2 主な評価方法や留意点について

(1) 「知識・技術」の評価

- ・定期考査を行っていないので、Googleform を活用して、各単元テストの解答を基に、理解している状況を読み取り評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の評価

- ・RESAS で学んだ知識・技術の内容を関連付けて2地点の需要予測モデルを考え、具体的な課題を見いだしているかを評価する。
- ・決定係数から関連性を考察する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・グループで協力し意見を交換して、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、粘り強くエラーメッセージを解消しようとしているか、観察シートに記述する。
- ・振り返りシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。その際、生徒の変容を捉えることに重点をおきたい。そのため、授業の前後で生徒の意識や考え方等がどのように変化したのかが分かるようなワークシートのつくりの工夫が必要である。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒は、プログラミングの本質的な部分の理解が不十分な所もあると考える。実習教師と協力しながら個別指導等の支援を徹底したい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	富山県	学校名	富山県立富山北部高等学校
科目名	課題研究		
単元名	卒業制作		
指導項目	ア 研究テーマ案の検討、設定 イ マーケティングリサーチ ウ 中間報告会 エ 中間プレゼンテーション オ コンセプトの設定 カ コンセプトの設定 キ デザインの展開 ク ディスプレイの検討 ケ 北高展での展示発表・最終プレゼンテーション		
単元の目標	(1) 卒業制作について発想・計画・立案・プレゼンテーションの過程について理解するとともに、制作に関連する技術を身に付ける。 (2) 富山(富山県)の観光に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題を解決する。 (3) 富山の観光に関する課題解決を目指して自ら学び、企画・提案に主体的かつ協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	卒業制作について発想・計画・立案・プレゼンテーションの過程について理解するとともに、制作に関連する技術を身に付ける。	富山の観光に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を論理的に考案している。	富山の観光に関する課題解決を目指して自ら学び、企画・デザイン提案に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
1 指導と評価の計画(10時間)			
時間	ねらい・学習活動	評価 観点 記録	評価規準・評価方法
第一次 (3時間)	1 研究テーマ案の検討、設定 卒業制作における発想・計画・立案の過程について理解する。 ・「富山」をテーマにして富山の観光に着目し、地域の特色を活かした地元の企業の事業開発・店舗開発・商品開発、地域の現状の改善、C I・V I、ブランドデザインについて設定するための知識と技術を身に付ける。	知 ○	・観光ビジネスに関する基礎的な知識を理解している。 ・アイデア創出の過程について理解するとともに関連する技術を身に付けている。 ワークシート
第二次 (5時間)	2 マーケティングリサーチ 富山の観光に関する課題を発見し、対応策を考案する。 ・マーケティングの知識や技術を活用し、情報収集と分析を行う。 ・富山の観光ビジネスに関する調査結果を基に課題を設定し、課題解決のための企画を提案し、レポートを作成する。	知 思 ○	・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト) ・富山の観光ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を論理的に考案している。 ワークシート、レポート
第三次 (2時間)	3 中間プレゼンテーション 課題の設定や考案した企画の提案について、根拠に基づいて論理的に表現する。 ・考案した企画の内容とデザイン展開についてプレゼンテーションを行う。 ・他の生徒の提案について、実現性につながる発展的なアドバイスを行う。	態 ○	・富山の観光に関する課題解決を目指して自ら学び、企画の提案に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 アドバイスシート、評価シート
2 主な評価方法や留意点について			

(1)「知識・技術」の評価

- ・観光ビジネスやマーケティングに関する小テストの各設問への解答を基に、理解している状況の評価する。
- ・ワークシートを用いて、発想・計画・立案の過程について理解しているとともに、制作に関連する技術が身に付いているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・富山の観光に関する課題を発見し、マーケティングの手法を活用して分析し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案しているかを評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・中間プレゼンテーションでは、他者の意見を聞き、自分の考えを調整しながら提案内容を深めようとする態度を評価する。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

「思考・判断・表現」について、「おおむね満足できる」状況であるB評価を「富山の観光に関する課題を発見し、地域の特色を活かした課題への対応策を論理的に考案しており、おおむね表現している」と設定した。

また、判断の目安を「取り組んだ課題を解決に導く方法について、地域の特色が活かされており、自分なりの考えを記述している」と設定した。

企画提案のレポートを通して、調査から実態を把握し、考察後に自分なりのアイデアを出しており、論理的な流れができていたものをB評価とした。また、地域の特色が活かされているが、実現性のある提案として十分に表現しているとまでは言えないと判断したのもB評価とした。B評価の生徒がさらにA評価の資質・能力が身に付けられるよう、事業計画の立案過程に沿って不足している要素を補うなど助言を行った。

「十分満足できる」状況であるA評価は、B評価に加えて「課題への対応策を論理的に考案しており、独創性や根拠を示して十分に表現している」とした。また、判断の目安を「地域の特色が活かされており、実現性のある提案として十分に表現している」と設定した。

企画提案に根拠が示され、レポートの全体を通して論理的な流れができており、「地域の特色が活かされており、実現性のある提案として十分に表現している。」と判断できるものをA評価とした。A評価の生徒の提案についてビジネスとしての実現性をさらに高めるために、収益性やデザイン展開とプロモーション等の視点について助言を行った。

「努力を要する」状況であるC評価は、「富山の観光に関する課題を見いだすことができず、考察することができない」と設定した。また、判断の目安を「取り組んだ課題を把握することができず、解決に向けて作品制作を進めることができない」と設定し、手立てとして、「調査レポートにコメントを記入して活用し、個別指導を通して再考させる」とした。

ワークシートやレポートに必要な調査内容が記入されておらず、論理的な流れが不足し、記述が乏しいため改善を図る手立てが必要と判断したものをC評価とした。手立てとして、レポートに必要な要素を理解してもらうためのコメントを記入して返却することにより、必要な事柄に気づかせるとともに、記述の仕方について直接説明して指導した。また、既存の企画やビジネスを富山に置き換えてアレンジしてみることを助言した。

卒業制作をテーマとした創造的な学習においては、「思考・判断・表現」の資質能力の向上が今後の提案内容を深め成果物のクオリティーの向上につながる。そのため、評価結果を活用し、支援したい能力について、ねらいをもって助言する。

課題研究 調査レポート (30枚程度) 北高展で提示

- 各項目について調査し、レポートにまとめる
- ・各項目はメンバーで分担し、協力してまとめること。

- 1 研究の背景
 - ①富山県とは・富山県の観光
 - ②他県との比較(類似点・相違点)
 - ③富山県の観光の現状と課題点
- 2 研究の目的
 - ①研究テーマ(主題・副題など)
 - ②研究テーマ設定理由(動機・なぜそのテーマをあげて取り組もうとしているのか、その理由*1-③を踏まえて述べる)
- 3 研究の手法
 - ①研究目標(何を目指すのか)
 - ②ターゲット(どの年代か?)
 - ③コンセプト(ねらい)
 - ④研究内容(具体的にどのような調査・行動・制作をするのかすべて書く)
- 4 調査研究
 - ①調査・わかったこと(テーマについて調べるべきことをすべてあげる。また、他の研究例として、研究テーマ内容についての全国での取り組みやれいがあれば記載)
 - ②分析・考察(調査したことについて何がわかったか、どういうことが言えるか)
 - ③提案(構想・アイデアを列挙)
 - ④行動・制作(行ったことを具体的に)
 - ⑤結果・効果(行動して得られたことを具体的に)
 - ⑥考察・まとめ(③~⑤をやってみてわかったこと・解釈を述べる。他者の意見と自分の意見を述べ、客観的に考察し、今後の検討を行う。)
- 5 結論
 - 最終的な論文を要約し、強調したい点をまとめる。
- 6 課題・展望
 - これから必要とされる検討課題。
 - 翌年以降、今後研究を継続するとしたら、何が必要かまとめる。

- 参考文献
- ・雑誌からの引用: 著者名・題名・文献名・巻・ページ(年号)
 - ・本からの引用: 著者名・本の題名・版・ページ(年号)・出版社・その所在地
 - ・HPからの引用: URL・HPのタイトル・アクセス日時
 - ・研究を行うにあたって支援を受けた団体、個人的に話を聞いた人などをあげる。

レポートの内容

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立愛知商業高等学校
科目名	地域協働ビジネス実践（学校設定科目）		
単元名	多面的視点からの企業評価		
指導項目	(1) 企業グループの現状把握 ア 有価証券報告書の活用 イ 多面的視点からの企業評価 ウ 地域企業の企業評価		
単元の目標	(1) 財務諸表分析や有価証券報告書を活用した企業分析について理解する。 (2) 多面的・多角的に企業分析を行い、投資の意思決定を下すことができる。 (3) 負債の在り方について理解し、単一的な分析ではなく、多面的に分析することができる。 (4) 他者の発言によって自己の意見を再構築し、再度全体で共有するなど、組織の一員として課題解決へ向け、主体的・協働的に取り組む。		
単元の評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・財務諸表分析や有価証券報告書を活用した企業分析について理解している。 ・既知の知識を実践的に活用する技術を有している。	・多面的・多角的に企業分析を行い、投資の意思決定を下すことができている。 ・負債の在り方について理解し、単一的な分析ではなく、多面的に分析することができる。	・他者の発言によって自己の意見を再構築し、再度全体で共有するなど、組織の一員として課題解決へ向け、主体的・協働的に取り組んでいる。

1 指導と評価の計画（6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第一次 (2時間)	1 有価証券報告書と企業分析 有価証券報告書から財務諸表分析及び、非財務情報を用いた企業分析方法を理解する。 ・有価証券報告書内の財務諸表を活用した分析方法を理解する。 ・企業理念、中長期戦略、対処すべき課題など有価証券報告書内の非財務情報を用いた企業分析方法を理解する。また、SDGsの視点からも分析をする。	知態 思態	○ ○	・企業の実際の財務諸表を用いて財務諸表分析ができる。 アサインメント、小テスト ・非財務情報における企業分析の必要性とその方法を理解している。 アサインメント
第二次 (2時間)	2 投資の意思決定①（ケース・メソッド） 有価証券報告書を用いた投資の意思決定 財務状態が大きく異なる実在する2社の有価証券報告書を分析し、多面的・多角的に企業を評価し、自己の意見を構築する。 ・有価証券報告書内の財務諸表を活用し、実在する2社を分析し、意思決定の資料を作成する。 ・有価証券報告書の非財務情報を活用し、実在する2社を分析し、意思決定の資料を作成する。 ・財務諸表分析及び非財務情報から作成した資料を基にグループ内及び全体の意見共有により、投資の意思決定を行う。	知思 思態	○ ○	・有価証券報告書を活用して投資の意思決定に必要な資料を作成することができる。 アサインメント ・財務諸表分析と非財務情報を活用して企業を分析し、それをグループや全体の意見共有を通じて他者に伝達することができる。 ケース・メソッド

時間	ねらい・学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第三次 (2時間)	<p>3 投資の意思決定② (ケース・メソッド) 成長企業による負債の在り方と社会情勢</p> <p>・負債を多角的に分析し、企業が成長するための負債の在り方と利点を考察するとともに、様々な企業情報や社会情勢も踏まえ意思決定ができる能力を習得する。</p> <p>・負債を抱えることで生じる利点について考察し、グループ内及び全体の意見共有を行い、前時実施した財務情報の分析と組み合わせ、総合的な意思決定を行う。</p> <p>・既習の学習内容に加え、内部留保やキャッシュフロー分析、社会情勢も加味し、多面的な角度から企業を分析し、最終的な投資の意思決定を行う。</p>	思 態	○	<p>・負債による財務レバレッジ、節税効果、信用、配当金と支払利息の資本コストの違いについて自己の意見を構築し、他者に伝達することができる。</p> <p>ケース・メソッド</p>
		思 態	○	<p>・多面的、多角的に企業評価することの重要性を理解し、自己の意見を再構築することができる。</p> <p>ケース・メソッド</p>
		知 思	○	<p>・社会的な問題と今回のケースをリンクさせ、社会の変化によって必要な企業体質が異なることを理解している。</p> <p>リフレクションシート</p>

2 主な評価方法や留意点について

(1)「知識・技術」の評価

- ・アサインメントや小テストでの各設問の解答を基に、科目「財務会計Ⅰ」で学習した財務諸表分析の学習内容が定着しているかを評価する。
- ・アサインメントにおいて有価証券報告書の非財務情報を活用し、投資の意思決定に必要な情報を整理することができるかを評価する。
- ・リフレクションシートにおいて社会構造の変化によって必要な企業体質が異なること、多面的に企業評価を行う必要性を理解しているかを評価する。

(2)「思考・判断・表現」の評価

- ・アサインメントにおいて、財務情報と非財務情報の双方からの情報を整理し、投資の意思決定について自己の意見を構築することができるかを評価する。
- ・ケース・メソッドにおいて、負債を多角的に分析し、企業が成長するための負債の在り方と利点を考察するとともに、様々な企業情報や社会情勢も踏まえ意思決定ができているかを評価する。
- ・ケース・メソッドにおいて、多面的、多角的に企業評価することの重要性を理解し、自己の意見を再構築することができるかを評価する。
- ・教員は参加者全員が意見共有しやすい雰囲気づくりを最優先に行う。
- ・個人の意見を尊重するとともに、出された意見から更に議論を深めるような発問をする。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・アサインメントにおいて、企業を多面的、多角的に分析し、自己の意見を構築しようとする態度を評価する。
- ・ケース・メソッドにおいて、他者の発言によって自己の意見を再構築し、再度全体で共有するなど、組織の一員として課題解決させる態度を評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、アサインメント、グループ内及び全体の意見共有、他者評価、リフレクションなど幅広い観点から評価を行う。

3 生徒の学習改善や教師の指導改善に対する評価結果の生かし方について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する状況」(C評価)の生徒はアサインメントやリフレクションシートにおいて自己の意見を構築できていないため、有価証券報告書の活用方法と多面的に企業評価を行う必要性について理解ができるように支援を行い、自己の意見を再構築させる。
- ・教員の指導改善については生徒のリフレクションとアンケートを基に改善を図る。アンケートは記述の項目を設け、内容の理解とともに、生徒が意欲的に学びたいと感じる内容であったかを考察する。

おわりに

平成30年に改訂された高等学校学習指導要領により、学習評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理されるとともに、指導と評価の一体化が強く求められることになりました。これを受けて学習評価に観点別評価が導入され、各学校とも実施に向けて試行錯誤を繰り返しているものと思われます。

商業教育対策委員会では、令和5年度春季研究協議会の本部提案において観点別評価の実施状況について調査・分析しました。秋季研究協議会では、観点別評価とそれに基づく指導と評価の一体化について実践事例を集め、各校の具体的な取り組みを共有することで、各校での取り組みをさらに深めることを目指しています。事例の収集にあたり、関係の先生方には多大なるご尽力をいただきました。ありがとうございました。

現在、わが国では少子高齢化が進み、子どもだけでなく総人口が減少する社会を迎えています。そうした中でウェルビーイングの考え方が徐々に浸透し、一人一人が豊かで安定した生活ができる社会の実現が求められています。

社会が急速に変化する中で、学校教育に求められる役割もまた急速に変化し、さまざまな課題が浮かび上がってきています。その一つが今年度取り上げた「学習の成果をどのように測るか」という評価の問題であり、これは突き詰めれば「どのような能力を育成すべきか」という学習の目的と表裏の関係にあります。

商業教育という視点からみると、全国的に入学希望者が減少し、あるいは履修希望者が減少している現実があります。社会が大きく変化していく中で商業教育において育成すべき能力はどのようなものなのか、さらに言えば、高等学校における商業教育は何のために必要なのか、という根源的な問いに行きついていると断言することができるかもしれません。

このような大きな課題は、一つの学校で抱えきれるものではなく、とはいえ他方では一つの学校や一つの授業における取り組みから始め、そして全国の叡智を集めてよりよい解決策を見出していくことが必要になります。

今回のテーマである「学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習状況の評価の実施について」はわれわれが抱える多くの課題のうち目前に迫った一つです。本冊子が各学校の実践をより充実させるために有益であることを願います。

また、今後顕在化するさまざまな課題についても、引き続き全国で情報を共有し、あるいは議論し、解決策を見出していくことで商業教育の一層の充実発展に資することを全国の先生方をお願いして、巻末の挨拶といたします。

本部提案テーマ年度別一覧

昭和60年 5月	理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和60年10月	理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和61年 5月	企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて—
昭和61年10月	就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて—
昭和62年 5月	商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和62年10月	生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和63年 5月	教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて—
昭和63年10月	将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年 5月	時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年10月	高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる一問一答集—
平成2年 5月	問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究」の研究と実践の推進—
平成2年10月	高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成3年 5月	21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成3年10月	21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成4年 5月	生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成4年10月	新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成5年 5月	商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成5年10月	商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として—
平成6年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成6年10月	進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想—
平成7年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成7年10月	高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成8年 5月	社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成—
平成8年10月	社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成9年 5月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成9年10月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育—
平成10年 5月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について—
平成10年10月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成11年 5月	社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—
平成11年10月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成12年 5月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—

平成12年10月	就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成13年 5月	21世紀における商業教育—大学から見た商業教育—
平成13年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学—
平成14年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像—
平成14年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革—
平成15年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育—
平成15年10月	21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える—
平成16年 5月	全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度—
平成16年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)—
平成17年 5月	21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える—
平成17年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ—
平成18年 5月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成18年10月	学習指導要領改訂への提言
平成19年 5月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成19年10月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし
平成20年 5月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成20年10月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成21年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成21年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成22年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成22年10月	新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成23年 5月	キャリア教育の現状と課題について
平成23年10月	キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して—
平成24年 5月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して—
平成24年10月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし
平成25年 5月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して—
平成25年10月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して—
平成26年 5月	全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度—
平成26年10月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ—
平成27年 5月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅡ—
平成27年10月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成28年 5月	学習指導要領改訂への提言
平成28年10月	地域創生に資する商業教育の在り方について
平成29年 5月	地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ —次世代の商業教育に向けて—
平成29年10月	グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について—次世代の商業教育に向けて—
平成30年 5月	グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ—次世代の商業教育に向けて—
平成30年10月	商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成
令和 元年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて—教科商業科に関する一問一答集—
令和 元年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて—新学習指導要領実施に向けた先進事例集—
令和 2年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題 —魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて—

- 令和 2 年 1 0 月 魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて
—新学習指導要領に基づく教育課程編成例—
- 令和 3 年 5 月 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う研究協議会中止のため本部提案なし
新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題
—Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために—
- 令和 3 年 1 0 月 社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて
—Society5.0時代の新しい商業教育の実践例—
- 令和 4 年 5 月 I C Tを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題
—全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—
- 令和 4 年 1 0 月 魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して
—個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例—
- 令和 5 年 5 月 学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の在り方
—探究活動及び観点別学習状況の評価の推進を通して—

商業教育対策委員会

令和5年度

1. 委員長	山本俊之	県・水戸商
2. 副委員長	石山智典	都・大田桜台
3. 委員	海老沼正	県・水海道第二
4. "	渡邊聡	県・坂東清風
5. "	柳田昌臣	県・栃木商
6. "	見木孝	県・佐野松桜
7. "	根岸卓	県・伊勢崎商
8. "	新井秀明	県・深谷商
9. "	野口剛志	県・越谷総合技術
10. "	出井孝一	県・幸手桜
11. "	鈴木栄次	県・千葉商
12. "	森豊巳	県・君津商
13. "	石原和也	県・塩山
14. "	山田和人	都・第三商
15. "	相田誠一	都・第五商

学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習状況の評価の実施について
— 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する事例 —

発 行 令和5年9月25日
発行編集 全国商業高等学校長協会
商業教育対策委員会
〒160-0015
東京都新宿区大京町26番地
T E L 03-3357-7911
F A X 03-3341-1039